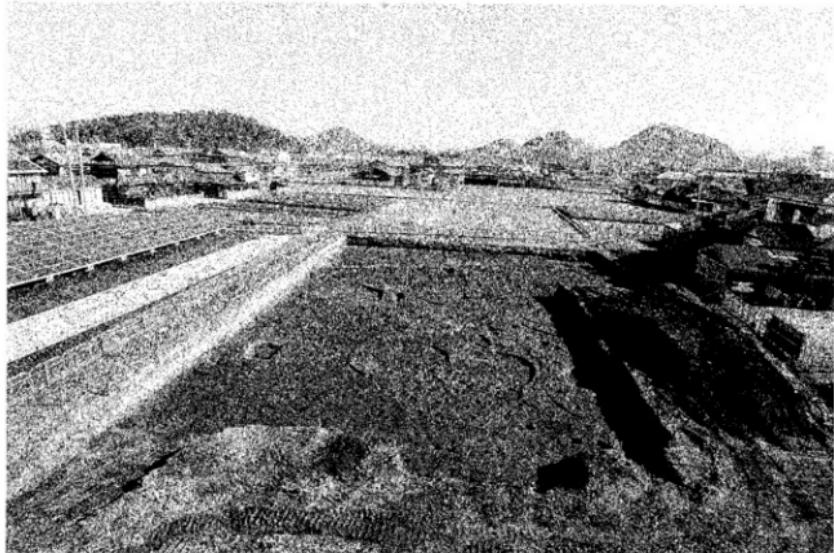


大野地区統合保育所用地埋蔵文化財発掘調査報告書

北口遺跡

2017年3月

高松市教育委員会



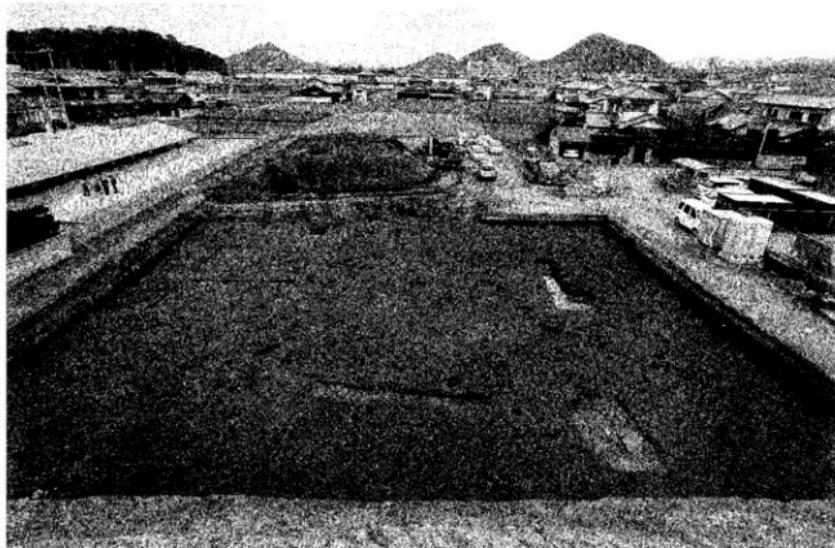
1・2区 第2面 完掘状況（西から）



SD 2-1 完掘状況（北東から）



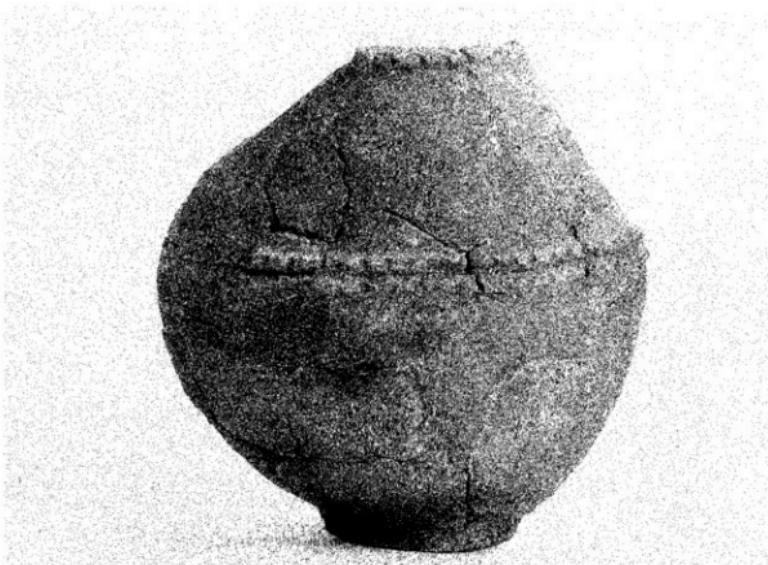
3区 第1面 完掘状況（西から）



3区 第2面 完掘状況（西から）



SD 2-1 出土土器



S D 2 - 1 出土土器



S D 2 - 1 出土土器

例　言

- 1 本書は大野地区統合保育所用地埋蔵文化財発掘調査報告書であり、高松市香川町大野に所在する北口遺跡の調査報告を収録した。
- 2 発掘調査地及び調査期間、調査面積は次のとおりである。

調査地　　高松市香川町大野
調査期間　平成 26 年 10 月 29 日～平成 27 年 2 月 12 日
調査面積　1,632 m²
- 3 発掘調査及び整理作業は、地方自治法第 180 条による補助報行により、高松市創造都市推進局文化・観光・スポーツ部文化財課文化財専門員 小川賢及び同非常勤嘱託職員 中西克也、杉原賢治が担当した。
- 4 本報告書の執筆・編集は中西が担当した。
- 5 発掘調査で得られた資料は高松市教育委員会が保管している。

凡　例

- 1 本報告書の挿図として、国土地理院発行 5 万分の 1 「高松」、高松市都市計画図 2 千 5 百分の 1 「高松市街地」を一部改変して使用した。
- 2 標高は東京湾平均海面高度を基準とし、座標は国土座標第 IV 系（世界測地系）、方位は座標北を表す。
- 3 本報告書で用いる遺構の略号は次のとおりである。

S B : 挖立柱建物　　S D : 溝　　S K : 土坑　　S I : 竪穴建物状遺構　　S P : 柱穴
S X : 性格不明遺構
- 4 挿図の縮尺は、遺構の平・断面図が 1/40、1/80、出土遺物の実測図は土器・土製品が 1/4、石製品が 1/2 を基本とする。
- 5 発掘調査のうち、掘削業務をイクセイ建設興業㈱に、測量業務を株式会社四航コンサルタントに委託した。整理作業のうち、遺物の写真撮影業務を西大寺フォトに委託した。
- 6 土層及び土器観察の色調表現は、『新版 標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）に據る。
- 7 報告書は図化した遺物が出土した遺構を中心に記述しており、記述していない遺構は文末に記載した第 1 表 遺構表に規模等を表記する。
- 8 第 2 表 遺物観察表の法量のうちで、() は復元値、[] は残存値である。

本文目次

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯.....	1
第2節 調査の経過.....	1

第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境.....	2
第2節 歴史的環境.....	2

第3章 発掘調査の成果

第1節 調査概要.....	4
第2節 遺構と遺物.....	9

第4章 まとめ

第1節 遺構の変遷と集落構造.....	55
第2節 前期弥生土器について.....	58
第3節 高松平野の弥生時代前期の遺跡.....	60
第4節 香川における環濠集落.....	63

挿図目次

第1図	北口遺跡位置図	1	第30図	S A 2 - 2・3 平・断面図	28
第2図	高松平野における北口遺跡の位置	2	第31図	S A 2 - 4 ~ 6 平・断面図	29
第3図	北口遺跡周辺の遺跡分布図	3	第32図	S K 2 - 1・2 平・断面図	29
第4図	調査区北壁土層図	5	第33図	S K 2 - 7・8・10 平・断面図	30
第5図	調査区東壁・西壁土層図	6	第34図	S K 2 - 14・15・17・18 平・断面図	31
第6図	第1面遺構平面図	7 ~ 8	第35図	S K 2 - 19 平・断面図、遺物実測図	31
第7図	S B 1 - 1 平・断面図、遺物実測図	9	第36図	S K 2 - 20 ~ 25 平・断面図	32
第8図	S B 1 - 2 平・断面図	10	第37図	S K 2 - 26・28・30 平・断面図	33
第9図	S B 1 - 3 平・断面図、遺物実測図	11	第38図	S D 2 - 1 平・断面図	35
第10図	S D 1 - 1・2 断面図、遺物実測図	12	第39図	S D 2 - 1 遺物実測図 (1)	36
第11図	S D 1 - 3・4 断面図、遺物実測図	13	第40図	S D 2 - 1 遺物実測図 (2)	38
第12図	S K 1 - 1 平・断面図	13	第41図	S D 2 - 1 遺物実測図 (3)	40
第13図	S X - 1 ~ 3 平・断面図、遺物実測図	14	第42図	S D 2 - 1 遺物実測図 (4)	41
第14図	第1面出土遺物実測図	14	第43図	S D 2 - 1 遺物実測図 (5)	42
第15図	第2面遺構平面図	15 ~ 16	第44図	S D 2 - 1 遺物実測図 (6)	43
第16図	S I 2 - 1 平・断面図	17	第45図	S D 2 - 1 遺物実測図 (7)	44
第17図	S I 2 - 2 平・断面図	18	第46図	S D 2 - 1 遺物実測図 (8)	45
第18図	S I 2 - 3 平・断面図	18	第47図	S D 2 - 1 遺物実測図 (9)	47
第19図	S I 2 - 4 平・断面図	19	第48図	S D 2 - 1 遺物実測図 (10)	48
第20図	S I 2 - 5 平・断面図	20	第49図	S D 2 - 1 遺物実測図 (11)	50
第21図	S I 2 - 6 平・断面図	20	第50図	S D 2 - 1 遺物実測図 (12)	51
第22図	S I 2 - 7 平・断面図	21	第51図	S D 2 - 2 ~ 4 平・断面図	53
第23図	S I 2 - 8 平・断面図	22	第52図	S X 2 - 1 平・断面図、遺物実測図	53
第24図	S I 2 - 9 平・断面図	22	第53図	S X 2 - 4 ~ 6 平・断面図	53
第25図	S I 2 - 10 平・断面図	23	第54図	第2面出土遺物実測図	54
第26図	S I 2 - 11 平・断面図	24	第55図	遺構変遷図	56
第27図	S B 2 - 1 平・断面図	25	第56図	S D 2 - 1 出土の前期弥生土器	59
第28図	S B 2 - 2 平・断面図	25	第57図	高松市における弥生前期遺跡分布図	61
第29図	S A 2 - 1 平・断面図	27	第58図	香川の聚落分布図	64

挿表目次

第1表	高松市における弥生前期遺跡一覧	62
第2表	香川の聚落一覧	64
第3表	遺構表	68
第4表	遺物観察表	72

卷頭図版目次

図版1	1・2区第2面完掘状況（西から）	図版3	S D 2 - 1 出土土器
	S D 2 - 1 完掘状況（北東から）	図版4	S D 2 - 1 出土土器
図版2	3区第1面完掘状況（西から）		S D 2 - 1 出土土器
	3区第2面完掘状況（西から）		

写 真 図 版 目 次

図版 1	1・2区第1面完掘（南東から） 1・2区第1面完掘（西から） 3区第1面完掘（東から） 1・2区第2面完掘（南東から） 1・2区第2面完掘（西から） 3区第2面完掘（東から） 3区第2面完掘（北西から） S I 2-1～3完掘（西から）	図版 5	S B 2-1 P 3土層 S B 2-2 P 8上層 S B 2-2完掘（東から） S A 2-2 P 1土層 S B 2-1完掘（南から）
図版 2	1・2区北壁土層 1・2区北壁土層 3区北壁土層 1区東壁土層 3区西壁土層 S B 1-1完掘（西から） S B 1-2完掘（南から） S B 1-3完掘（南から）	図版 6	S D 2-1土層（南から） S D 2-1土器出土 S K 2-19完掘（西から） S K 2-22～24完掘（南から） S D 2-1・S A 2-1完掘（南から）
図版 3	S B 1-3 P 1土層 S D 1-1土層①（東から） S D 1-1土層③（東から） S D 1-1完掘（北西から） S D 1-1完掘（南東から） S D 1-3土層①（東から） S D 1-2～4完掘（南から） S P 1-22～31完掘（北から）	図版 7	出土遺物（1）
図版 4	S I 2-1土層（東から） S I 2-2 P 1土層 S I 2-1～3完掘（南から） S I 2-5土層（西から） S I 2-5完掘（南から） S I 2-6完掘（南から） S I 2-8完掘（南から） S I 2-10完掘（北から）	図版 8	出土遺物（2）
		図版 9	出土遺物（3）
		図版 10	出土遺物（4）
		図版 11	出土遺物（5）
		図版 12	出土遺物（6）
		図版 13	出土遺物（7）
		図版 14	出土遺物（8）

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯

大野地区統合保育所建設事業に伴い、事業主体である高松市（こども園運営課）より保育所予定地における埋蔵文化財の照会があった。当該地には周知の埋蔵文化財は確認されていないが、事業面積が広いことから事前に予定地内について埋蔵文化財の有無を確認する必要があった。平成 26 年 5 月 19 日・20 日に試掘調査を実施し、全域から溝や柱穴の遺構とともに弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器等の遺物を検出した。結果を 5 月 23 日に香川県教育委員会に報告し、5 月 23 日付けで県教委から周知の埋蔵文化財包蔵地「北口遺跡」として取扱うよう通知があった。

平成 26 年 10 月 20 日付けで文化財保護法第 94 条第 1 項に基づく発掘通知が高松市より提出され、本市教育委員会から県教育委員会へ連絡したところ、10 月 22 日付けで「発掘調査」の行政指導があった。これを受けて高松市（こども園運営課）と協議を行い、保育所建設前に発掘調査を実施し、記録保存を行うことで合意したため、本市教育委員会は発掘調査を実施した。

第2節 調査の経過

発掘調査は、平成 26 年 10 月 29 日から平成 27 年 2 月 12 日の日程で実施した。調査面積は 1,632 m² である。調査に先立ち、調査対象地内に植生する梅や栗等の樹木を伐採・伐根し、さらに厚く埋め立てられた花崗土の撤去をする時間が必要であったため、実質的に調査に着手したのは 11 月 10 日である。

調査区の平面形は東西方向に長く、「ニ」の字形を呈しており、東端部分を 1 区、中央部を 2 区、西端部分を 3 区と呼称する。廃土の場外搬出が不可能なため、調査区を 1・2 区と 3 区の二つに分割し、調査を実施した。以下、調査の経過を簡略に記する。



第1図 北口遺跡位置図

平成 26 年 11 月 10 日～11 月 17 日 1・2 区第 1 面重機掘削と人力による遺構検出

11 月 18 日～11 月 21 日 1・2 区第 1 面遺構調査

11 月 25 日～11 月 28 日 1・2 区第 2 面重機掘削と人力による遺構検出

11 月 1 日～12 月 19 日 1・2 区第 2 面遺構調査

12 月 22 日～12 月 24 日 1・2 区埋め戻し

12 月 25 日～12 月 26 日 3 区第 1 面重機掘削と人力による遺構検出

平成 27 年 1 月 6 日～1 月 8 日 3 区第 1 面重機掘削と人力による遺構検出

1 月 9 日～1 月 15 日 3 区第 1 面遺構調査

1 月 16 日～1 月 22 日 3 区第 2 面重機掘削と人力による遺構検出

1 月 23 日～2 月 4 日 3 区第 2 面遺構調査

2 月 5 日～2 月 12 日 3 区埋め戻し

整理作業は、高松市埋蔵文化財センターにおいて調査終了時から平成 28 年 3 月末までの期間に随時実施し、委託業務とした遺物写真撮影についても平成 28 年 3 月末に完了した。

第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

北口遺跡が所在する高松市香川町は、香川県のほぼ中央部に位置し、南部は讃岐山脈から派生する丘陵山地が東西方向に延びており、隣接する香南町との境には讃岐山脈の大滝山、三木町津柳を源流とする香東川が丘陵山地を抜け高松平野へと北流している。

地質学的所見によれば、この丘陵山地は領家花崗岩類と呼ばれる花崗岩山地及び浸食により形成された段丘からなり、段丘は高位の段丘（丘陵）と下位の段丘（台地）に分類される。香川町北部に散在する低山は浸食作用から迷れ島状を呈するが、その基盤は同系の花崗岩とされている。平野部については、ほぼ現況の流路となった香東川の堆積により形成されており、両岸にその氾濫原を見ることができる。

本遺跡は香東川の堆積により形成された平野部に位置し、香東川からの距離は約1kmを測り、香東川と東側にある段丘とのほぼ中間にあたる。現地表の標高は約55.50mであり、南側から北方向に向かって緩やかな傾斜で下がっている。



第2図 高松平野における北口遺跡の位置

第2節 歴史的環境

本遺跡が所在する香川町ではこれまでに発掘調査が少ないとみ、周辺の遺跡については不明な部分が多い。特に、本遺跡周辺の平野部では龍満城跡と百相坂遺跡の2ヶ所において発掘調査が実施されたのみである。

旧石器・縄文時代の遺跡・遺物は確認されていない。

弥生時代の遺跡・遺物は非常に少なく、発掘調査で確認されたものは前述した百相坂遺跡の弥生時代後期前葉のみである。その他に数ヶ所の石器の包蔵地が知られている。

古墳時代では萩前・一本木遺跡において大規模な集落が確認され、さらに首長居館と考えられる遺構が検出されている。丘陵部に前期及び後期後半の古墳が認められる。前期に属する古墳として、船岡山山頂に築かれた船岡山古墳が挙げられる。平成20～24年の学術調査により墳形・建造時期・構築手順に新たな見地が明らかになった。墳形は以前に考えられていた双方中円墳ではなく、前方後円墳1基（船岡山1号墳）と墳形未確認の古墳1基（船岡山2号墳）で構成されていた。船岡山1号墳の建造時期は墳丘の形態と出土埴輪の様相から3世紀代に遡る古式の前方後円墳であることが判明した。後期古墳では、横穴式石室の発掘調査・石室測量などの調査実績をもつものに、万座古墳・横岡山古墳・東赤坂古墳・舟岡古墳・八王子古墳・龍満山1号墳がある。香東川を望む龍満山西麓には3～5基の群集墳である龍満山古墳群が所在し、川東下地区では油山古墳群・清谷古墳がある。

古代では萩前・一本木遺跡で掘立柱建物や大溝等が検出されている。寺院跡は百相廃寺のみが知られ、現在の舟山神社が相当し、神社の南西側に礎石が残り、奈良～平安時代の古瓦が出土している。

中世に入ると、香西氏と同族で、源平の合戦において功があったとされる大野氏が知られるが、これ

より後の讃岐守護細川氏に従った由佐氏、岡氏、森氏、佃氏、二川（龍満）氏、漆原氏、河西氏、大野氏、益子氏等が城館を築いた。河西三郎左衛門を城主とした百相城跡は堀・石垣の痕跡が残る。大野南城跡は大野新太夫有高が構えた居館跡であり、大野北城跡は佃氏の居館跡である。龍満城跡は二川四郎左衛門光吉が築いた城で、現況で幅18～20mにわたる堀の痕跡が認められる。由佐城跡は「お城」の地名や土塁跡の一部が残存し、益子弥次郎秀助が築いた。

近世では生駒藩に仕えた西嶋八兵衛の書を刻む碑石「大丸謨」が香東川より発見されており、大規模であったと想定される香東川の治水を今に伝えている。



- 1 北口遺跡
- 2 大野北城跡
- 3 百相廃寺
- 4 百相城跡
- 5 萩前・一本木遺跡
- 6 百相坂遺跡
- 7 船岡山古墳
- 8 舟岡古墳
- 9 雨山南古墳
- 10 平石上1号墳
- 11 平石上2号墳
- 12 小日山1号墳
- 13 小日山2号墳
- 14 矢野面古墳
- 15 三谷三郎池西岸窓跡
- 16 万産古墳
- 17 浅野八王子古墳
- 18 大野南城跡
- 19 剣山古墳
- 20 龍満城跡
- 21 龍満山古墳群1～5号墳
- 22 横岡山古墳
- 23 箕造（緑喰）城跡
- 24 東赤坂古墳
- 25 由佐城跡
- 26 回蛇跡
- 27 吉光城跡
- 28 佐賀神社古墳
- 29 若宮神社古墳
- 30 城戸山1号墳
- 31 城戸山2号墳
- 32 回清水遺跡
- 33 船山古墳群
- 34 清谷古墳
- 35 大丸謨

第3図 北口遺跡周辺の遺跡分布図

第3章 発掘調査の成果

第1節 調査概要

1 調査区の設定

調査区は保育所の建設範囲であり、北辺が62m、東辺28m、西辺30mの長方形であるが、南辺中央は21mと狭くなる。調査面積は1,632m²であり、平面形は横向きの「コ」の字形を呈する。調査区は試掘調査の結果や調査工程の都合により東から1区・2区・3区と呼称する。1区の面積は420m²、2区は462m²、3区は750m²である。

2 調査の方法

第1章で前述した試掘調査は、1区はA層とB層の2面の遺構面を検出し、2・3区はA層のみ遺構を検出した。しかし、A層の遺構が希薄であることとA層の遺構がB層に達すること、さらに地山に遺構が検出される可能性も考慮して、発掘調査では調査区を1・2区と3区に分割し、まず1・2区においてB層を第1面とし、地山を第2面として調査を実施し、その調査結果により3区の調査方針を決めることとした。結論としては、2区の第2面の遺構が3区まで展開すると判明したので、3区でも2面の調査を実施した。

1・2区の調査は、試掘調査により基本土層や遺構面までの掘削深度を把握していたことから重機による包含層並びに第1面上面までの掘削の後に人力による遺構調査を実施した。その後に手測りによる遺構平面図を作成し、写真撮影を行った。第1面の調査終了後に重機による第2面上面までの掘削、人力による遺構調査、空中写真測量、写真撮影を実施した。3区の調査は、1・2区の第2面と同様の方法であり、重機による遺構面上面までの掘削、人力による遺構調査、空中写真測量、写真撮影を第1面と第2面において実施した。

図面は平面図・断面図とともに調査時には概ね縮尺1/20で作図し、報告に際して適宜縮尺を変更した。委託業務によって4級基準点及び水準点測量を行い、調査地周囲に4箇所の基準点を打設し、その点を基準として測量を行った。写真撮影は35mmフィルムを用い、モノクロ・カラーリバーサルフィルムで記録し、補助的にデジタルカメラも用いた。

3 基本土層（第4・5図）

調査区全域の土層は最上位にある花崗土を除いて13層に細分される。これらの層は色調や内容物、堆積の状態や範囲などから五つのグループに大別できる。

1層は花崗土で埋め立てられる直前の水田層であり、削平を多く受ける。土壤層と2枚の非土壤層に分けられる。2～4層は近世の条里型水田であり、ほぼ水平な堆積状態である。各層は灰黄ないし浅黄シルト質極細砂の土壤層とF eを多量に含む非土壤層に分けられる。

5層は灰褐シルト質極細砂であり、調査区北東隅だけに堆積する。6層は黒褐シルト質極細砂であり、試掘調査のA層である。調査区全域に厚さ10cm未満で薄く堆積する。7層は黒褐シルト質極細砂であり、試掘調査のB層である。調査区全域に堆積し、本調査で第1面とした。

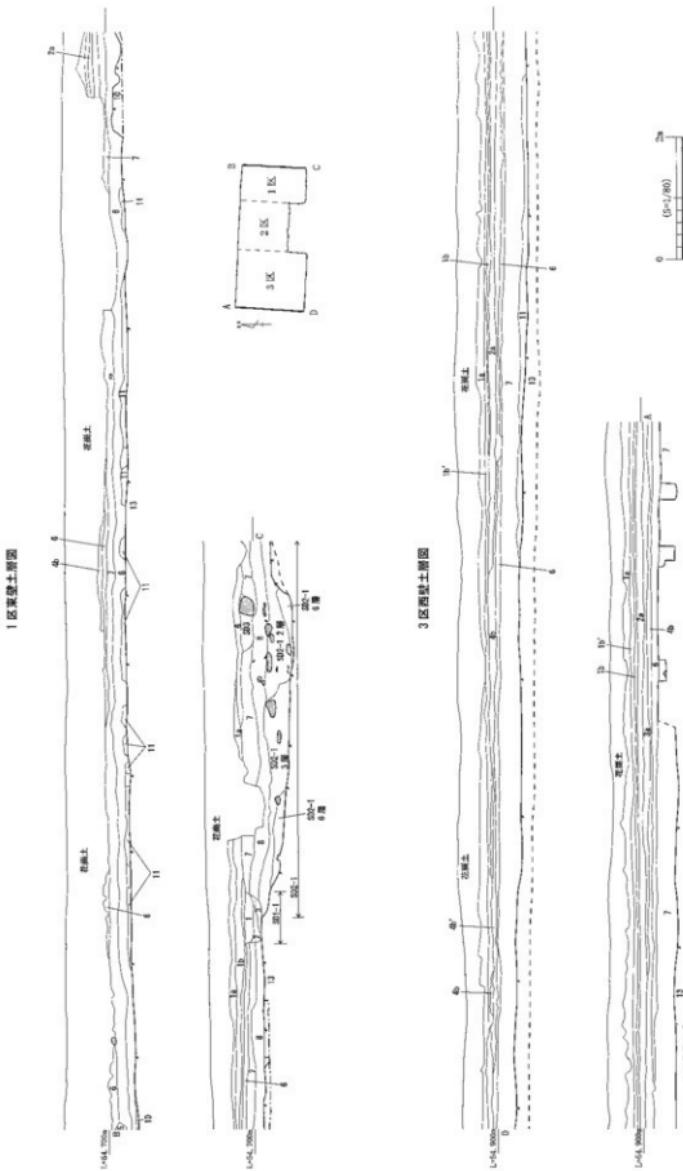
8層は灰白細砂を含む黒褐シルト質極細砂、9層は灰白細砂と疊を含む黒褐シルト質極細砂であり、2区で地山が帶状に低くなっている微低地と1区に堆積する。調査区の東側のみに堆積していることから、調査区東側からの洪水による堆積層と考えられる。

10層にはぶい黄シルト質細砂、11層は褐灰シルト質極細砂+にぶい黄シルト質細砂、12層はにぶい黄+灰黄シルト質細砂であり、地山とほぼ類似する。

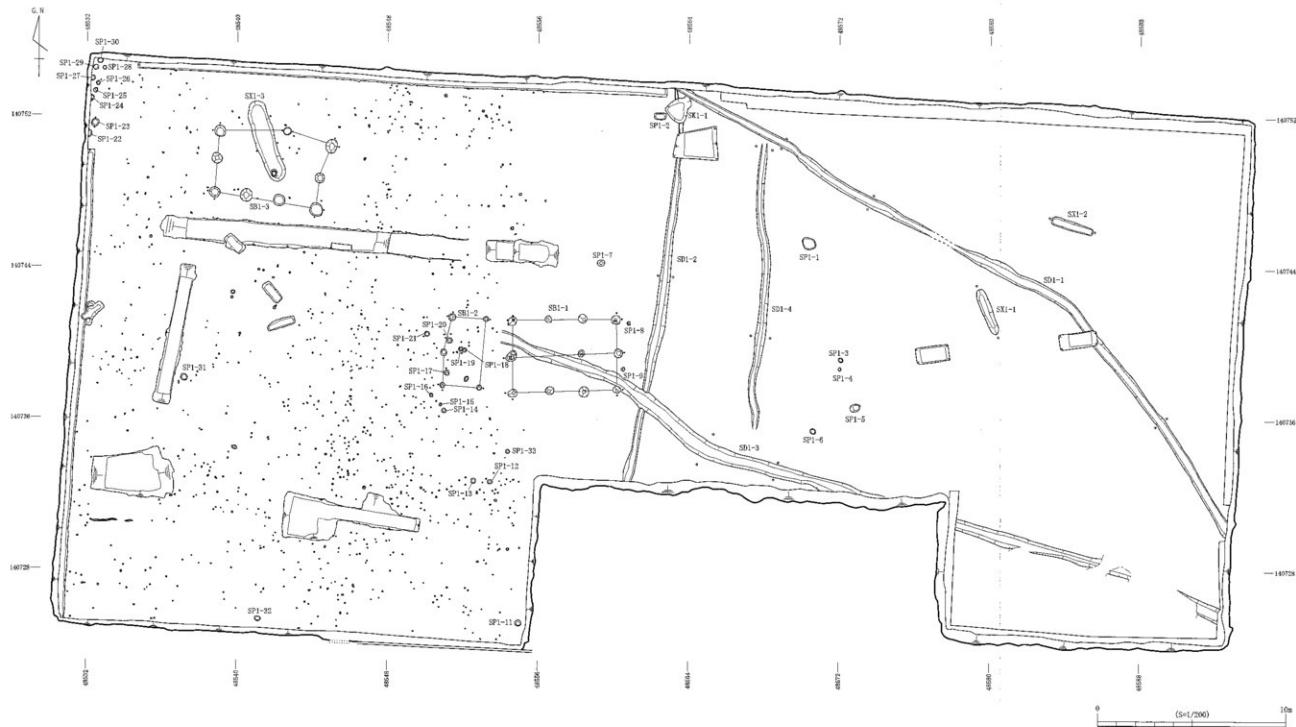
13層は浅黄シルトの地山であり、本調査では多数の遺構を検出し、第2面とした。



第4図 調査区北壁土壌図



第5図 調査区東壁・西壁土層凶



第6図 第1面造構平面図

第2節 遺構と遺物

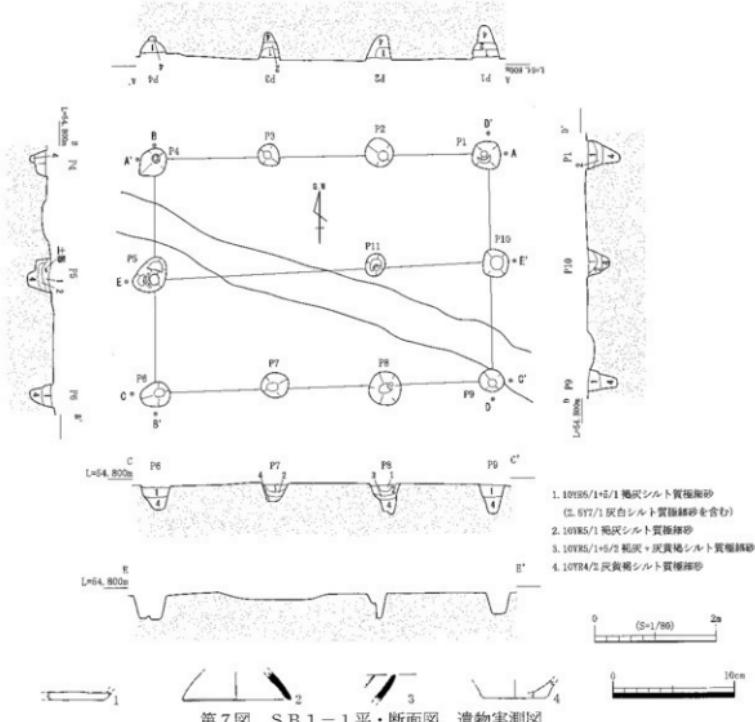
1 第1面の遺構と遺物

掘立柱建物

S B 1 - 1 (第7図)

調査区ほぼ中央において検出した南北2間(4.25m)、東西3間(6.00m)、床面積25.50m²を測る掘立柱建物であり、SD1-3を切っている。中央の柱穴が1基のみであるが総柱建物である。検出面の標高は54.70mである。建物の主軸方位はN-88°-Eである。SB1-2の約1.00m東側に位置し、SB1-1の北列側柱はSB1-2の北列側柱とほぼ一直線上に並んでいる。掘立柱建物は11個の柱穴から構成され、柱穴は円形ないし梢円形を呈し、直径35~65cm、深さ29~53cmを測る。P1、5、8、11は掘り方に僅かな段を有する。埋土は4層に分けられ、上層から第1層灰白シルト質極細砂を含む褐灰シルト質極細砂、第2層褐灰シルト質極細砂、第3層褐灰+灰黄褐シルト質極細砂、第4層灰黄褐シルト質極細砂である。全ての柱穴に柱根は見られない。所属時期は遺構面及び出土遺物より古代と考えられる。

遺物は、1がP5、2がP1、3・4がP7から出土した。1は土師器盤で、底部の調整は回転ヘラ切り後にナゲが施される。2は須恵器蓋であり、口径は8.8cmを測る。3は須恵器盤で、内面に火拂がある。4は弥生土器底部で、混入と考えられる。



第7図 SB 1-1 平・断面図、遺物実測図

S B 1 - 2 (第8図)

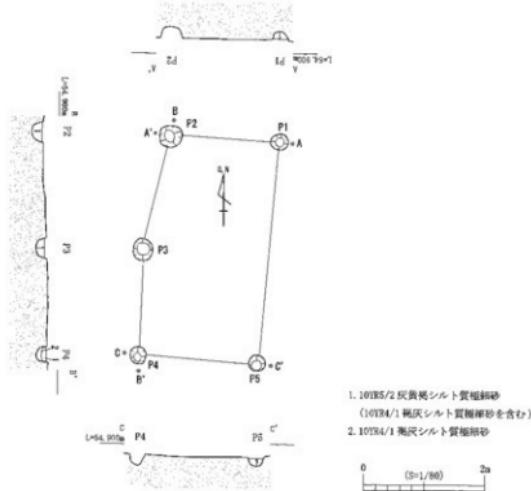
調査区ほぼ中央において検出した南北2間(3.95m)、東西1間(2.22m)、床面積8.77 m²を測る掘立柱建物である。検出面の標高は53.70 m前後である。建物の主軸方位はN-5°-Eである。S B 1-1の西側に位置し、S B 1-1の北列側柱はS B 1-2の北列側柱とほぼ一直線上に並んでいるが、方位は若干異なる。建物を構成する柱穴は5本であり、平面形は円形を呈し、直径27~38cm、深さ13~18cmを測る。西列側柱のP3は若干西側にずれている。柱穴の断面はU字形である。埋土は2層に分けられ、上層から褐灰シルト質極細砂を含む灰黄褐シルト質極細砂、褐灰シルト質極細砂であるが、P4を除く柱穴は單一層である。所属時期は出土遺物及び埋土とS B 1-1との位置関係から判断してS B 1-1と同一時期の可能性があると考えられる。

遺物は数点の土師器小片のみであり、図化できるものはない。

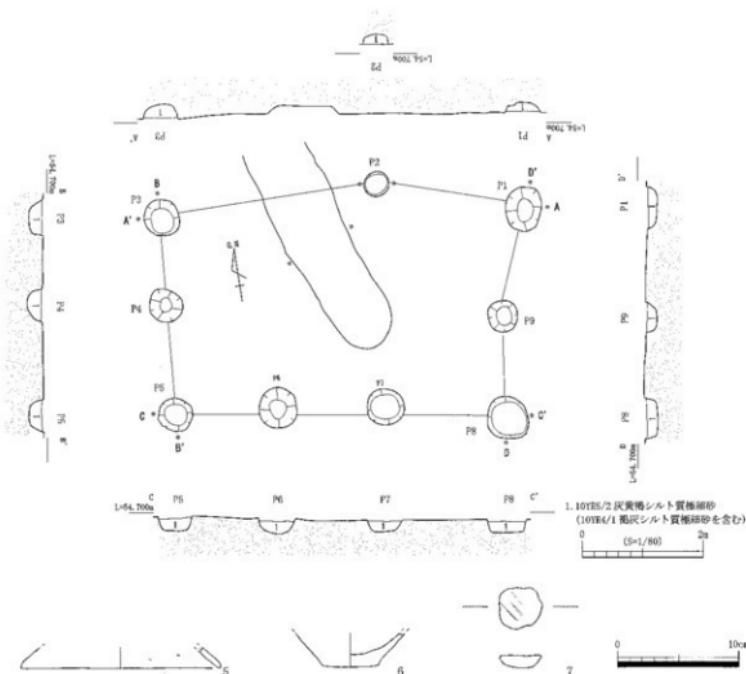
S B 1 - 3 (第9図)

調査区北西側において検出した南北2間(3.84m)、東西3間(6.08m)、床面積23.35 m²を測る掘立柱建物である。検出面の標高は54.60 m前後である。建物の主軸方位はN-98°-Eである。建物を構成する柱穴は9本であり、北列側柱の1本は検出できなかった。柱穴の平面形は椭円形のP1を除き円形を呈し、直径52~73cm、深さ16~25cmを測る。北列側柱のP2と東列側柱のP9は若干位置がずれている。柱穴の断面は逆台形を呈する。埋土はすべての柱穴が褐灰シルト質極細砂を含む灰黄褐シルト質極細砂の單一層である。所属時期は出土遺物より弥生時代後期と考えられる。

遺物は、5・6がP2、7がP5から出土した。5は弥生土器高杯の脚部で、内面はヘラケヅリが施される。6は同甕の底部で、底部外面はナデが施される。7は高杯の円盤充填部で、内面はヘラミガキが施される。



第8図 S B 1 - 2 平・断面図



第9図 SB1-3平・断面図、遺物実測図

諸

SD 1-1 (第6・10図)

1区と2区の北東側において検出した溝であり、SD 1-2を切る。検出面の標高は54.50～54.80mである。溝の方向は中央付近で屈曲しており、逆「く」の字状に延びる。屈折点より南東側の方位はN-34°-W、北東側はN-63°-Wである。検出した溝の全長は38.30m、幅は40～70cm、深さは7～29cmを測る。断面は逆台形を呈する。南端部分の底面の標高は54.60m、北端部分は54.40mであり、その比高差が20cmあることから南東から北西へ流れていたことがうかがえる。埋土は3層に分層できる。溝の北部と中央部と南部の3箇所で断面観察を行い、土層図を作成した。第1層は灰白練へ粗砂と砂礫、第2層は灰黄褐色シルト質細砂、第3層は灰黄細砂である。溝の屈曲部分より北側は第1層のみが堆積しており、南側は第1層が大部分を占め、底面直上に第2・3層が薄く堆積していた。このような堆積状態から判断すると、この溝は洪水の影響で短時間に埋没したと考えられる。所属時期は出土遺物から古代と考えられる。

8は土師器高杯の脚部で、内面にヘラケズリが施される。9は同種の口縁部小片である。

SD 1-2 (第6・10図)

調査区のほぼ中央において検出した溝であり、SD 1-1、SK 1-1に切られ、SD 1-3を切る。検出面の標高は54.50～54.80mである。溝は直線的に延びており、その方向はN-11°-Eである。検出した溝の全長は21.00mであり、幅は16～65cm、深さは5～13cmを測り、北端は幅が狭く、浅くなっている。断面は逆蒲鉾形を呈する。南端部分の底面の標高は54.76m、北端部分は54.40mであり、その比高差が36cmであることから南から北へ流れていたことがうかがえる。埋土は灰白細砂+灰黄褐色シルト質細砂の單一層である。所属時期は出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

10は弥生土器壺で、口縁端部が上方に若干肥大する。11は同甕の体部小片で、外面に斜め方向のハケが施される。

SD 1-3 (第6・11図)

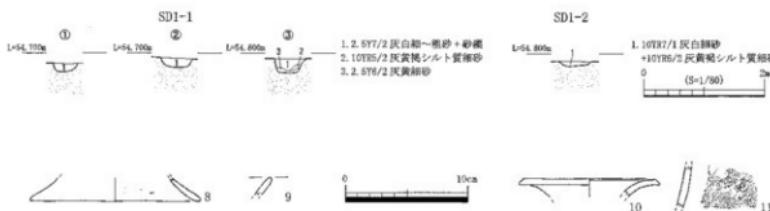
1・2区の南側と3区東端中央において検出した溝であり、SB 1-1とSD 1-2に切られる。検出面の標高は54.70～54.80mである。溝は西端付近で若干蛇行するがほぼ直線に延びており、その方向はN-74°-Wである。検出した溝の全長は約43.70mであり、西端部は徐々に浅くなり消滅しているが、本来は西方に延びていたと考えられる。幅は40～90cm、深さは10～20cmを測る。断面は逆台形を呈する。東端部分の底面の標高は54.70m、西端部分は54.60mであり、その比高差が10cmあることから東から西へ流れていたことがうかがえる。埋土は2層に分層できる。図化した出土遺物は弥生時代前期末～中期初のものであるが、埋土から弥生時代後期の土器片が出土しており、所属時期は弥生時代後期と考えられる。

12は弥生土器甕で、口縁部に刻み目突帯を有する。13～15は同甕の体部片であり、13はヘラ描き沈線と刺突文を巡らす。14はヘラ描き沈線、15は沈線と縦方向のハケが施される。16は同甕の底部である。

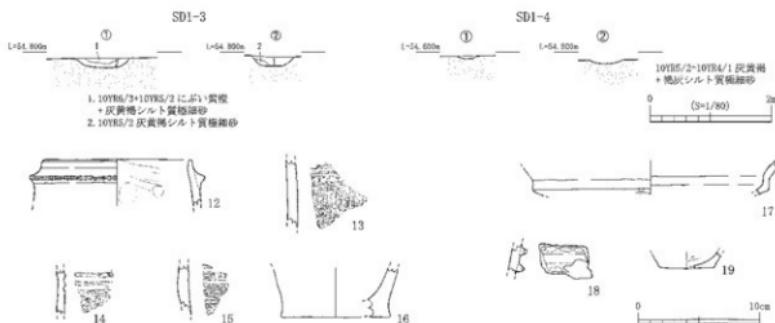
SD 1-4 (第6・11図)

2区のほぼ中央において検出した溝であり、SD 1-2とほぼ平行に延びている。検出面の標高は54.50～54.70mである。溝は直線的に延びており、その方向はN-11°-Eである。南端と北端が消滅しているために検出した溝の全長は15.10mである。断面は逆蒲鉾形を呈する。南端部分の底面の標高は54.67m、北端部分は54.47mであり、その比高差が20cmであることから南から北へ流れていたことがうかがえる。埋土は灰黄褐色シルト質細砂の單一層である。所属時期は出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

17は弥生土器高杯の杯部で、口縁部は体部から強く屈曲し、杯部外面はヘラケズリが施される。18は同壺で、2条の押圧突帯文が巡る。19は同甕の底部で、胎土には角閃石を含む。



第10図 SB 1-1・2断面図、遺物実測図



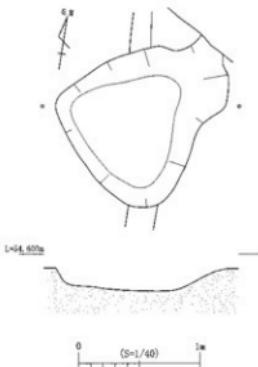
第11図 SD1-3・4断面図、遺物実測図

土坑

SK1-1 (第12図)

調査区中央の北端において検出した土坑であり、SD1-1・2を切る。検出面の標高は54.48m前後である。平面形は隅丸三角形を呈し、規模は $1.40 \times 1.20\text{ m}$ 、深さは17cmを測る。断面は逆台形で、北東隅の掘り方は比較的緩やかな傾斜である。底面は平坦であるが、東側にやや下がっている。埋土は灰白細～中砂の単一層である。所属時期は出土遺物がないので明確でないが、埋土から判断して近世と考えられる。

本遺構北側の北壁土層で近世の水田層を確認していることと第1面に稻架を検出したことから、本遺構は肥溜めの可能性が高い。



第12図 SK1-1平・断面図

3区全域において検出した小規模のピットであり、近世の水田に付随する稻架と考えられる。1区・2区においても検出してはいたが調査は行わなかった。直径は4～10cm、深さは5cm前後を測る。ピットの総数は891個であり、その配置は不規則であり、ある程度の粗密は認められるが全域にわたって検出できた。埋土は灰白シルト質極細砂の単一層である。

稻架は列状に並ぶものであるが、このような多数のピットの存在と不規則な配置から考えるといつもの稻架が重なり合って検出されたものであり、近世の水田が長期間にわたって営まれていたことを示している。

ピット群 (第6図)

調査区北西隅において検出したSP1-22～30である。検出面の標高は54.60m前後である。平面形は円形であり、直径は22～40cm、深さは4～38cmを測る。SP1-22の埋土は灰黄褐色シルト質極細砂、SP-23にはぶい黄褐色シルト質極細砂と黒褐色シルト質極細砂であり、その他はにはぶい黄褐色シルト質極細砂である。遺物がないため所属時期は不明であるが、埋土の違いによりSP-22は時期が異なると思われる。

性格不明遺構

S X 1 - 1 (第 13 図)

1 区中央において検出した溝状の遺構である。検出面の標高は 54.60m である。全長は 2.54 m、幅 55cm、深さ 8 cm を測る。方位は N - 20° - W である。所属時期は近世と考えられる。

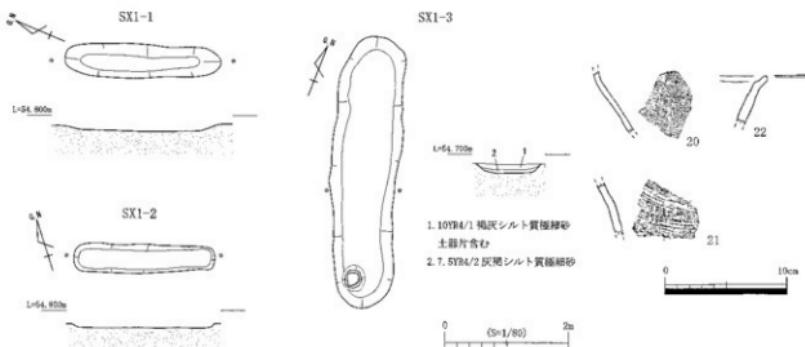
S X 1 - 2 (第 13 図)

1 区中央において検出した溝状の遺構である。検出面の標高は 54.60m である。全長は 2.28 m、幅 48cm、深さ 8 cm を測る。方位は N - 70° - W である。所属時期は近世と考えられる。

S X 1 - 3 (第 13 図)

調査区北西側において検出した溝状の遺構であり、S B 1 - 3 を切る。検出面の標高は 54.55 m である。全長は 4.40 m、幅 1.13 m、深さ 15cm を測る。方位は N - 18° - W である。所属時期は埋土、出土遺物から弥生時代後期である。

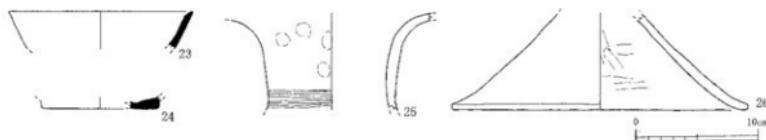
20 は弥生土器甕、21 は同甕、22 は同高杯である。



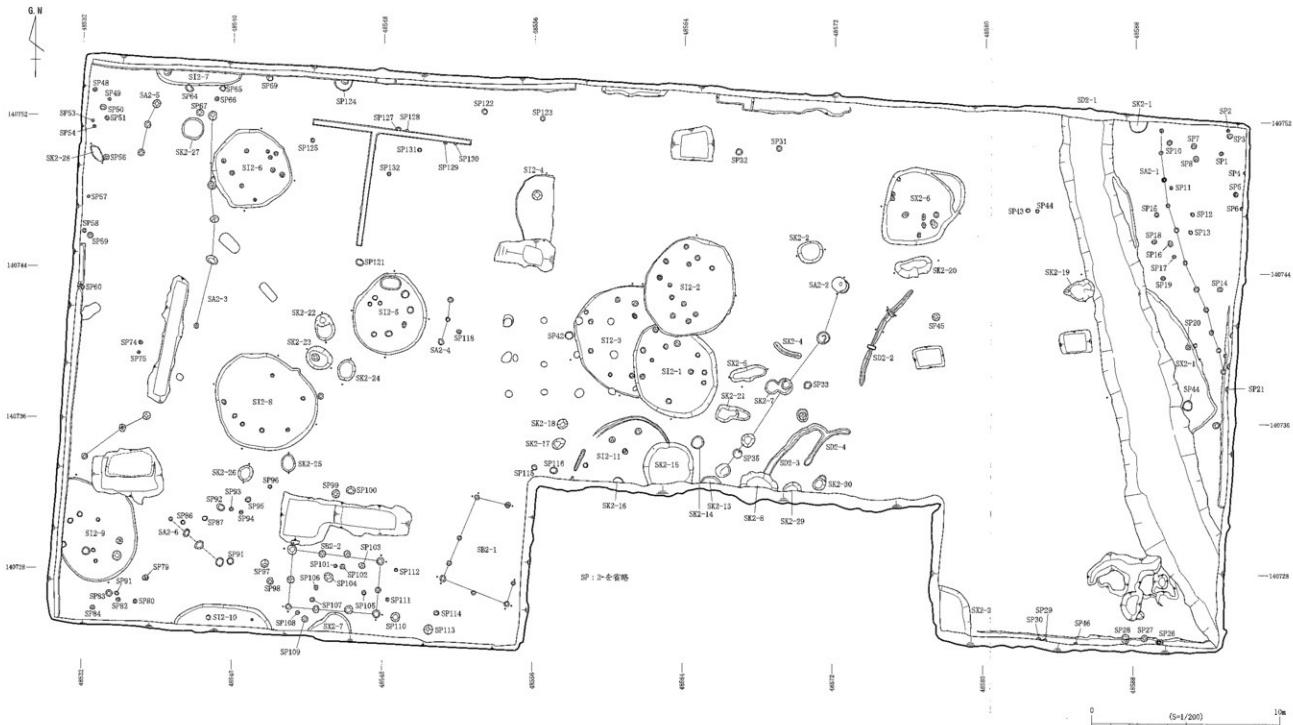
第 13 図 S X 1 - 1 ~ 3 平・断面図、遺物実測図

第 1 面出土遺物 (第 14 図)

23 は須恵器杯、24 は同杯の底部である。25 は弥生土器甕、26 は同蓋である。



第 14 図 第 1 面出土遺物実測図



第15図 第2面構造平面図

2 第2面の遺構と遺物

堅穴建物状遺構

以下に報告する堅穴建物状遺構は平面形・規模と柱穴配置等で弥生時代の一般的な堅穴建物の範疇に入るが、地床炉や壁溝が存在しないことや出土遺物が皆無であることから堅穴建物と断定できないので、堅穴建物状遺構とする。

S I 2-1 (第16図)

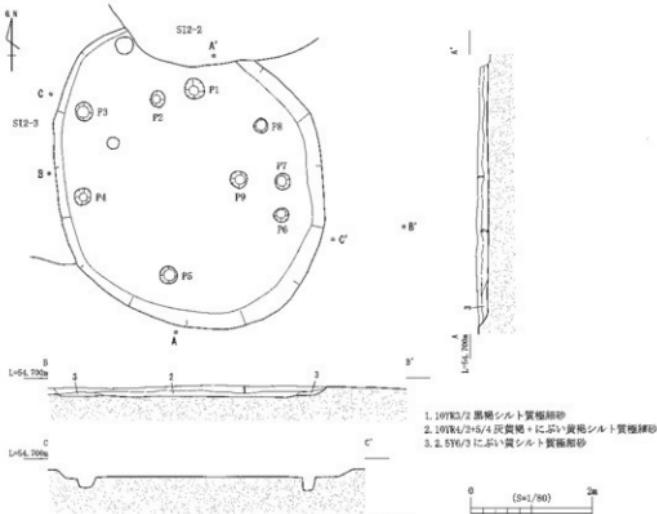
調査区中央において検出した円形堅穴建物状遺構であり、S I 2-2に切られ、S I 2-3を切る。検出面の標高は54.55mである。平面形は楕円形を呈し、直径は5.35×4.54m、深さは14cmを測る。埋土は3層に分層でき、第1層は黒褐シルト質極細砂、第2層灰黄褐土にぶい黄褐シルト質極細砂、第3層にぶい黄シルト質極細砂である。

床面はほぼ平坦な直床であり、全く踏み固められていない。主柱穴としてはP 1・3～8の7基が考えられる。その位置関係は円形に並ぶが不規則であり、明確な上屋を想定することが困難である。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は23～33cm、深さ10～24cmを測る。埋土はにぶい黄褐シルト質極細砂を含むにぶい黄褐シルト質極細砂の単一層である。主柱穴より内側に2基のピットを検出したが、用途不明である。地床炉と壁溝は認められなかった。

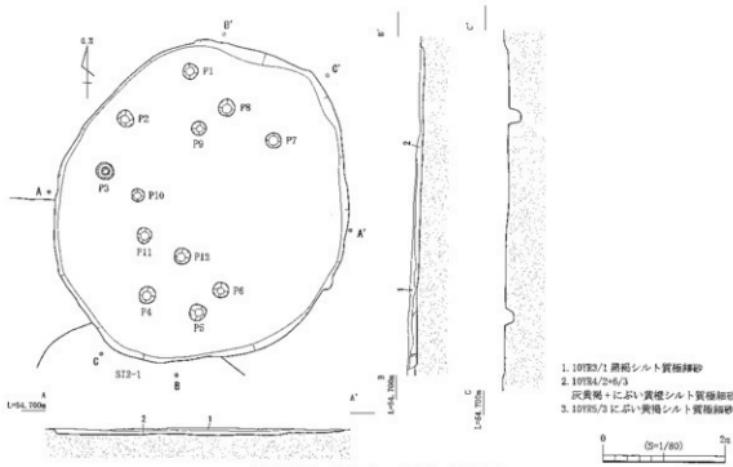
遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、S B 2-1やSD 2-1等と同一の検出面であることや本遺跡が堅穴建物状遺構や掘立柱建物等の住居施設と環濠の可能性があるSD 2-1や柵列から形成された集落の様相を呈することから判断すると本遺構の時期は、弥生時代前期末であると考えられる。

S I 2-2 (第17図)

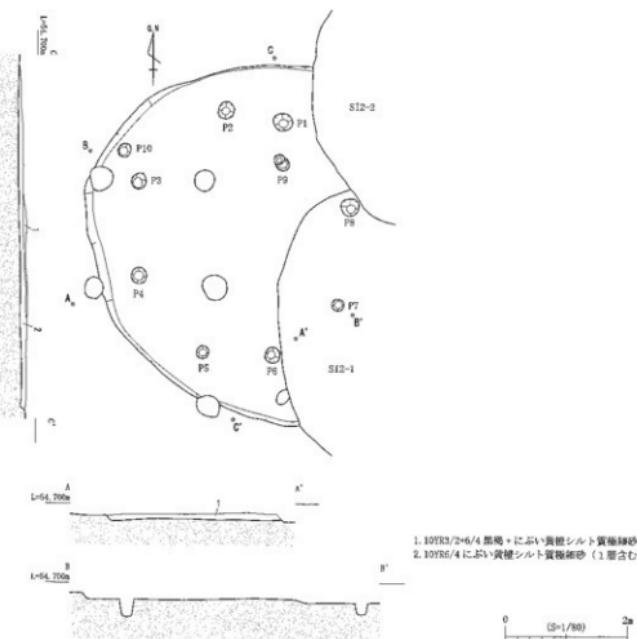
調査区中央において検出した円形堅穴建物状遺構であり、S I 2-1・3を切る。検出面の標高は54.40m前後である。平面形は楕円形を呈し、直径は5.55×4.78m、深さは15cmを測る。埋土は3層に分層でき、第1層は黒褐シルト質極細砂、第2層灰黄褐土にぶい黄褐シルト質極細砂、第3層にぶい



第16図 S I 2-1 平・断面図



第17図 SI 2-2 平・断面図



第18図 SI 2-3 平・断面図

黄褐色シルト質極細砂である。第2層が大部分を占る。

床面は直床であり、南から北に向かって緩やかな傾斜で下がっており、全く踏み固められていない。主柱穴としてP1～5・7の6基が考えられる。その位置関係は円形に並ぶが不規則であり、明確な上屋を想定することが困難である。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は25～30cm、深さ14～28cmを測る。埋土はにぶい黄褐色シルト質極細砂を含むにぶい黄褐色シルト質極細砂の單一層である。主柱穴より内側に6基のピットを検出した。埋土は主柱穴と同一であるが、用途不明である。地床炉と壁溝は認められなかつた。

遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、検出面や他の遺構との関係等を総合的に判断すると弥生時代前期末であると考えられる。

S I 2-3 (第18図)

調査区中央において検出した円形竪穴建物状遺構であり、S I 2-1・2に切られる。検出面の標高は54.50m前後である。平面形は梢円形を呈し、直径は5.92m、深さは7cmを測る。埋土は2層に分層でき、第1層は黒褐色+にぶい黄褐色シルト質極細砂、第2層にぶい黄褐色シルト質極細砂である。第2層が大部分を占める。

床面は直床であり、南から北に向かって緩やかな傾斜で下がっており、全く踏み固められていない。主柱穴としてP1～8の8基が考えられる。その位置関係は円形に並ぶが不規則であり、明確な上屋を想定することが困難である。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は20～32cm、深さ17～21cmを測る。埋土はにぶい黄褐色シルト質極細砂を含むにぶい黄褐色シルト質極細砂の單一層である。主柱穴以外に2基のピットを検出した。埋土は主柱穴と同一であるが、用途不明である。地床炉と壁溝は認められなかつた。

遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、検出面や他の遺構との関係等を総合的に判断すると弥生時代前期末であると考えられる。

S I 2-4 (第19図)

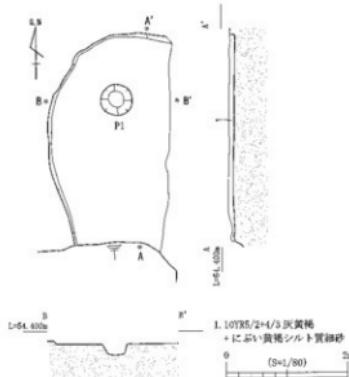
調査区中央において検出した円形竪穴建物状遺構であり、南側は近年の搅乱により消滅し、東側の2区においても検出したが調査時の不注意により削平してしまった。検出面の標高は54.26mである。平面形は円形を呈すると考えられ、検出した直径は3.42m、深さは6cmを測る。埋土は灰褐色+にぶい黄褐色シルト質細砂の單一層である。

床面は平坦な直床であり、全く踏み固められていない。ピットは1基のみ検出したのみである。地床炉と壁溝は認められなかつた。

遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、検出面や他の遺構との関係等を総合的に判断すると弥生時代前期末であると考えられる。

S I 2-5 (第20図)

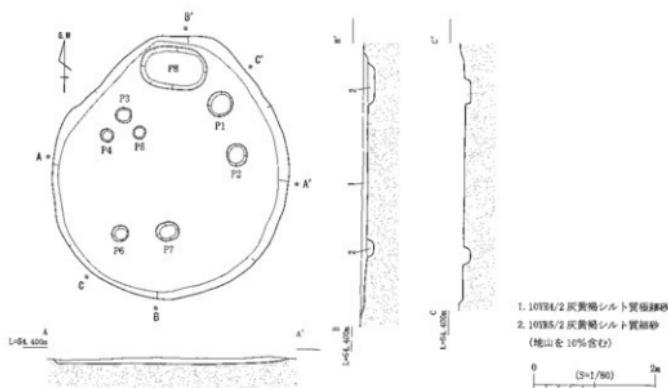
調査区西側において検出した円形竪穴建物状遺構である。検出面の標高は54.22m前後である。平面形は円形を呈し、直径は4.22×3.90m、深さは10cmを測る。埋土は灰褐色シルト質細砂の單一層



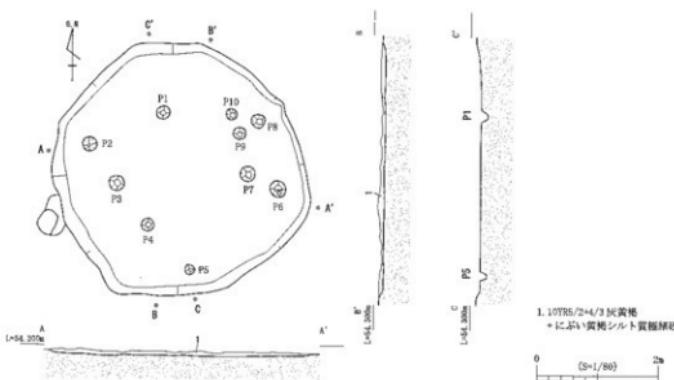
第19図 S I 2-4 平・断面図

である。

床面は直床であり、南から北に向かって緩やかな傾斜で下がっており、全く踏み固められていない。主柱穴としてP1～4・6・7の6基が考えられる。その位置関係は円形に並ぶが不規則であり、明確な上屋を想定することが困難である。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は20～40cm、深さ10～14cmを測る。埋土は地山粒子を10%含む灰黄褐色シルト質極細砂の單一層である。主柱穴より内側に1基のビ



第20図 SI 2-5 平・断面図



第21図 SI 2-6 平・断面図

ットを検出した。埋土は主柱穴と同一であるが、用途不明である。北側に規模の大きな構造形の落ち込みが検出された。規模は $110 \times 70\text{cm}$ 、深さは 10cm を測る。埋土は主柱穴と同一であるが、用途不明である。地床炉と壁構は認められなかった。

遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、検出面や他の遺構との関係等を総合的に判断すると弥生時代前末であると考えられる。

S I 2-6 (第 21 図)

調査区西側 3 区の北西側において検出した円形竪穴建物状遺構である。検出面の標高は 54.23 m 前後である。平面形は円形を呈し、直径は 4.10 m、深さは 8 cm を測る。埋土は灰黄褐土にぶい黄褐シルト質極細砂の單一層である。

床面は平坦な直床であり、全く踏み固められていない。主柱穴として P 1 ~ 6・8 の 7 基が考えられる。その位置関係は円形に並ぶが不規則であり、明確な上屋を想定することが困難である。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 16 ~ 28cm、深さ 8 ~ 16cm を測る。埋土は灰黄褐シルト質細砂の P 5 を除き黄褐土にぶい黄褐シルト質細砂である。主柱穴より内側に 3 基のピットを検出した。埋土は主柱穴と同一であるが、用途不明である。地床炉と壁構は認められなかった。

遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、検出面や他の遺構との関係等を総合的に判断すると弥生時代前末であると考えられる。

S I 2-7 (第 22 図)

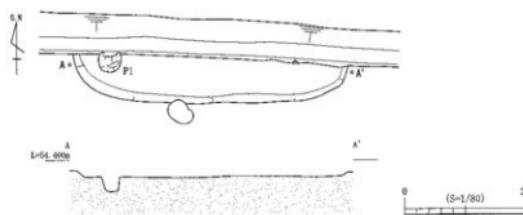
調査区北西隅において検出した円形竪穴建物状遺構の南端部であり、大半は調査区外北側へと延びる。検出面の標高は 54.20 m 前後である。平面形は円形を呈すると考えられ、検出した径は 4.53 m、深さは 6 cm を測る。埋土は灰黄褐土にぶい黄褐シルト質細砂の單一層である。

床面は平坦な直床であり、全く踏み固められていない。ピットは 1 基検出したのみであり、その性格は不明である。平面形は円形を呈し、埋土は黄褐土にぶい黄褐シルト質細砂である。地床炉と壁構は認められなかった。

遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、検出面や他の遺構との関係等を総合的に判断すると弥生時代前末であると考えられる。

S I 2-8 (第 23 図)

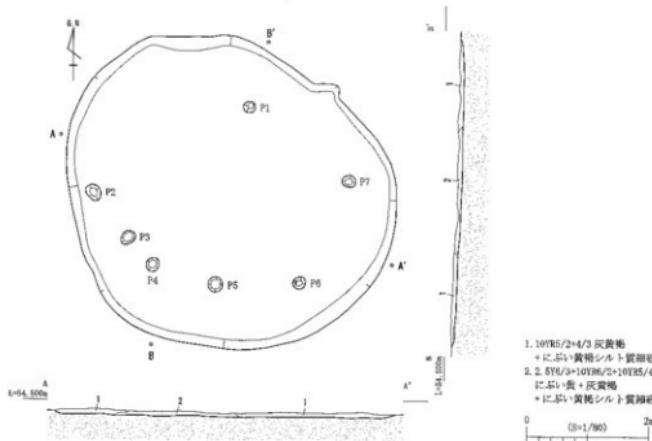
調査区西側において検出した円形竪穴建物状遺構である。検出面の標高は 54.23 ~ 54.37 m である。平面形は北東側が歪な円形を呈し、直径は $5.70 \times 4.98\text{m}$ 、深さは 8 cm を測る。埋土は 2 層に分層できる。第 1 層は灰黄褐土にぶい黄褐シルト質極細砂、第 2 層にぶい黄土 + 灰黄褐土にぶい黄褐シルト質細砂であり、周辺部に第 1 層の堆積が見られる。



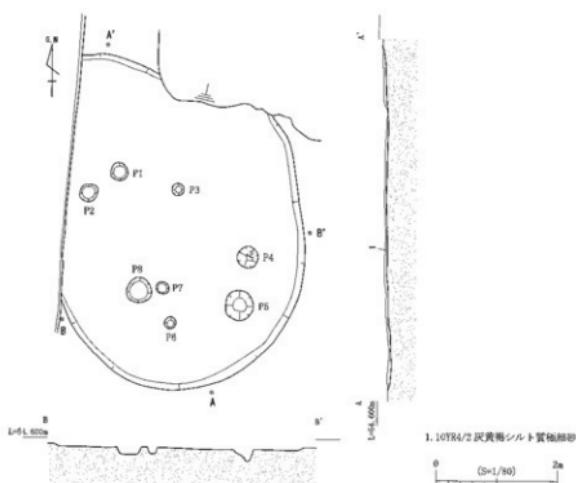
第 22 図 S I 2-7 平・断面図

床面は直床であり、南西から北東に向かって緩やかな傾斜で下がっており、全く踏み固められていない。主柱穴としてP1～7の7基が考えられる。その位置関係は円形に並ぶが不規則であり、明確な上屋を想定することが困難である。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は20～30cm、深さ9～14cmを測る。埋土は黄褐色+にぶい黄褐色シルト質細砂の單一層である。地床炉と壁溝は認められなかった。

遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、検出面や他の遺構との関係等を総合的に判断すると弥生時代前期末であると考えられる。



第23図 S I 2-8 平・断面図



第24図 S I 2-9 平・断面図

S I 2-9 (第24図)

調査区南西隅において検出した円形堅穴建物状遺構であり、北東側は後世の搅乱により削平され、一部は調査区外西側へと延びる。検出面の標高は 54.43 ~ 54.55 m である。平面形は北東側がいびつな楕円形を呈し、直径は 5.80 × 4.12 m、深さは 9 cm を測る。埋土は灰黄褐色シルト質極細砂の單一層である。

床面は直床であり、西から東に向かって緩やかな傾斜で下がっており、全く踏み固められていない。床面には P 1 ~ 9 の 9 基が検出されるが、その位置関係は不規則であり、主柱穴に認められるものはない。ただ P 4・5・8 は規模の大きなピットであり主柱穴の可能性もある。明確な上屋を想定することが困難である。ピットの平面形は円形を呈し、直径は 20 ~ 50cm、深さ 12 ~ 21cm を測る。埋土は黄褐色+にぶい黄褐色シルト質細砂の單一層である。地床炉と壁溝は認められなかった。

遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、検出面や他の遺構との関係等を総合的に判断すると弥生時代前期末であると考えられる。

S I 2-10 (第25図)

調査区南西隅において検出した円形堅穴建物状遺構であり、大半は調査区外南側へと延びる。検出面の標高は 54.50 m 前後である。平面形は円形と推測され、検出した径は 5.16 m、深さは 16cm を測る。埋土は 4 層に分層でき、第 1 層は黒褐色+灰黃褐色+にぶい黄褐色シルト質細砂、第 2 層はにぶい黄褐色+灰黃褐色シルト質細砂、第 3 層は灰黃褐色+褐灰色シルト質細砂、第 4 層は第 3 層とほぼ同じだが地山を 10% 含む。

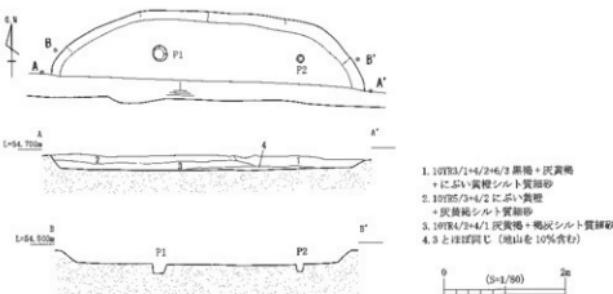
床面は平坦な直床であり、全く踏み固められていない。主柱穴として P 1・2 が検出されるが、明確な上屋を想定することが困難である。主柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 12cm と 26cm、深さ 12cm と 14cm を測る。埋土は P 1 が灰黃褐色シルト質細砂、P 2 が黒褐色シルト質極細砂の單一層である。地床炉と壁溝は認められなかった。

遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、検出面や他の遺構との関係等を総合的に判断すると弥生時代前期末であると考えられる。

S I 2-11 (第26図)

調査区中央南端において検出した円形堅穴建物であり、東側は S K 2-15 に切られており、遺構は調査区外南側へと延びる。検出面の標高は 54.52 m 前後である。掘り方は確認できず、壁溝、柱穴のみの検出であり、床面が検出面となった。平面形は円形を呈し、検出した径は 3.62 m を測る。

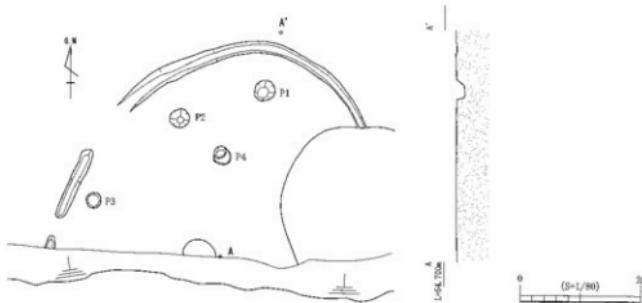
床面は平坦な直床であり、全く踏み固められていない。主柱穴として P 1 ~ 3 の 3 基が考えられる。その位置関係は円形に並ぶが不規則であり、明確な上屋を想定することが困難である。柱穴の平面形は



第25図 S I 2-10 平・断面図

円形を呈し、直径は 25 ~ 35cm、深さ 5 ~ 21cm を測る。壁溝は西側に途切れる部分が見られるが本来は全周していたと考えられる。壁溝の幅は 13 ~ 30cm、深さ 1 ~ 9cm を測る。地床炉は認められなかった。

遺物の出土が全くないため遺構の所属時期は不明確であるが、検出面や他の遺構との関係等を総合的に判断すると弥生時代前期末であると考えられる。



第26図 S I 2-11 平・断面図

掘立柱建物

S B 2-1 (第27図)

調査区中央の南側において検出した掘立柱建物であり、北列側柱と東列側柱の一部は調査区外東側へと延びる。建物の規模は南北 3 間 (4.98 m)、東西 2 間 (3.96 m)、床面積 19.72 m² を測る。検出面の標高は 54.50 ~ 54.64 m である。建物の主軸方位は N - 23° - E である。調査では 8 基の柱穴が検出されたが、北東側の調査区外に 2 基の柱穴の存在が想定される。柱穴の平面形は円形を呈し、直径 23 ~ 36cm、深さ 17 ~ 30cm を測る。最大の P 5 は直径 30 × 36cm、深さ 21cm を測る。西列側柱の芯々間距離は、P 2 - 3 間が 2.30 m、P 3 - 4 間が 1.40 m、P 4 - 5 間が 0.90 m である。埋土は 2 層である。全ての柱穴はほぼ水平堆積を示しており柱根は見られない。所属時期は検出面や他の遺構との関係から判断すると弥生時代前期末と考えられる。

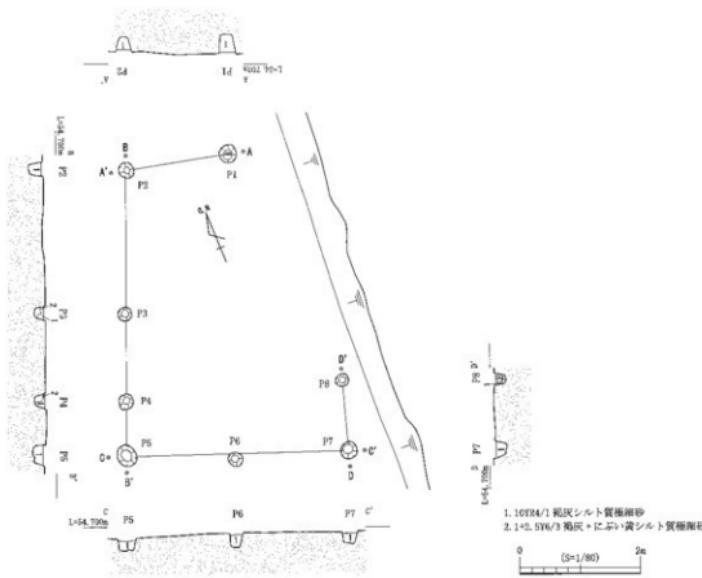
S B 2-2 (第28図)

調査区南西側において検出した南北 2 間 (3.40 m)、東西 3 間 (5.03 m)、床面積 17.10 m² を測る掘立柱建物である。検出面の標高は 54.37 ~ 54.46 m である。建物の主軸方位は N - 94° - E である。掘立柱建物は 10 個の柱穴から構成され、柱穴の平面形は円形ないし梢円形を呈し、直径 30 ~ 48cm、深さ 14 ~ 27cm を測る。最大の P 4 は直径 48cm、深さ 17cm を測る。柱穴の芯々間距離はほぼ等間隔である。埋土は 2 層である。全ての柱穴はほぼ水平堆積を示しており柱根は見られない。所属時期は小片で団化できなかつた出土土器、検出面や他の遺構との関係から判断すると弥生時代前期末と考えられる。

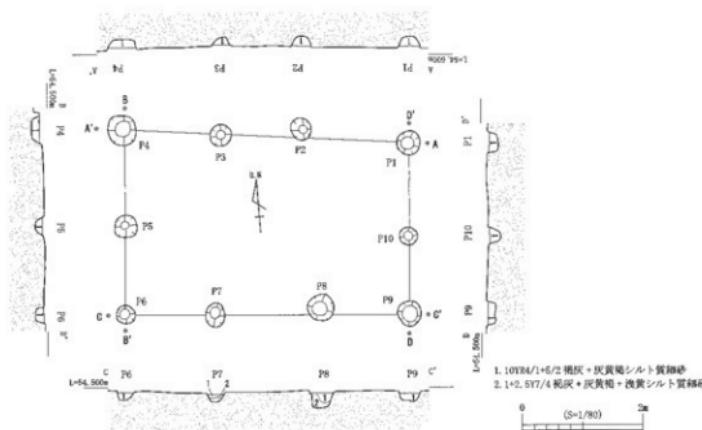
柵列

S A 2-1 (第29図)

調査区北東隅において検出した柵列である。検出面の標高は 54.20 ~ 54.45 m である。検出した柵列の全長は約 14.50 m であるが、北方向と南方向の調査区外に延びる。柵列は P 1 ~ 12 の 12 基の柱穴から構成され、やや湾曲するが方向は N - 15° - W であり、SD 2-1 の約 2.50 m 東側を平行に延びる。柱穴は 1.20 ~ 1.80 m の間隔で並んでおり、平面形は円形を呈し、直径 21 ~ 27cm、深さ 10 ~ 28cm を測る。



第27図 SB 2-1 平・断面図



第28図 SB 2-2 平・断面図

埋土はP 1・2が褐色+にぶい黄褐色シルト質極細砂、その他が褐色シルト質極細砂の單一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面やSD 2-1との関係から弥生時代前期末であると考えられる。本遺構はSD 2-1と平行に延びており、両者には密接な関係があると思われる。

S A 2-2 (第30図)

調査区ほぼ中央において検出した柵列であり、SI 2-1～3・11の東側に位置する。検出面の標高は54.35～54.52mである。検出した柵列の全長は13.20mを測るが、調査区外南側に延びる。柵列はP 1～5の5基の柱穴から構成され、北端が僅かに湾曲するが方向はN-36°-Eである。柱穴は2.00～3.60mの不規則な間隔で並んでおり、平面形は円形ないし梢円形を呈し、直径67～92cm、深さ13～22cmを測る。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土、他の遺構との関係から弥生時代前期末と考えられる。

S A 2-3 (第30図)

調査区北西側において検出した柵列である。検出面の標高は54.20～54.45mである。検出した柵列の全長は約21mを測るが、北側と西側の調査区外に延びる。柵列はP 1～8の8基の柱穴から構成され、南西から北方向に向かって緩やかな弧を描くように並ぶ。柱穴の間隔は2.20m以内と2.50m以上である。P 5とP 6の間は大きく間隔が開く。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は26～65cm、深さは12～25cmを測る。埋土はP 2・3が黒褐色シルト質極細砂、その他がにぶい黄褐色+黒褐色シルト質細砂である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土、他の遺構との位置関係から弥生時代前期末と考えられる。

S A 2-4 (第31図)

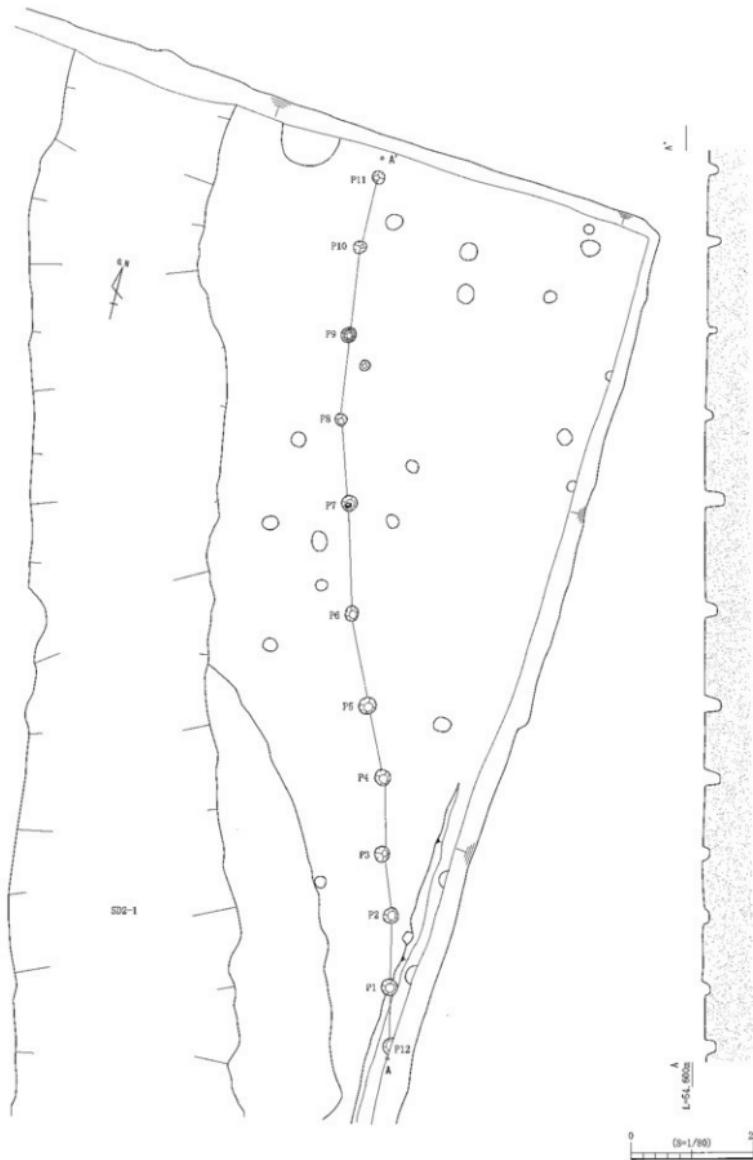
調査区中央やや西側において検出した柵列である。検出面の標高は54.27mである。柵列は3基の柱穴から構成され、全長は2.60mを測る。方向はN-13°-Eである。柱穴の間隔は1.00mと1.20mであり、平面形は円形を呈し、直径は24～35cm、深さは8～16cmを測る。埋土はP 2が黒褐色シルト質極細砂、その他がにぶい黄褐色+褐色シルト質細砂である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土、他の遺構との関係から弥生時代前期末と考えられる。

S A 2-5 (第31図)

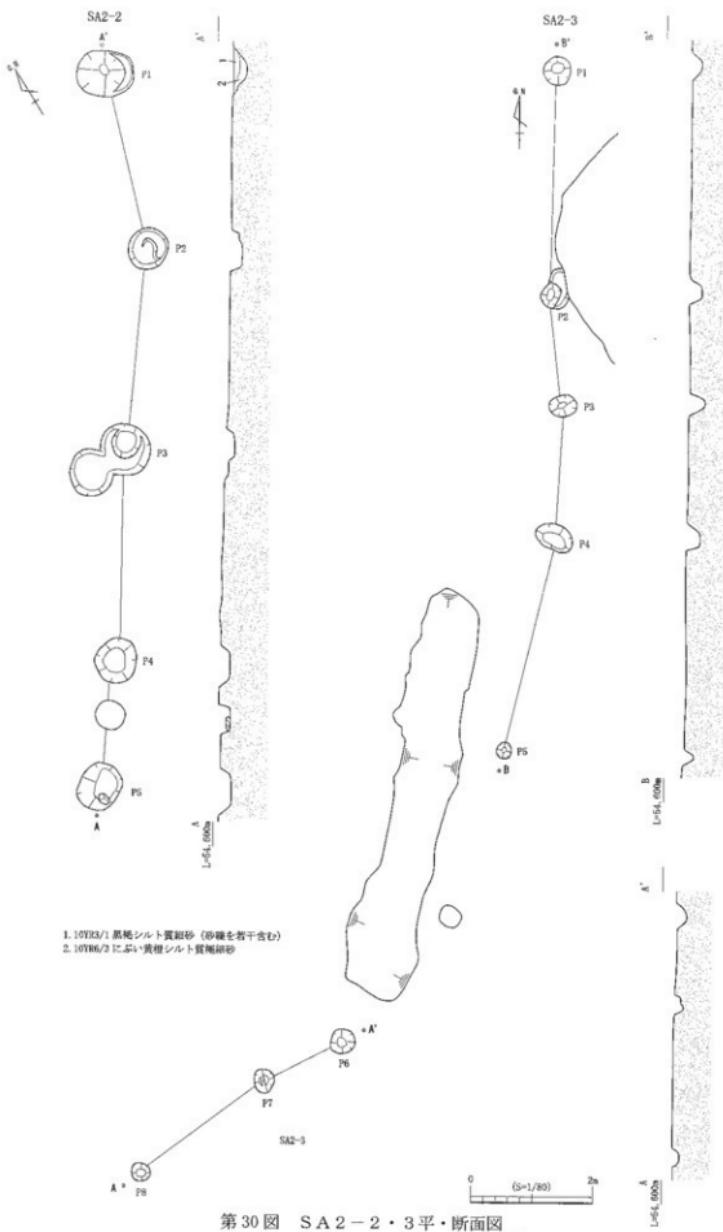
調査区北西隅において検出した柵列である。検出面の標高は54.25m前後である。柵列は3基の柱穴から構成され、全長は3.10mを測る。方向はN-17°-Eである。柱穴の間隔は1.20mと1.50mであり、平面形は円形を呈し、直径は35～42cm、深さは15～18cmを測る。P 1の埋土はにぶい黄褐色シルト質細砂、P 2が黒褐色シルト質極細砂、P 3がにぶい黄褐色+黒褐色シルト質細砂である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土、他の遺構との関係から弥生時代前期末と考えられる。

S A 2-6 (第31図)

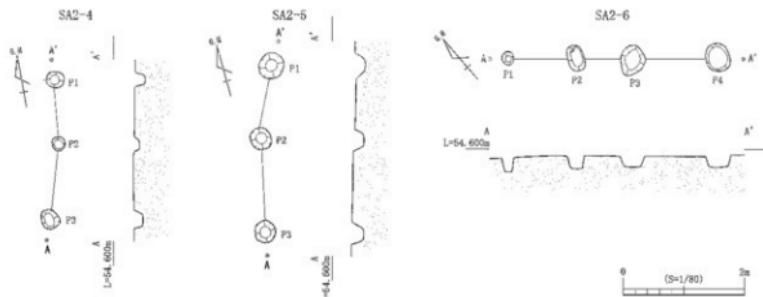
調査区南西隅において検出した柵列である。検出面の標高は54.48mである。柵列はP 1～4の4基の柱穴から構成され、全長は3.80mを測る。方向はN-132°-Eである。柱穴の間隔は0.90～1.40mであり、平面形は円形ないし梢円形を呈し、直径は22～51cm、深さは16～22cmを測る。P 1の埋土はにぶい黄褐色+黒褐色シルト質細砂、P 2がにぶい黄褐色シルト質細砂、P 3が浅黄色シルト質細砂を含む褐色シルト質細砂、P 4がにぶい黄褐色+褐色シルト質細砂である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土、他の遺構との関係から弥生時代前期末と考えられる。



第29図 SA 2-1 平・断面図



第30図 SA2-2・3平・断面図



第31図 SA2-4～6平・断面図

土坑

SK2-1 (第32図)

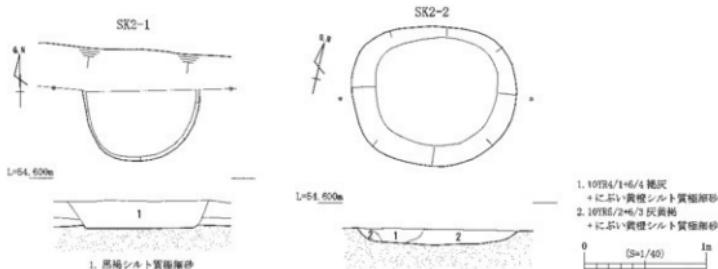
調査区北東隅において検出した土坑である。調査時の検出面は標高 54.23 m であるが、調査区北壁の土層観察では標高 54.40 m の第9層上面から掘り込まれていることが認められた。土坑の平面形は円形を呈し、北壁断面での直径は 1.16 m、深さは 24cm を測る。断面は逆台形であり、底面は平坦である。埋土は黒褐シルト質極細砂の單一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代後期以降と考えられる。

SK2-2 (第32図)

調査区中央やや東寄りにおいて検出した土坑である。検出面の標高は 54.36 m である。平面形は円形を呈し、直径 1.36 × 1.15 m、深さ 24cm を測る。掘り込みは緩やかな傾斜であり、底面は平坦である。埋土は 2 層に分層でき、第1層は褐灰土にぶい黄橙シルト質極細砂、第2層は灰黃褐土にぶい黄橙シルト質極細砂であり、第2層が大半を占める。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

SK2-7 (第33図)

調査区中央において検出した土坑であり、SA2-2 の P3 と重複する。検出面の標高は 54.48 m である。平面形は円形を呈し、直径 76cm、深さ 9 cm を測る。掘り込みはやや急傾斜であり、底面は平坦である。埋土は褐灰シルト質極細砂の單一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、SA2-2 との関係や検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。



第32図 SK2-1・2平・断面図

SK 2-8 (第33図)

調査区中央南端において検出した土坑であり、調査区外南側へと延び、SD 2-3を切る。検出面の標高は54.50mである。平面形は不整円形を呈し、直径2.00m、深さ37cmを測る。掘り込みは緩やかな傾斜であり、断面は逆台形を呈する。底面は平坦である。埋土は2層に分層でき、第1層は黄灰シルト質細砂、第2層は黄灰+黄褐色シルト質細砂であり、ともに砂礫を多量に含む。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、SD 2-3との関係や検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

SK 2-10 (第33図)

調査区ほぼ中央において検出した土坑であり、地山の微低地に厚く堆積する帶状の砂礫層の下で検出した。検出面の標高は54.45mである。平面形は円形を呈し、直径68×58cm、深さ20cmを測る。掘り方は北側に段を有する。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

SK 2-14 (第34図)

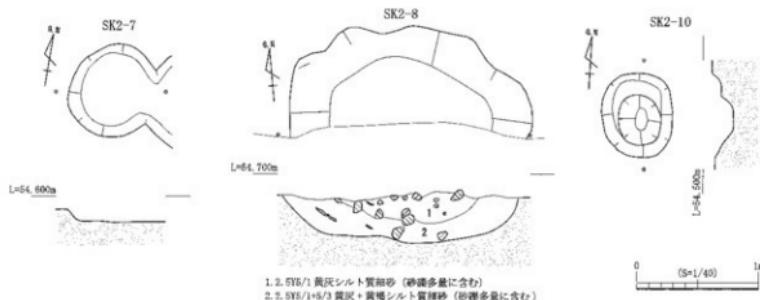
調査区ほぼ中央において検出した土坑である。検出面の標高は54.50mである。平面形は円形を呈し、直径70cm、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面は平坦である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

SK 2-15 (第34図)

調査区中央南端において検出した土坑であり、調査区外南側へと延び、SI 2-11を切る。検出面の標高は54.51mである。平面形は円形を呈し、直径2.65m、深さ33cmを測る。掘り込みは緩やかな傾斜であり、断面は逆台形を呈する。底面は南西側がやや高くなる。埋土は4層に分層でき、第1層は浅黄シルト+暗灰黄シルト質極細砂、第2層褐灰土+ぶい黄シルト質極細砂、第3層灰黄シルト質極細砂を含む褐灰シルト質極細砂、第4層にぶい黄シルト質極細砂であり、自然堆積である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、SI 2-11との関係や検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。第1層に地山を含むことから風倒木痕の可能性が高い。

SK 2-17 (第34図)

調査区ほぼ中央において検出した土坑である。検出面の標高は54.55mである。平面形は梢円形を呈し、直径73×50cm、深さ23cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面は平坦である。埋土はにぶい黄褐色シルト質極細砂を若干含む灰黃褐色シルト質極細砂の單一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。



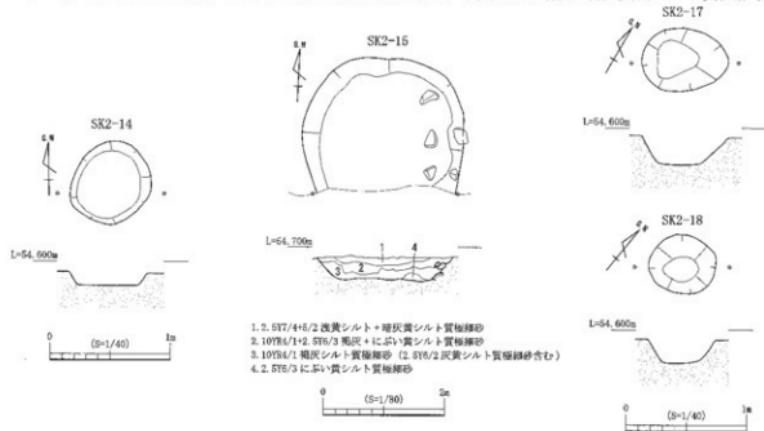
第33図 SK 2-7・8・10 平・断面図

S K 2 - 18 (第 34 図)

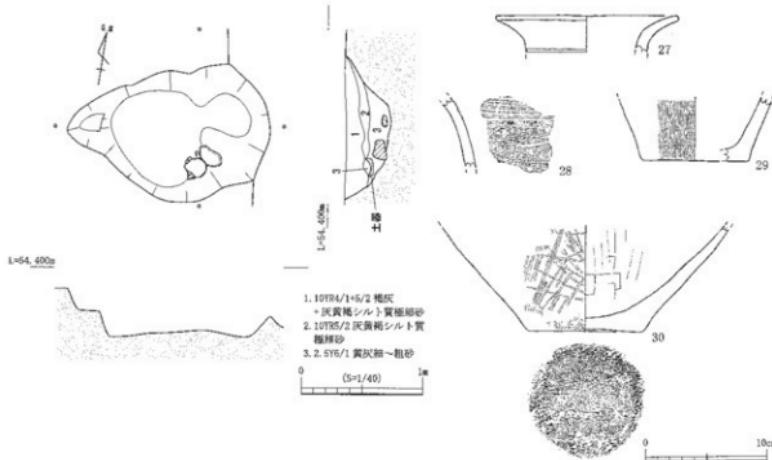
調査区ほぼ中央において検出した土坑である。検出面の標高は 54.55 m である。平面形は円形を呈し、直径 55cm、深さ 22cm を測る。断面は逆台形を呈し、底面は平坦である。埋土はにぶい黄褐色シルト質極細砂を若干含む灰黃褐色シルト質極細砂の單一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

S K 2 - 19 (第 35 図)

調査区北東側において検出した土坑であり、SD 2 - 1 に切られる。検出面の標高は 54.25 m 前後である。平面形は西方に尖る不整橢円形を呈し、直径は 1.68×1.07 m、深さは 37cm を測る。掘り方はやや急傾斜であり、西側に段を有する。底面は東側に大きく抉りの入る円形で、東端部がやや低くなっている。埋土は 3 層に分層でき、第 1 層は褐色 + 灰褐色シルト質極細砂、第 2 層灰褐色シルト質極細砂、



第 34 図 SK 2 - 14・15・17・18 平・断面図



第 35 図 SK 2 - 19 平・断面図、遺物実測図

第3層黄灰縫～粗砂である。埋土は第1・2層と第3層に大きく分けられ、第3層は洪水により短期間に堆積したと考えられる。遺物の出土は第3層が主体である。所属時期は出土土器から弥生時代前期末と考えられる。

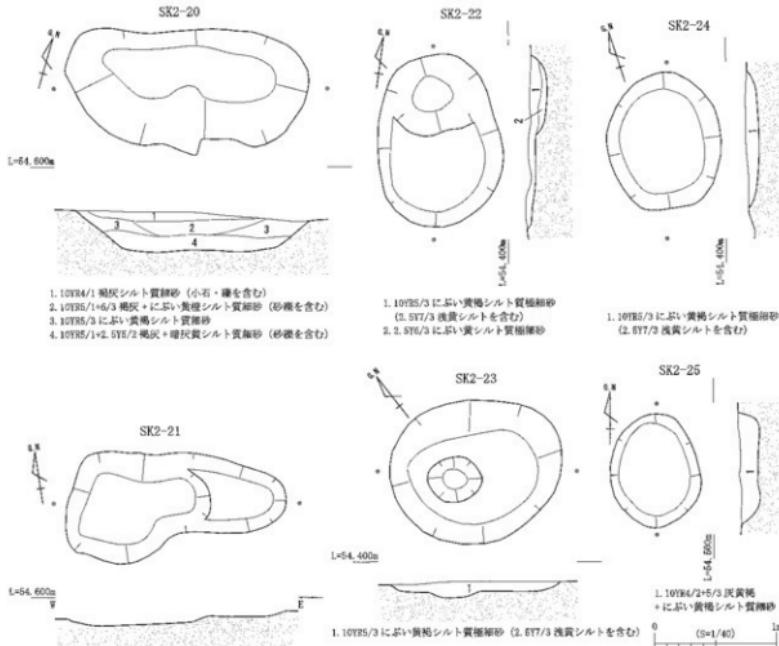
27は弥生土器壺の口縁部で、口縁部は緩やかに開き、端部を丸く納める。頭部にはヘラ描き沈線を施す。28は同壺の体部で、外面に5条のヘラ描き沈線を巡らし、ヘラミガキを施す。29は同壺の底部で、外面に縦方向のハケを施す。30は同壺の底部で、外面にハケ・ヘラミガキ、内面にヘラケズリを施す。

SK 2-20 (第36図)

調査区ほぼ中央東寄りにおいて検出した土坑である。検出面の標高は54.20mである。平面形は不整橢円形を呈し、直径2.00×0.90m、深さ32cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面は北方に片寄るが平坦である。埋土は4層に分層でき、第1層は小石・礫を含む褐灰シルト質細砂、第2層砂礫を含む褐灰+にぶい黄橙シルト質細砂、第3層にぶい黄褐シルト質細砂、第4層砂礫を含む褐灰+暗灰黄シルト質細砂である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

SK 2-21 (第36図)

調査区ほぼ中央において検出した土坑である。検出面の標高は54.50mである。平面形は不整橢円形を呈し、直径1.80×0.90m、深さ12cmを測る。底面は東側に段を有し、最深部は平坦である。埋土は黄褐シルト質細砂の単一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。



第36図 SK 2-20～25 平・断面図

S K 2 - 22 (第 36 図)

調査区西側ほぼ中央において検出した土坑である。検出面の標高は 54.25 m である。平面形は梢円形を呈し、直径 1.40×1.02 m、深さ 12cm を測る。底面は南側に段を有し、最深部は北端に片寄る。埋土は 2 層に分層でき、第 1 層は浅黄シルトを含むにぶい黄褐シルト質極細砂、第 2 層にぶい黄シルト質極細砂である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

S K 2 - 23 (第 36 図)

調査区西側ほぼ中央において検出した土坑である。検出面の標高は 54.22 m である。平面形は梢円形を呈し、直径 1.30×1.20 m、深さ 11cm を測る。底面は平坦であり、中央西寄りに円形の落ち込みがある。埋土は浅黄シルトを含むにぶい黄褐シルト質極細砂の單一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

S K 2 - 24 (第 36 図)

調査区西側ほぼ中央において検出した土坑である。検出面の標高は 54.23 m である。平面形は円形を呈し、直径 1.11×0.94 m、深さ 12cm を測る。掘り方は非常に緩やかであり、底面は平坦である。埋土は浅黄シルトを含むにぶい黄褐シルト質極細砂の單一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

S K 2 - 25 (第 36 図)

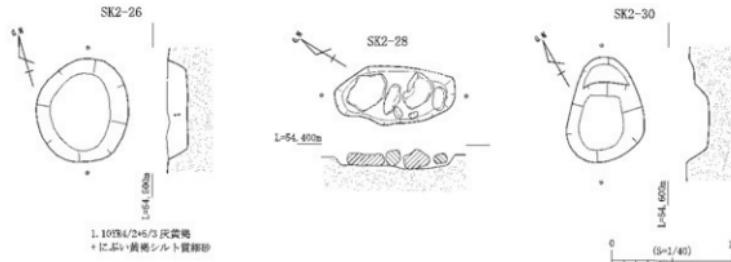
調査区南西側において検出した土坑である。検出面の標高は 54.30 m である。平面形は円形を呈し、直径 0.94×0.73 m、深さ 16cm を測る。断面は逆台形を呈し、底面は平坦である。埋土は灰黄褐土にぶい黄褐シルト質細砂の單一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

S K 2 - 26 (第 37 図)

調査区南西側において検出した土坑である。検出面の標高は 54.39 m である。平面形は円形を呈し、直径 0.85×0.73 m、深さ 19cm を測る。断面は逆台形を呈し、底面は平坦である。埋土は灰黄褐土にぶい黄褐シルト質細砂の單一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

S K 2 - 28 (第 37 図)

調査区北西隅において検出した土坑である。検出面の標高は 54.29 m である。平面形は梢円形を呈し、直径 0.99×0.46 m、深さ 12cm を測る。断面は逆台形を呈し、底面は東側がやや深くなる。土坑内に径 20 ~ 37cm の石が 4 個出土した。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。



第 37 図 S K 2 - 26・28・30 平・断面図

SK 2-30 (第37図)

調査区ほぼ中央の南端において検出した土坑である。検出面の標高は54.45mである。平面形は梢円形を呈し、直径 0.86×0.65 m、深さ18cmを測る。底面は北側に段を有し、最深部は平坦である。埋土はにぶい黄褐色シルト質細砂の單一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

溝

SD 2-1 (第38~50図)

調査区東端において検出した溝であり、SK 2-19・SX 2-1を切る。検出面の標高は54.30~54.60mであり、南方から北方に向かって緩やかに下がっている。調査区の南東隅から北端まで検出した溝の全長は29.70mであり、方向はN-16°-Wでほぼ直線的に延びる。最大幅は南側にあり4.15mを測る。南端部上面は近・現代の擾乱により大規模な削平を受けている。北側になるにしたがって溝の幅が狭くなっている。北壁土層観察ではSD 2-1が第8層から掘り込まれていたことを確認したが、溝中央より北側では地山が緩やかに下がっており、その部分に灰白細砂を含む黒褐色シルト質極細砂（第4図 第8層）が堆積しており、SD 2-1の埋土と酷似していただため調査時には地山まで掘り下げてSD 2-1を検出した。溝の断面は逆台形を呈する。最大深度は45cmを測り、底面の標高は南端で54.05m、北端で53.82mであり、その比高差は23cmあり、南から北へ流れていったことがうかがえる。底面はほとんど平坦である。埋土は7層に分層できる。第1層は黒褐色シルト質極細砂、第2層黒褐色シルト質極細砂、第3層灰褐色シルト質極細砂、第4層やや暗い黒褐色シルト質極細砂、第5層褐灰+灰褐色シルト質極細砂、第6層灰褐色シルト質極細砂、第7層第6層+にぶい黄褐色シルト質極細砂である。これらの埋土は上位の第1~4層と下位の第5~7層に大別できる。下位の第5~7層は層が薄く非常に硬くしまっており、上層との間に若干の時期差があると考えられる。遺物の取り上げは第1~4層を上層と中層に分け、第5~7層を下層・最下層に分けて行ったが、上面からのレベルを基準にしているので厳密な意味での層毎の遺物の取り上げはできていない。また、調査区南東隅の側溝掘削において出土した遺物もSD 2-1出土として報告する。

所属時期は出土遺物や検出面やSK 2-19との重複関係等から弥生時代前期末であり、遺構の性格は円形堅穴建物状遺構やSA 2-1との関係から濛濛の可能性が高いと考えられる。

31~35は上層から出土した弥生土器である。

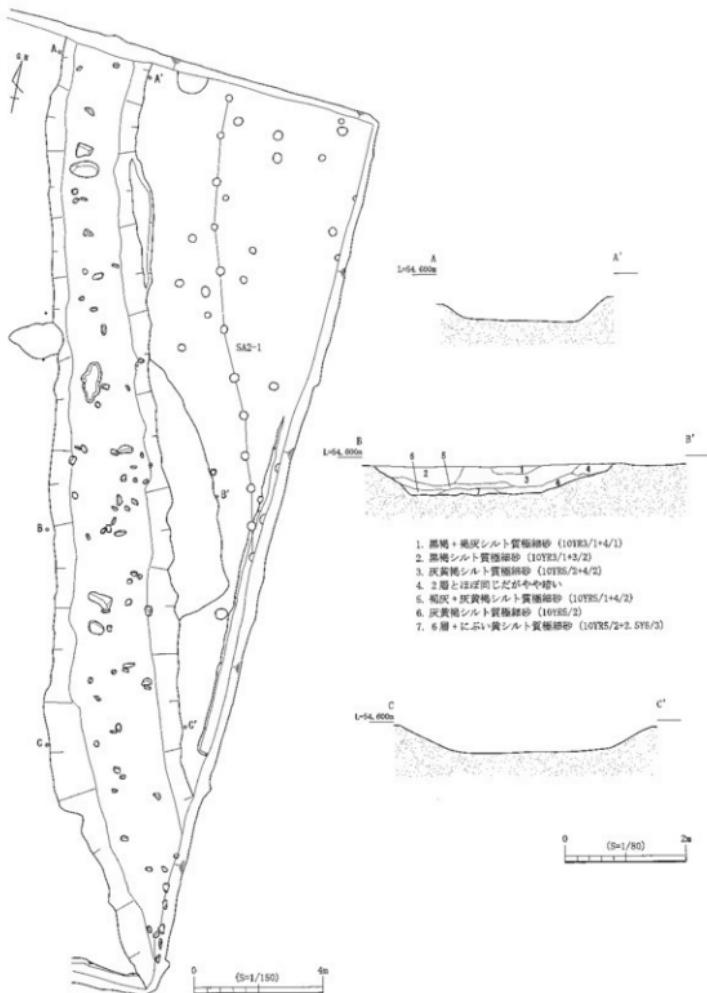
31・32(第39図)は壺である。31は口縁部が緩やかに広く開き、口縁端部に面を持つ。頭部には3条のヘラ描き沈線を施す。内外面ともに摩滅のため調整は不明である。32は口縁部が緩やかに開き、口縁端部を丸く納める。内面には貼付突帯を有する。内外面ともに摩滅が著しいが、外面にはヘラミガキ、内面にはナデと指オサエが部分的に見られる。

33・34(第39図)は甕である。33は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には4条のヘラ描き沈線を施す。貼付口縁には指頭圧痕が残る。34は如意状口縁のもので、口縁端部に刻み目を施す。外面の調整は指オサエとナデ、内面は横方向と縦方向のナデが施される。

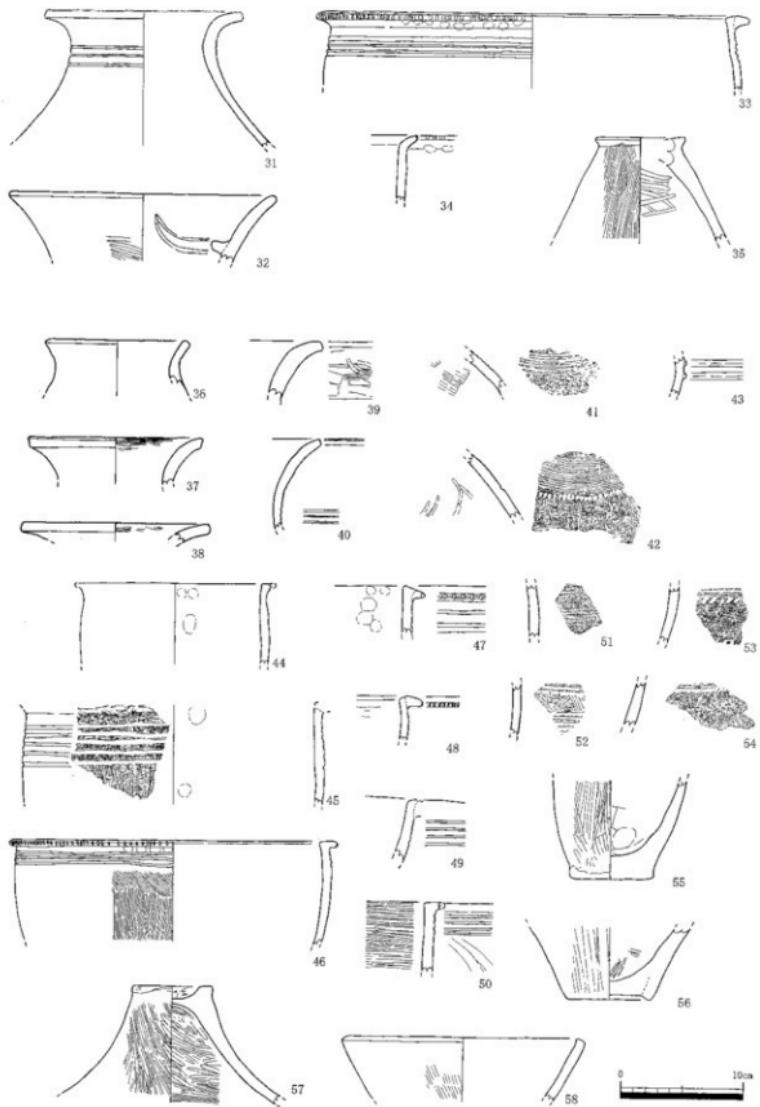
35(第39図)は蓋であり、直線的に広がる体部である。外面は縦方向のハケ、内面はナデ・横方向のヘラミガキが施される。

36~58は上~中層から出土した弥生土器である。

36~43(第39図)は壺である。36は口縁部が緩やかに短く広がり、口縁端部は面を持つ。調整は内



第38図 SD 2-1 平・断面図



第39図 SD 2-1 遺物実測図（1）

外面ともにナデが施される。37は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は面を持つ。口縁部内面に沈線状の浅い筋が見られる。外面は板ナデ後にナデ、内面はヘラミガキ・ヘラナデが施される。38の口縁部は大きく水平方向に広がり、外面はナデ、内面にはナデ・ヘラミガキが施される。39は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は面を持つ。頸部には1条のヘラ描き沈線が残存する。外面の調整は板ナデ後にヨコナデ・ヘラミガキが施される。40は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は僅かな面を持つ。頸部には3条のヘラ描き沈線を施す。外面ともに剥離が著しい。41は体部上半であり、外面に5条のヘラ描き沈線を施す。外面の調整はナデ、内面はハケが施される。42は体部上半であり、外面には7条1単位の椭描直線文と1条の刺突文を施す。外面の調整はハケ、内面はナデ・ヘラミガキが施される。43は体部上半であり、2条の貼付突帯を施す。

44～56（第39図）は甕である。44は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有するが、口縁端部を欠損する。外面の調整は縦方向の板ナデ・ナデ、内面は指頭圧痕の跡にナデが施される。45は逆「L」字状口縁のもので、口縁部は接合痕において剝離する。口縁直下に5条のヘラ描き沈線を施す。外面の調整は縦方向のハケの後にナデが施される。46は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下に3条のヘラ描き沈線を施す。体部はやや湾曲し、外面の調整は縦方向のハケが施される。47は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には3条のヘラ描き沈線を施す。48は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面をやや傾斜させる長い断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を施す。体部はやや湾曲する。49は逆「L」字状口縁のもので、貼付口縁は接合痕で剝離している。口縁直下には4条のヘラ描き沈線を施す。50は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部を欠損する。口縁直下に4条のヘラ描き沈線を施す。内面の調整は横方向の密なヘラミガキが施される。51は体部上位であり、ヘラ描き沈線と山形文を施す。外面の調整はハケが薄く残る。52は体部上位であり、ヘラ描き沈線と山形文を施す。53は体部上位であり、ヘラ描き沈線と刺突文を施す。外面の調整はナデ・ヘラミガキが施される。54は体部上位であり、ヘラ描き沈線により削出突帯風になる。55は底部であり、器形が盃である。外面の調整は縦方向のハケとヘラミガキ、内面は指オサエ・ナデ・指ナデ・板ナデが施される。底面の中心部はナデ、周辺は未調整である。56はやや上げ底の底部であり、断面に接合痕が見える。外面の調整は縦方向のヘラナデ、内面はナデ・ヘラミガキが施される。

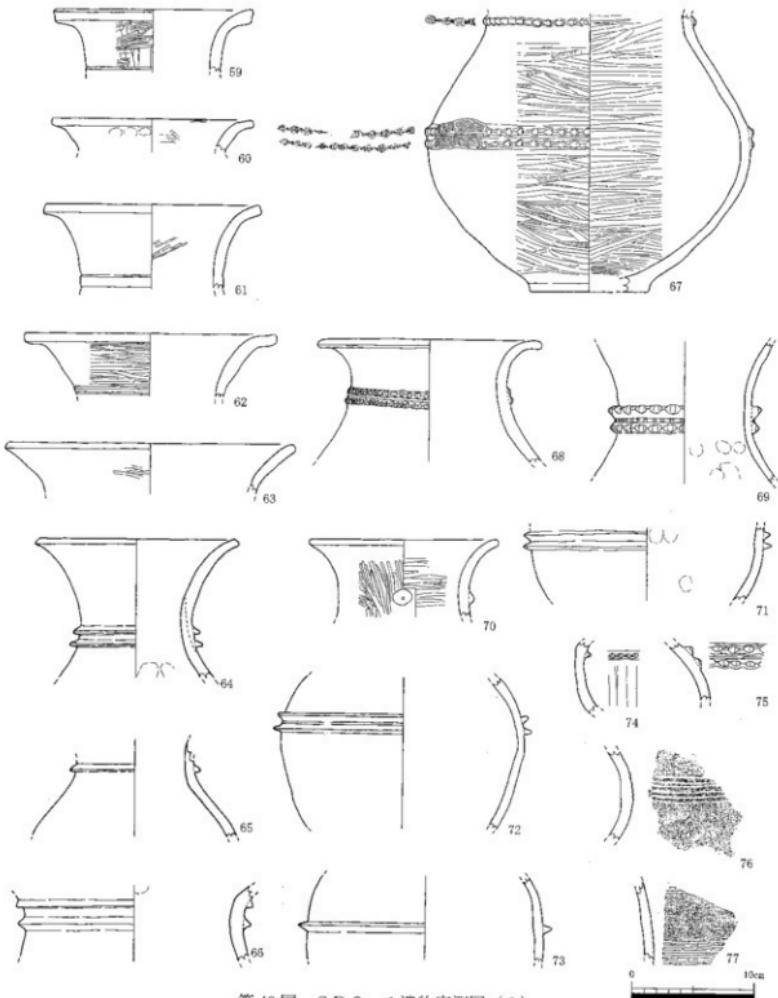
57（第39図）は蓋である。天井部外面は壅み、体部は緩やかに湾曲して開く。体部内外面の調整は密なヘラミガキが施され、天井部外面はヘラケズリ、内面は指オサエ後にヘラミガキが施される。

58（第39図）は鉢であり、口縁端部を僅かにつまみ上げる。

59～124は中層から出土した弥生土器である。

59～84（第40・41図）は壺である。59は口縁部が緩やかに短く広がり、口縁端部は面を持つ。頸部に1条のヘラ描き沈線を施す。口縁部外面の調整は指オサエ・板ナデの後にヘラミガキが施され、頸部外面は板ナデが施される。60は口縁部が緩やかに短く広がり、口縁端部を丸く納める。外面の調整は指オサエ後にヨコナデ、内面は摩滅が著しいがヘラミガキが部分的に残る。61は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は面を持つ。頸部に1条の削出突帯を施す。外面の調整はナデ、内面は摩滅するが部分的にヘラミガキが見える。62は口縁端部が水平方向に広がり、頸部に2条のヘラ描き沈線を施す。外面の調整は密なヘラミガキが施される。63は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は面を持つ。外面の調整はナデ・ヘラミガキが施される。64は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は面を持つ。頸部には断面三角形の貼付突帯を2条有する。口縁部内外面の調整はナデ・ヨコナデ、頸部内面は指オサエが施される。接合痕が明瞭に見える。65は頸部に断面三角形の貼付突帯を1条有する。体部外面はナデ、内面は指頭圧痕の

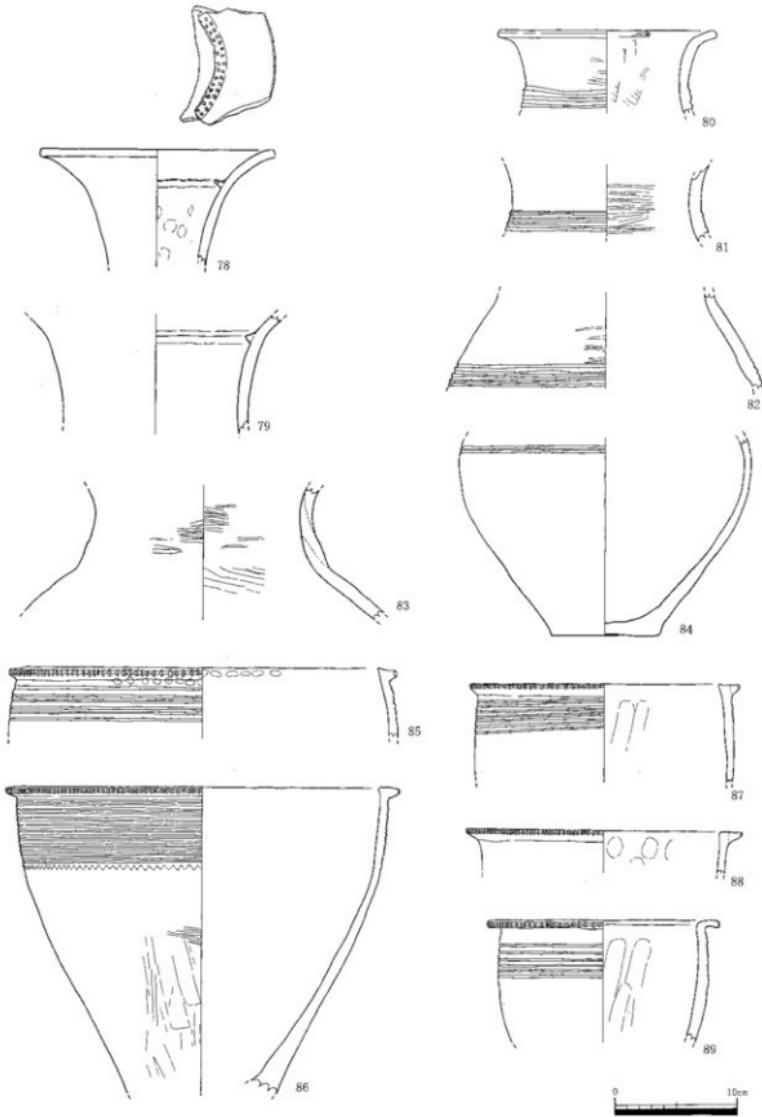
後にナデが施される。66は頸部に断面三角形の貼付突帯を2条有する。67は口縁部を欠損する。頸部と体部最大径部に指頭圧痕を施す貼付突帯が見られる。外面の調整はハケ後に密なヘラミガキ、内面は密なヘラミガキが施される。体部最大径部の貼付突帯の下には沈線が基準として1条施される。68は口縁端部が水平方向に広がり、頸部に2条の貼付突帯を廻らす。突帯上には指頭圧痕が施される。調整は内外面ともにナデが施される。69は頸部に2条の貼付突帯を廻らす。突帯上には指頭圧痕が施される。突帯の間に円形刺突文がある。外面の調整はナデ、内面はナデ・指オサエが施される。70は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は丸く納める。外面に円錐形の浮文を1個有する。外面の調整は縦方向のヘ



第40図 SD 2-1 遺物実測図 (2)

ラミガキ、内面は横方向のナデ・ヘラミガキが施される。71は体部下半であり、最大径部に断面三角形の貼付突帯を2条廻らす。突帯付近の調整はヨコナデが施される。72は体部中位であり、最大径部に断面やや長い三角形の貼付突帯を2条廻らす。突帯付近の調整はヨコナデが施される。73は体部中位であり、最大径部に断面三角形の貼付突帯を1条廻らす。74は頸部に刻み目のある貼付突帯を1条廻らす。外面の調整は縦方向のナデが施される。75は体部上位であり、指頭圧痕を施す貼付突帯が2条見られる。76は体部中位であり、ヘラ描き沈線を6条施す。77は体部中位であり、2条以上と6条以上の2段のヘラ描き沈線を施す。内外面の調整はヘラミガキが施される。78は口縁部が緩やかに大きく広がり、口縁端部は面を持つ。内面に2列の円形刺突文を施す貼付突帯が廻る。外面の調整はナデ、内面は指オサエ後にナデが施される。79は内面に断面三角形の貼付突帯を1条廻らす。80は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は丸く納める。頸部に削出突帯を3条施す。外面の調整はナデ・ヘラミガキ、内面はハケ後にナデが施される。81は頸部であり、4条の削出突帯を施す。外面の調整はナデ、内面は横方向のヘラミガキが施される。82は体部上半であり、4条の削出突帯を施す。外面の調整は部分的にナデ・ヘラミガキ、内面はナデが施される。83は体部上位から頸部であり、頸部内外面の調整はナデ・ヘラミガキ、体部外面は摩滅、内面はヘラナデが施される。断面に輪積み痕が明瞭に見える。84は底部から体部中位であり、最大径部に2条のヘラ描き沈線を施す。底面の調整は指オサエ後にナデが施される。

85～104（第41・42図）は臺である。85は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面をやや傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を施す。口縁直下に6条のヘラ描き沈線を施す。口縁部内外面に指オサエが残る。86は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有し、底部を欠損する。口縁直下に15条のヘラ描き沈線と1条の山形刺突文を施す。体部下半の調整は板ナデ・ヘラミガキが施される。87は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下に7条のヘラ描き沈線を施す。外面の調整はナデ、内面は指ナデ後にナデが施される。88は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面が長い三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を施す。貼付口縁の接合痕が明瞭に残る。外面の調整は縦方向のナデ、内面は指オサエ後にナデが施される。89は逆「L」字状口縁のもので、口縁端部に刻み目を、口縁下に6条のヘラ描き沈線を施す。口縁部外面には指オサエが見られる。90は如意状口縁のもので、口縁直下には6条のヘラ描き沈線を施す。内外面の調整はナデが施される。91は如意状口縁のもので、口縁端部には刻み目を施す。口縁直下には4条の櫛描き直線文を施す。口縁部外面に指オサエ、体部内面にヘラナデが施される。92は如意状口縁のもので、口縁端部には刻み目を、口縁下に4条のヘラ描き沈線を施す。体部外面の調整はハケ後にナデ、内面はナデが施される。93は逆「L」字状口縁のもので、口縁端部に刻み目を、口縁下に6条のヘラ描き沈線を施す。最上の沈線にはヘラの始点と終点が見られる。体部外面は摩滅、内面の調整は板ナデ・ナデが施される。94は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には7条以上のヘラ描き沈線を施す。沈線は重なり合う部分がある。内外面の調整はナデが施され、口縁部内面には指オサエが残る。95は逆「L」字状口縁のもので、口縁部直下に断面三角形の貼付突帯を有する。突帯の先端には小さな刻み目が施される。突帯直下には5条のヘラ描き沈線を施す。96は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には6条のヘラ描き沈線を施す。体部外面の調整は縦方向の板ナデ、内面は板ナデ・ナデが施される。輪積み痕が明瞭に残る。97は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には小さな刻み目を、口縁直下に1条のヘラ描き沈線を施す。98は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面四角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁部の水平面にヘラ描き山形文を施す。99は直立する口縁のもので、口縁部



第41図 SD 2-1遺物実測図(3)

直下に断面三角形の貼付突帯を有する。突帯の先端には小さな刻み目が施される。突帯直下には3条のヘラ描き沈線を施す。100は如意状口縁のもので、口縁端部には刻み目を、口縁直下に4条のヘラ描き沈線を施す。101は如意状口縁のもので、口縁部は短い。外面の調整は横方向のハケ、内面は板ナデ・ヘラミガキが施される。102は如意状口縁のもので、口縁部は短い。口縁部直下には柳描き直線文を施す。103・104は体部片であり、外面にヘラ描き沈線とヘラ描き山形文が施される。

105～114（第43図）は底部である。105の底部中心部は未調整である。106の外面の調整はナデ・密なヘラミガキ、内面はナデ後にヘラミガキ、指ナデが施される。107は底径11.4cmを測り、左右非対称な器形をなす。底部は未調整で、イネ穂のスタンプ痕が付いている。108は歪な底部で、体部は急角度で立ち上がる。外面の調整は縦方向のハケ、内面はナデが施される。109は底部の器壁が厚く、外面の調整は縦方向のハケ、内面はナデが施される。底部は未調整で、イネ穂のスタンプ痕が付いている。110の外面調整は縦方向のハケ、内面はナデが施され、底部にはイネ穂のスタンプ痕が付いている。111は底径12.2cmを測り、体部内外面の調整はナデ、部分的にヘラミガキが施される。112は体部が外反気味に急角度で立ち上がる。外面の調整は縦方向のハケ、内面はナデ・指ナデが施される。113は体部が



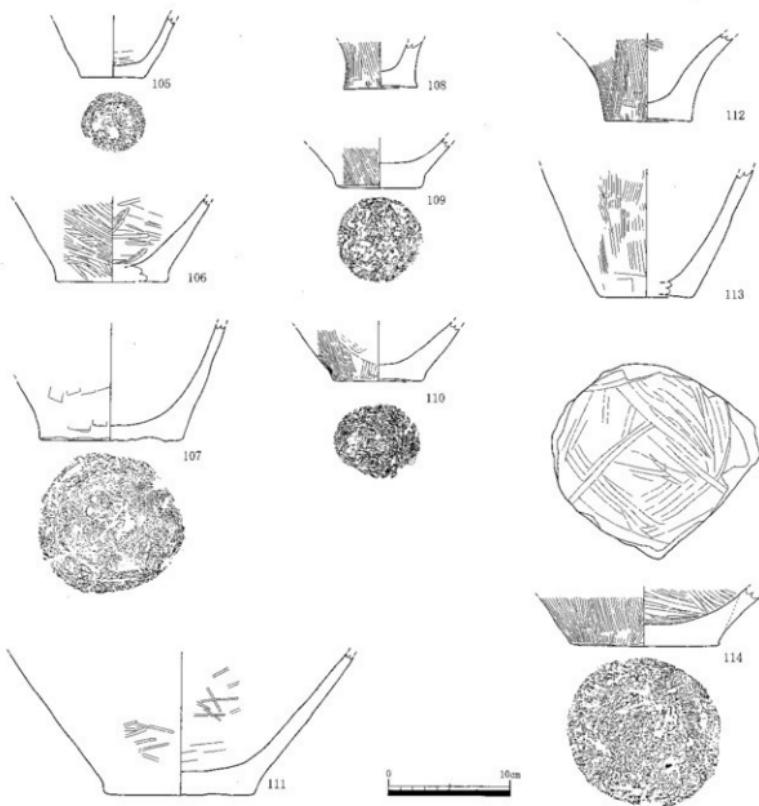
第42図 SD 2-1 遺物実測図(4)

急角度で立ち上がる。外面の調整はハケ・ナデ、内面はナデが施される。114は底径12.2cmを測り、外面の調整は縦方向のハケ、内面は指オサエ・ナデの後にヘラミガキが施される。底部は未調整で、イネ初のスタンプ痕が付いている。輪積み痕が明瞭に残る。

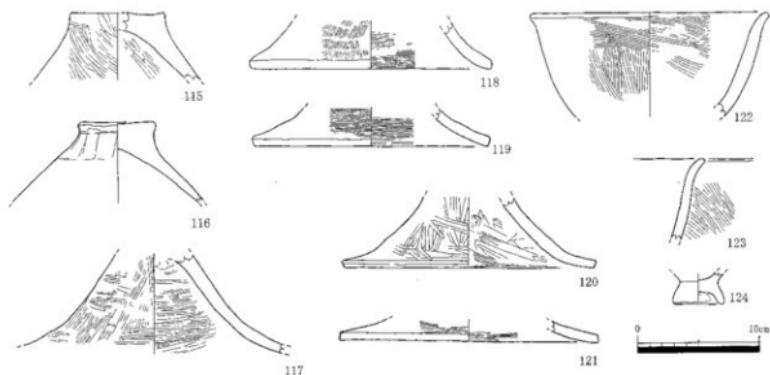
115～121（第44図）は甕蓋である。115は内外面ともに縦方向のヘラミガキが施される。116は外面にヘラナデ・ナデ、内面にナデが施される。117は直線的に開いた後、口縁部付近で強く聞く。外面の調整は縦方向のハケ後に部分的にヘラミガキ、内面は指オサエ・板ナデの後に密なヘラミガキが施される。118は口縁部付近でやや聞く。外面の調整は縦方向のハケ、内面はナデ・ハケが施される。119は内外面ともに密なヘラミガキが施される。120は直線的に開いた後、口縁部付近で強く聞く。外面の調整はナデ・ヘラミガキ、内面は板ナデの後に部分的にヘラミガキが施される。121は口縁部で強く聞く。内外面の調整はヘラミガキが施される。

122・123（第44図）は鉢である。122は口縁部が短く外反し、内外面の調整はナデ・ハケが施される。123は口縁部が外反し、外面の調整はハケ、内面は指オサエ後にナデが施される。

124（第44図）は高杯であり、脚部外面の調整はナデ、内面はナデ・指オサエが施される。



第43図 SD 2-1 遺物実測図 (5)



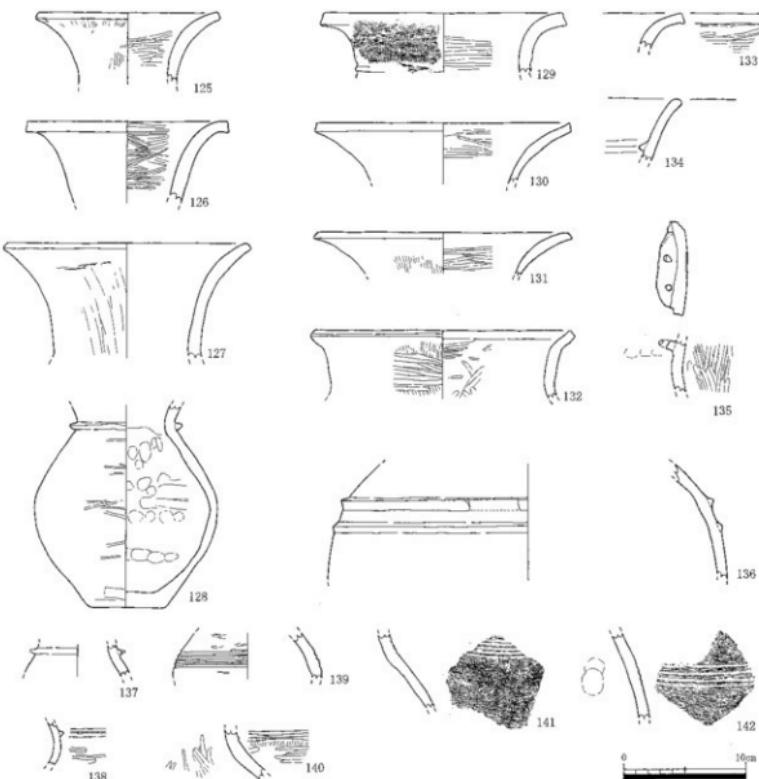
第44図 SD 2-1 遺物実測図（6）

125～178は下層～最下層から出土した弥生土器である。

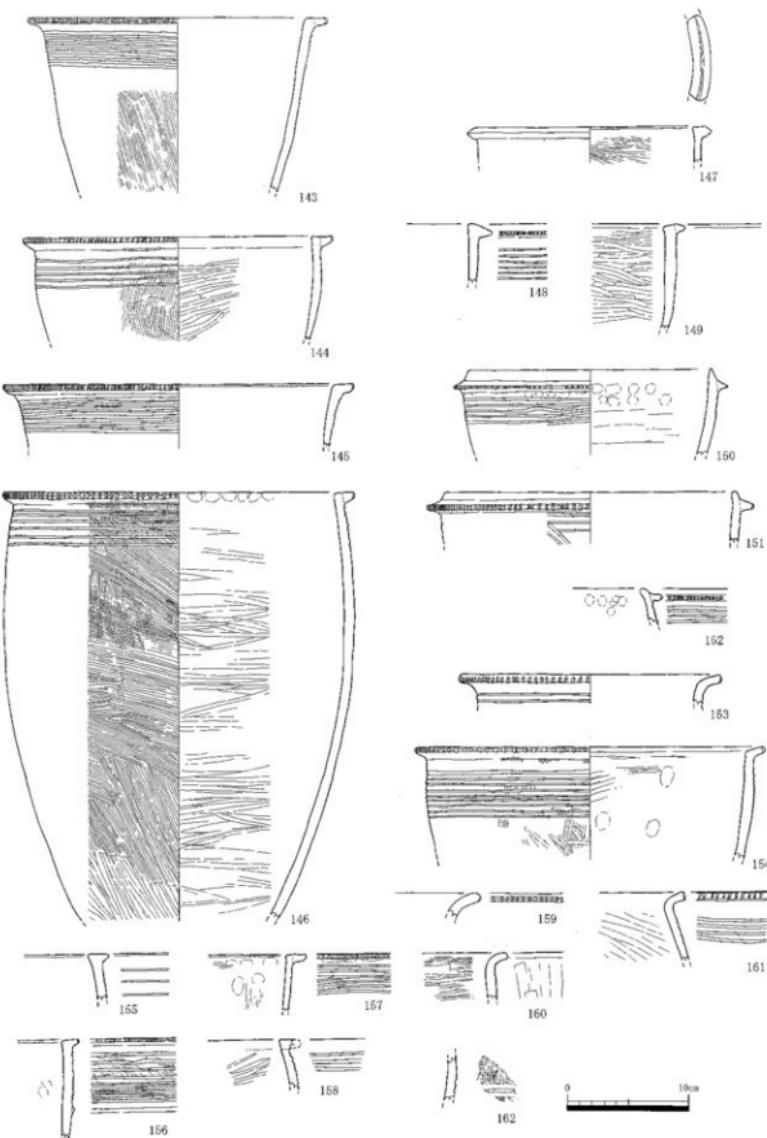
125～142（第45図）は壺である。125は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は面を持つ。外面の調整は縦方向のハケ後にヨコナデ、内面はヘラミガキが施される。126は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は水平に広がり面を持つ。外面は摩滅するが部分的にナデが見られ、内面の調整はナデ・ヘラミガキが施される。127は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は面を持つ。外面の調整は板ナデ、内面はナデが施され、外面には工具痕が残る。128は口縁部を欠損する。最大径を体部中央に持ち、頸部に断面三角形の貼付突帯を施す。体部外面の調整はナデ・ヘラミガキ、底部近くは板ナデが施される。内面は指オサエ・指ナデ・ナデ、底面は1方向の指ナデが施される。129は口縁部が広がり、口縁端部は面を持つ。頸部に削出突帯を施す。外面の調整はハケ後に若干のヘラミガキ、内面はヘラミガキが施される。130は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は面を持つ。外面の調整はナデ、内面はナデ後にヘラミガキが施される。131は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は面を持つ。外面の調整は縦方向のハケ後にナデ、内面はヘラミガキが施される。132は口縁部が僅かに広がり、口縁端部付近で外に広がる。外面の調整はハケ後にナデ・ヘラミガキ、内面はヨコナデ・部分的にナデが施される。133は口縁端部が面を持ち、外面の調整はヘラミガキが施される。134は口縁部が緩やかに広がり、内面に断面三角形の貼付突帯を有する。135は頸部であり、内面に2個の孔のある把手状の貼付突帯を有する。外面の調整はヘラミガキが施される。136は体部上半であり、外面に断面三角形の貼付突帯を2条有する。突帯を欠損する部分では貼り付ける際に基準とした1条の沈線が見られる。外面の調整はヨコナデ、内面はナデが施される。137は頸部に断面三角形の貼付突帯を1条施す。138は体部中位であり、細かな刻み目のある貼付突帯を1条施す。139は体部上半であり、4条のヘラ描き沈線を施す。外面の調整は部分的にヘラミガキ、内面はナデが施される。140は頸部に1条の削出突帯を施し、141は5条の削出突帯を施す。142は3条のヘラ描き沈線を施す。

143～162（第46図）は甕である。143は逆「L」字状口縁のもので、体部は直線的である。口縁部上面を水平にする断面が長い三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には7条のヘラ描き沈線を施す。体部外面の調整は縦方向のハケ後にナデ、内面はナデが施される。144は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、

口縁直下には5条のヘラ描き沈線を施す。体部外面の調整は縦方向のハケ、内面はヘラミガキが施され、口縁直下に工具痕が残る。145は逆「L」字状口縁のもので、体部は直線的である。口縁部上面を水平にする断面が長い三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には7条のヘラ描き沈線を施す。146は逆「L」字状口縁のもので、体部は長胴である。口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には6条のヘラ描き沈線を施す。体部外面の調整はハケ、底部近くはヘラミガキ、内面はヘラミガキが施される。口縁部上面に指オサエが残る。147は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁直下に工具痕が残り、内面はヘラミガキが施される。148は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には6条のヘラ描き沈線を施す。149は「L」字状口縁のもので、断面三角形の貼付口縁を有する。外面の調整はナデ、内面はヘラミガキが施される。150は直立する口縁のもので、口縁部直下に断面三角形の貼付突帯を有する。突帯の先端には細かな刻み目が施される。突帯直下には5条のヘラ描き沈線を施す。突帯直下と内面に指オサエが残る。151は直立する口縁のもので、口縁部直下に断面が長い三角形の貼付突帯を有する。突帯



第45図 SD 2-1 遺物実測図(7)



第46図 SD 2-1 遺物実測図 (8)

の先端には刻み目が施される。突帯直下には3条のヘラ描き沈線と山形文を施す。152は直立する口縁のもので、口縁部直下に断面が長い三角形の貼付突帯を有する。突帯の先端には細かな刻み目が施される。突帯直下には4条のヘラ描き沈線を施す。内面に指オサエが残る。153は如意状口縁のもので、口縁端部には刻み目を、口縁直下に2条のヘラ描き沈線を施す。154は逆「L」字状口縁のもので、口縁端部には刻み目を、口縁直下に9条のヘラ描き沈線を施す。外面の調整はハケ後にヘラミガキ、内面は指オサエ後にヘラナデ・ヘラミガキが施される。155は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁直下にヘラ描き沈線を広い間隔で3条施す。156は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には細かな刻み目を、口縁直下には9条のヘラ描き沈線を施す。沈線直下には断面三角形の貼付突帯を有する。沈線はヘラ描きの始点と終点が見られる。157は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には細かな刻み目を、口縁直下には6条のヘラ描き沈線を施す。沈線はヘラ描きの終点が見られる。158は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部は欠損し、口縁直下には3条のヘラ描き沈線を施す。内面の調整はヘラミガキが施される。159は如意状口縁のもので、口縁端部には刻み目を施す。160は如意状口縁のものである。161は如意状口縁のもので、口縁端部には刻み目を、口縁直下に4条のヘラ描き沈線を施す。内面の調整は板ナデが施される。162は2条のヘラ描き沈線と山形刺突文を施す。

163～172（第47図）は底部である。163は平底で、外面の調整は縦方向のハケ、底部と内面はナデが施される。164はやや上げ底であり、外面の調整はナデ・ヘラナデ、内面はナデ・指ナデ、底部はナデが施される。内面に工具痕が残る。165は平底で、接合痕が残る。内外面の調整はナデが施される。底部にイネ穂のスタンプ痕が付いている。166はやや上げ底であり、外面の調整は板ナデ、内面は指オサエ後にナデ・ヘラミガキが施される。底部は中央に「十」状のヘラ記号が見られる。167は平底で、内外面の調整はナデ・ヘラミガキが施される。168は平底で、底部の器壁が厚い。外面の調整はヘラケズリ後に板ナデ、内面はナデ、内面中央は1方向の指ナデが施される。169はやや上げ底気味の底部であり、内外面の調整はナデ後にヘラミガキが施される。底部はヘラケズリが施され、イネ穂のスタンプ痕が付いている。170はやや上げ底気味の底部であり、外面の調整はナデ後にヘラミガキ、内面はナデ・指オサエが施される。底部にイネ穂のスタンプ痕が付いている。171は復元底径16.4cmであり、体部は緩やかな傾斜で立ち上がる。内外面の調整はナデ・ヘラミガキが施される。底部周縁はヘラケズリ、中央はナデが施される。172は復元底径11.2cmの平底で、体部は緩やかな傾斜で立ち上がる。外面の調整はナデ・ヘラミガキ、内面はナデ・指オサエ、底部は指オサエが施される。

173～176（第47図）は蓋である。173は天井部の破片であり、外面の調整は板ナデ、内面はナデが施され、工具痕が残る。174は天井部の破片であり、外面中央が瘤む。接合痕が明瞭に見える。175は天井部の破片であり、器壁が厚い。内外面に指オサエが残り、接合痕が見える。176は天井部外が広く瘤み、体部は直線的に開く。天井部の器壁は厚く、接合痕が見える。外面の調整はナデ・ヘラミガキ、内面はナデが施される。

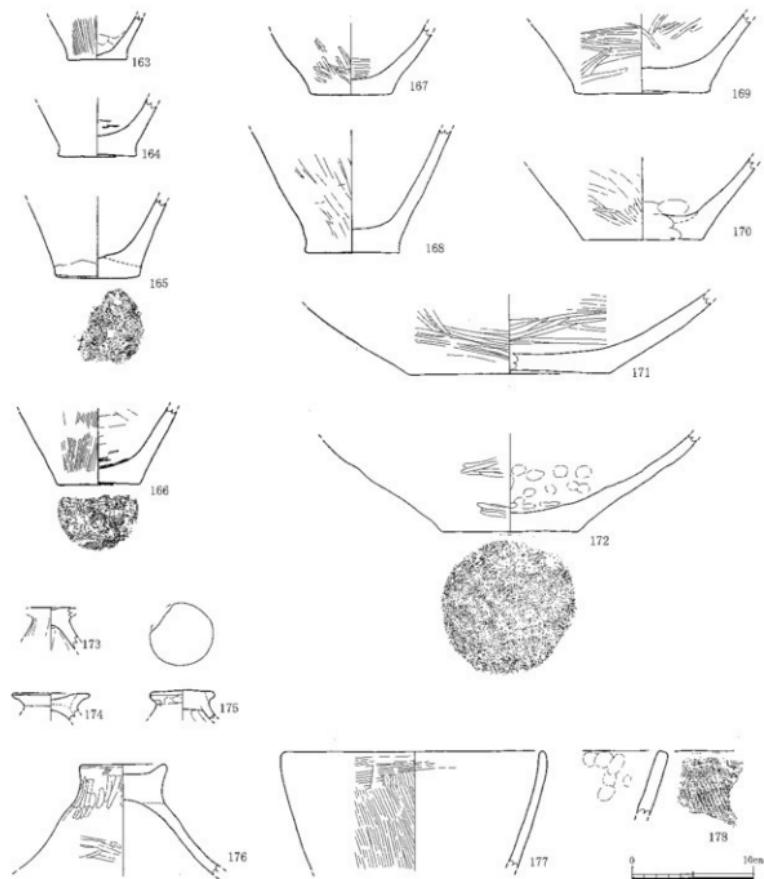
177・178（第47図）は鉢である。177は直線的な体部からそのまま口縁部となる。外面の調整は横方向と縦方向のハケが施され、内面は摩滅するが僅かに板ナデが残る。178は外面の調整がハケ、内面が指オサエ後にナデである。

179～197は側溝出土の弥生土器と出土した土層が不明の弥生土器である。

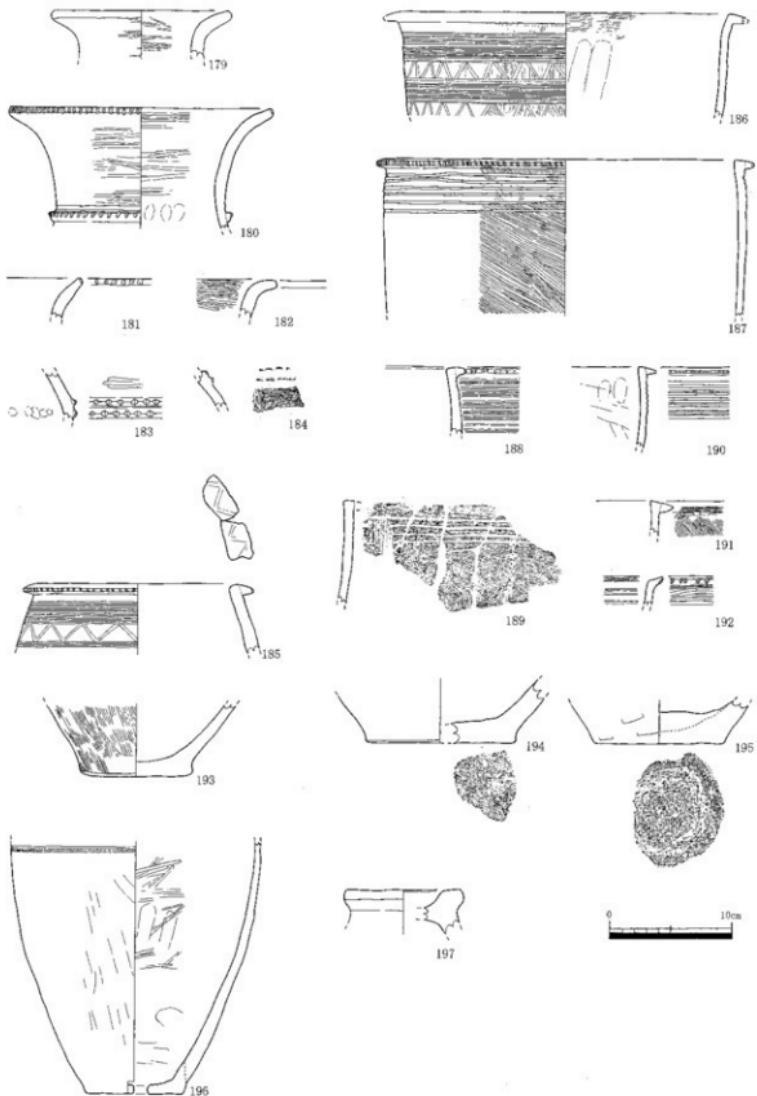
179～184（第48図）は壺である。179は口縁部が緩やかに短く広がり、口縁端部を丸く納める。内外面の調整はナデ・ヘラミガキが施される。180は口縁部が緩やかに広がり、口縁端部は刻み目を施す。頸部に刻み目のある断面三角形の貼付突帯を1条施し、突帯直上には1条のヘラ描き沈線を施す。内外

面の調整はナデ・ヘラミガキが施される。181は口縁部が短く広がり、口縁端部に刻み目を施す。182は口縁端部付近が大きく外反し、内面の調整は密なヘラミガキが施される。183・184は体部上位の破片であり、2条の貼付突帯を廻らす。突帯上には指頭圧痕が施される。

185～192（第48図）は甕である。185は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には小さな刻み目を、口縁直下には8条のヘラ描き沈線と山形文と3条以上のヘラ描き沈線を施す。口縁部にはヘラ描きの山形文を施す。186は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁直下には10条のヘラ描き沈線と山形文と8条のヘラ描き沈線と山形文を施す。外面の調整はハケ後にナデ、内面はハケ・ナデ・指ナデが施される。187は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には6条のヘラ描き沈線を施す。外面の調整は斜め方向のハケ、内面



第47図 SD 2-1 遺物実測図 (9)



第48図 SD 2-1 遺物実測図 (10)

は指オサエ後にナデが施される。188は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には16条の櫛描き直線文を施す。189は逆「L」字状口縁のもので、貼付口縁を欠損する。口縁直下には4条のヘラ描き沈線を施す。外面の調整はハケ、内面はナデ・ヘラミガキが施される。190は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には細かな刻み目を、口縁直下には8条のヘラ描き沈線を施す。191は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。外面の調整はハケが施される。192は如意状口縁のもので、口縁端部に刻み目を施す。外面の調整はヘラミガキが施される。

193～195（第48図）は底部である。193は平底で、断面に接合痕が残る。外面の調整はハケ、底部はナデが施される。194は平底で、底部にイネ穂のスタンプ痕が付いている。195は器壁の厚い平底で、底部にイネ穂のスタンプ痕が付いている。

196（第48図）は瓶であり、底部中央に孔を有する。体部上位にヘラ描き沈線と三角形の刺突文を施す。外面の調整は板ナデ後にナデ、内面は指ナデ・ナデ・ヘラミガキが施される。

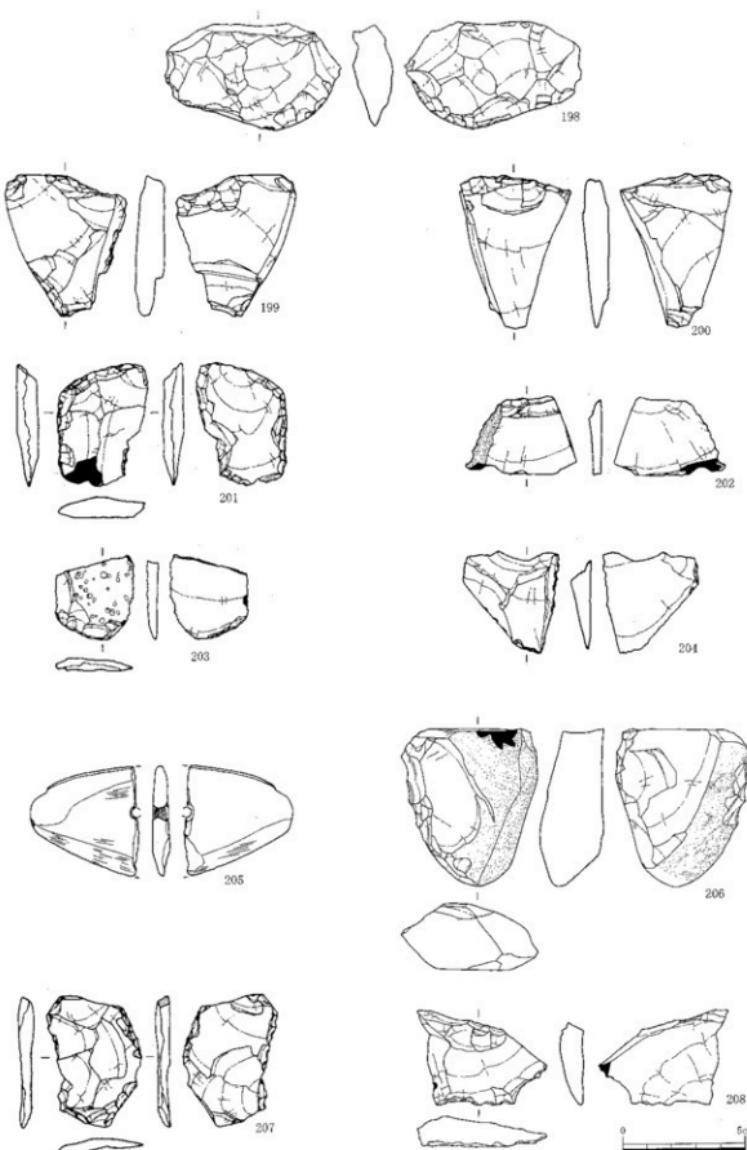
197（第48図）は堀蓋の天井部であり、外側が広く隆む。

198～204（第49図）は上～中層より出土した石製品であり、石材はすべてサヌカイトである。198～200は楔形石器である。198は横長剥片素材で、下端部に頗著な潰れが確認でき、階段状剥離と思われる剥離が一部にある。199・200は板状石材を素材とし、上・下端部に潰れが確認できる。201・202はスクレイバーである。201の背部には背潰加工は認められず、刃部は背面側に調整が認められる。202は側面に自然面を残し、刃部は欠損する。203・204は微細剥離痕のある剥片である。203は自然面を有し、二次加工痕がある。

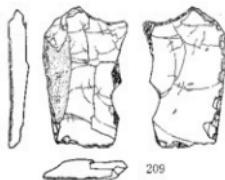
205～212（第49・50図）は中層より出土した石製品である。石材は流紋岩である205を除き、その他はサヌカイトである。205は磨製石包丁で、背部と刃部が湾曲する杏仁形で、両刃である。紐部で欠損する。孔は両側から穿孔する。206は打製石斧の剥片で、先端部に使用痕が確認できる。207～210はスクレイバーである。207は背部が自然面、刃部と両側辺に両面調整する。208は背部の腹面側に調整、刃部の腹面側に微細剥離痕が確認できる。209は刃部に微細剥離痕が確認でき、1側辺に両面調整が確認できる。210は不整形な形状を呈するが微細剥離痕が確認できる。211・212は微細剥離痕のある剥片である。212は階段状剥離が確認できる。

213～216（第50図）は下～最下層より出土した石製品である。石材はすべてサヌカイトである。213・214はスクレイバーである。213は背部に調整を施す。214は横長剥片素材のスクレイバーで、刃部は両面に微細剥離痕が確認できる。215は楔形石器で、腹面側に自然面を残し、上端部に微細剥離痕が確認でき、下端部は両面からの調整がある。216は微細剥離痕のある剥片である。

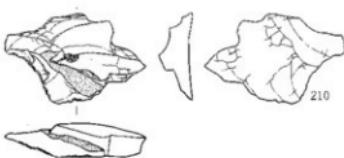
217～220（第50図）は出土層が不明の石製品であり、石材はすべてサヌカイトである。217はスクレイバーである。218は打製石包丁で、両側刃を欠損している。背部には背潰加工が確認でき、刃部は両面調整が認められる。219は打製石斧の剥片と考えられる。大きく折損しているため全体の形状は不明であるが、正面全面に使用痕が認められる。220は二次加工痕のある剥片である。



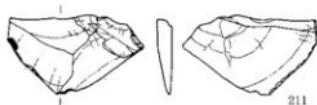
第49図 SD 2-1 遺物実測図 (11)



209



210



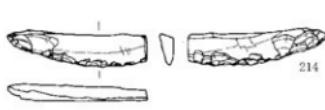
211



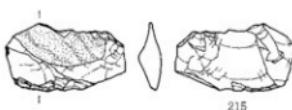
212



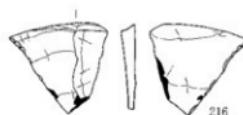
213



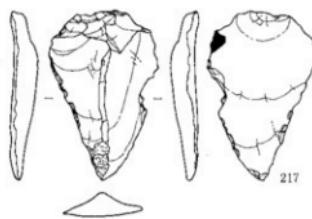
214



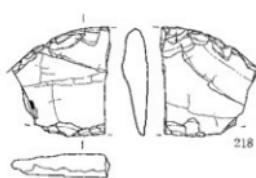
215



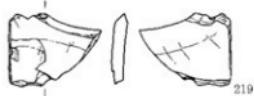
216



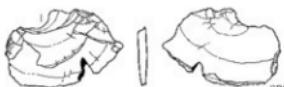
217



218



219



220



第50図 SD2-1遺物実測図(12)

SD 2-2 (第51図)

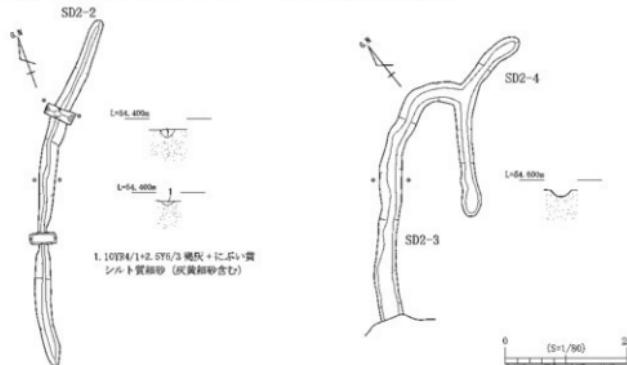
調査区中央やや東寄りにおいて検出した溝であり、地山の微低地に厚く堆積する帶状の砂礫層の下で検出した。検出面の標高は54.25m前後である。溝の全長は5.83m、幅は26cm、深さは9cmを測る。溝の方向はN-28°-Eであり、やや西側に湾曲しながら延びる。埋土は灰黄細砂を含む褐灰+にぶい黄シルト質細砂の單一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、上面を覆う砂礫層がSD 2-1に切られることからSD 2-1より古い時期と考えられる。

SD 2-3 (第51図)

調査区中央やや東寄りにおいて検出した溝であり、地山の微低地に厚く帶状に堆積する砂礫層の下で検出した。検出面の標高は54.41~54.53mである。検出した全長は約4.50m、幅は36cm、深さは8cmを測る。溝の方向はN-45°-Eであり、北端は東方に曲がり、SD 2-4と合流する。埋土は灰黄細砂を含む褐灰+にぶい黄シルト質細砂の單一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、上面を覆う砂礫層がSD 2-1に切られることや埋土がSD 2-2と同じことからSD 2-2と同時期と考えられる。

SD 2-4 (第51図)

調査区中央やや東寄りにおいて検出した溝であり、地山の微低地に厚く帶状に堆積する砂礫層の下で検出した。検出面の標高は54.43m前後である。検出した全長は約3.20m、幅は30cm、深さは7cmを測る。溝の方向はN-50°-Eであり、西方に湾曲し、中央付近でSD 2-3と合流する。埋土はSD 2-3と同一である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、上面を覆う砂礫層がSD 2-1に切られることや埋土が同じことからSD 2-2と同時期と考えられる。



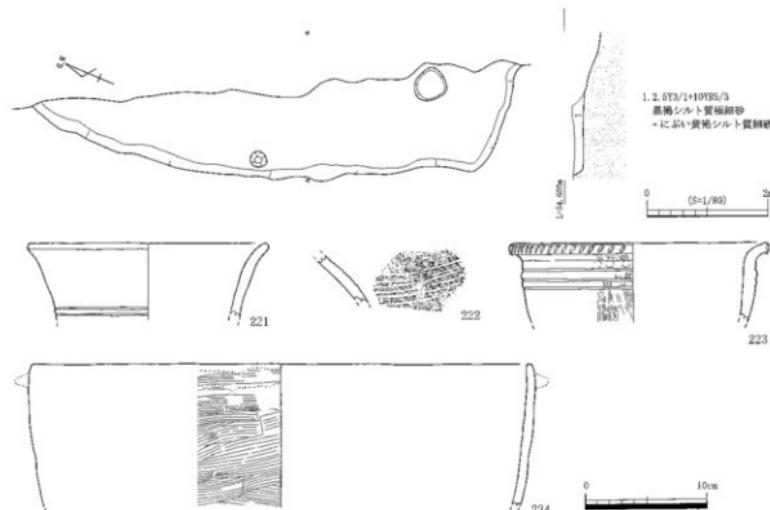
第51図 SD 2-2~4 平・断面図

性格不明遺構

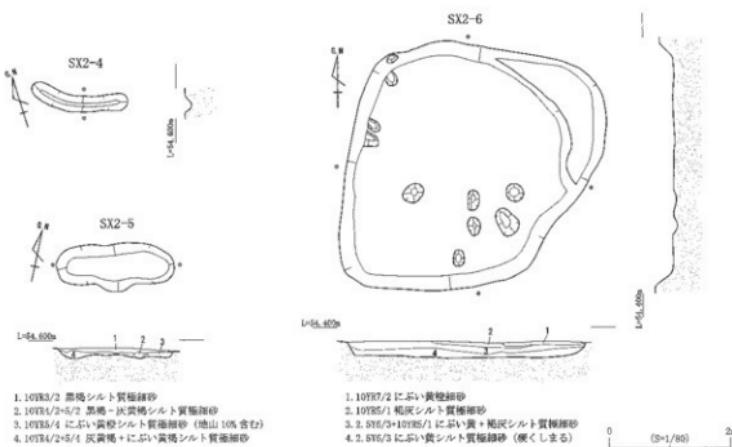
S X 2-1 (第52図)

調査区東端において検出した落ち込みであり、SD 2-1に切られる。検出面の標高は54.33~54.51mである。検出できた平面形は三角形であるが、本来の形は長方形を呈していたと考えられる。検出できた規模は7.40×1.70m、深さは10cmを測る。底面は平坦である。埋土は黒褐シルト質細砂+にぶい黄褐色シルト質細砂の單一層である。所属時期は出土土器・埋土や他の遺構との関係から弥生時代前期末と考えられる。

221は赤生土器壺で、口縁部は比較的緩やかに開き、端部を丸く納める。頸部には2条のヘラ描き沈線を施す。222は同壺の体部上半で、外面に6条のヘラ描き沈線を施す。223は同壺で、口縁部は短く外反する如意状口縁である。口縁端部に刻み目を、口縁部直下には3条のヘラ描き沈線を施す。外面は縱方向のハケを施し、頸部には指頭圧痕が残る。224は同壺で、直線的な口縁部を持つものである。口



第52図 SX2-1 平・断面図、遺物実測図



第53図 SX2-4～6 平・断面図

縁部直下には貼り付け突帯の接合痕が残存する。外面の調整は横方向のハケ、内面はナデが施される。
S X 2-4 (第 53 図)

調査区中央において検出した溝状の遺構である。検出面の標高は 54.40 ~ 54.47 m である。全長は 1.60 m、幅 27cm、深さ 8 cm を測る。方位は N - 65° - W である。埋土は褐灰シルト質極細砂 + 褐灰シルトの単一層である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

S X 2-5 (第 53 図)

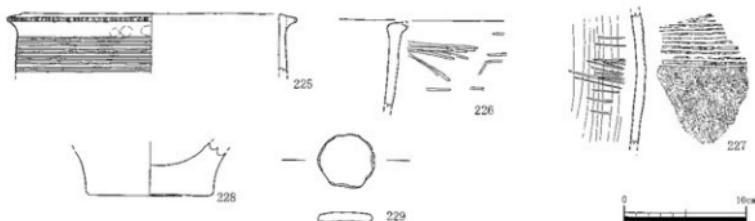
調査区中央において検出した溝状の遺構である。検出面の標高は 54.50 m 前後である。全長は 1.93 m、幅 67cm、深さ 9 cm を測る。方位は N - 105° - W である。埋土は 4 層に分層でき、第 1 層が黒褐シルト質極細砂、第 2 層が黒褐 + 灰黄褐シルト質極細砂、第 3 層がにぶい黄橙シルト質極細砂、第 4 層が灰黄褐 + にぶい黄褐シルト質極細砂であり、人為的と思える堆積を示す。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

S X 2-6 (第 53 図)

調査区中央やや東寄りにおいて検出した不整形方の遺構である。検出面の標高は 54.15 m 前後である。平面形は不整形方であり、北東隅が大きく拡張する。規模は 4.12 × 4.06 m、深さは 33cm を測る。底面はほぼ平坦であるが、北東隅に比高差が約 10cm 高い部分を有する。埋土は 4 層に分層でき、第 1 層がにぶい黄橙細砂、第 2 層が褐灰シルト質極細砂、第 3 層がにぶい黄 + 褐灰シルト質極細砂、第 4 層がにぶい黄シルト質極細砂である。遺物が出土していないので所属時期は不明であるが、検出面や埋土から弥生時代前期末と考えられる。

第 2 面出土遺物 (第 54 図)

225 ~ 228 は弥生土器甕である。225 は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を傾斜させる断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部には刻み目を、口縁直下には 10 条のヘラ描き沈線を施す。226 は逆「L」字状口縁のもので、口縁部上面を水平にする断面三角形の貼付口縁を有する。口縁端部を欠損するため刻み目の有無は不明である。体部外面は板ナデ後に横方向のヘラミガキが施される。227 は体部上半であり、11 条のヘラ描き沈線を施す。内面はヘラナデ後に横方向のヘラミガキが施される。228 は器壁の厚い底部である。229 は弥生土器を利用した紡錘車の未完成品である。



第 54 図 第 2 面出土遺物実測図

第4章 まとめ

第1節 遺構の変遷と集落構造

今回の発掘調査によって、弥生時代と古代と近世の遺構を検出した。しかし、その主要な土地利用は弥生時代前期末になされたことが検出遺構の内容や数と出土遺物の量から推定できる。ここでは、今回の調査成果の総括として、遺構の変遷と弥生時代前期の集落構造を論考し、本遺跡の様相を整理する。

1 遺構の変遷 (第55図)

弥生時代前期末

第2面において検出された全ての遺構であり、調査区全域に多数の遺構が検出され、当遺跡において中心的な位置を占める。主な遺構としては、S I 2-1~11、S B 2-1・2、S D 2-1、S K 2-19の土坑、S A 2-1~6の柵列である。特に注目すべき遺構はS A 2-1の柵列を伴う環濠と考えられるS D 2-1である。第2面の検出面であり基盤層の13層は平坦ではなく、S D 2-1の西側とS I 2-5の北側の2ヶ所に帯状の微高地が認められる。東側の微高地には洪水によると思われる砂礫層が堆積し、その下位にS D 2-2~4を検出した。西側の微高地には13層に類似の土が堆積し、上面に数基のピットを検出した。調査区東端には環濠と考えられる大規模な溝であるS D 2-1と付随する柵列S A 2-1があり、その西側には11棟の竪穴建物状遺構、2棟の掘立柱建物、土坑、柵列を検出した。当該期の土地は若干の凹凸があり洪水の痕も見られるが、竪穴建物状遺構や掘立柱建物の居住施設と柵列を伴う環濠から構成される集落が営まれていた。S D 2-1より出土した土器は森下編年の弥生前期II b~II cに比定され、環濠は弥生時代前期末の短期間だけ機能していたと考えられる。居住域で検出された遺構は重複するものがあり若干の時期差があるが、検出面や埋土、遺構の構成からS D 2-1と同様に弥生時代前期末の短期間に属するものと考える。

弥生時代後期

3区の第1面検出のS B 1-3、2区の第1面検出のS D 1-2~4、3区の第1面検出のS X 1-3である。S B 1-3は単独で存在しており、集落と認定することは甚だ難しいことであるが、調査区外である北西側に遺構が展開する可能性も考えられる。3条の溝は流れる方向の違いや切り合いがあることから溝としての性格や時期に差があると思われる。S D 1-2とS D 1-4は南北方向にはほぼ平行して延びており、区画溝である可能性も考えられる。一方、やや古い時期に属するS D 1-3は流れる方向等から区画溝でなく用水路であると考えられる。当該期の土地はほぼ平坦であり、安定した状態の微高地である。

古代

2区の第1面検出のS B 1-1・2、1・2区の第1面検出のS D 1-1である。S B 1-1・2、1の2棟の掘立柱建物は規模が異なるが、主軸方位はほぼ同一であり、隣接して建てられていることから、総柱建物であるS B 1-1は母屋としての性格を有する建物であり、S B 1-2はS B 1-1に付随する建物であると考える。周囲に他の建物が存在しないので集落と認定することは甚だ難しいことであるが、居住域としての様相を呈する。S D 1-1は流れる方向等から区画溝でなく用水路と考えられる。当該期の土地はほぼ平坦であり、安定した状態の微高地である。

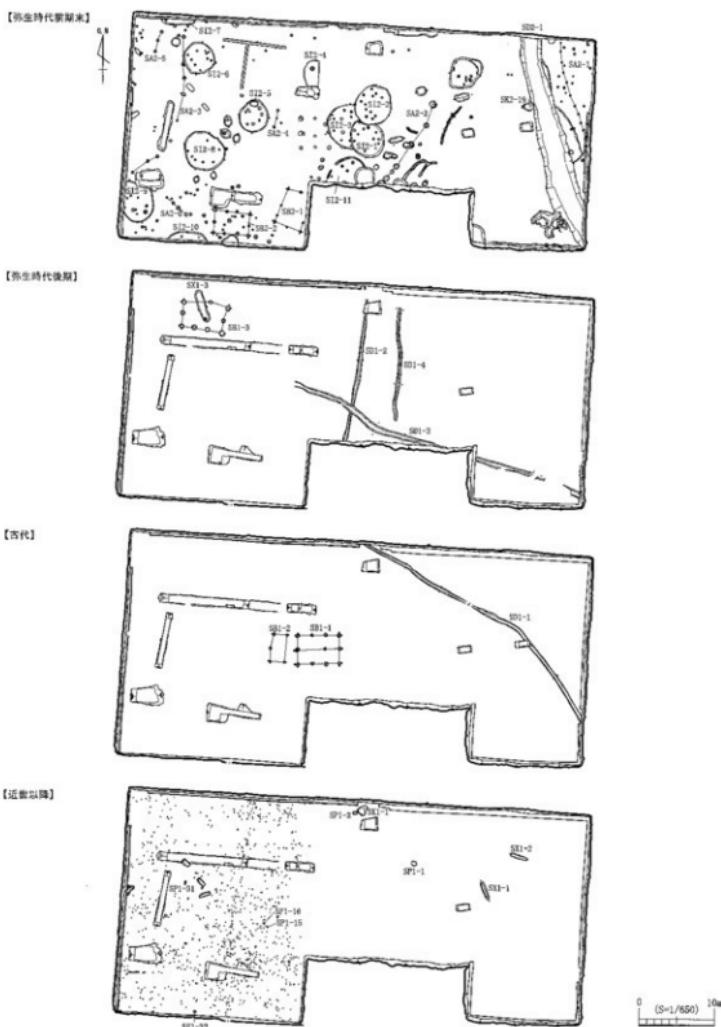
近世

2区第1面検出のS K 1-1、1区第1面検出のS X 1-1・2、2・3面第1面検出の6個の柱穴、3区第1面検出の稲架であり、調査区壁面の土層観察では3面の水田を確認した。稲架は直径4~10cm、深さ5cm前後のピットであり、3区全域に不規則な配置で検出された。1・2区においてもこの

のようなピットは検出されたが、調査は行わなかった。稻架以外に明確な遺構がほとんど見られないことと土層観察により3面の水田（2～4層）が確認されることから、調査区周辺の土地は生産域として利用されており、SK1-1は肥溜めの可能性が考えられる。

近代

埋め立てられた花崗岩直下の水田（1層）であり、現代の水田である。調査区西端に電柱の控えを埋めた土坑が3基ある。



第55図 遺構変遷図

2 北口遺跡の集落構造

今回の調査成果の中で特筆できるのが、弥生時代前期末の集落の一端を明らかにすことができたことと遺跡の空白地であった高松平野南部の香川町大野において遺跡の存在が確認できたことである。ここでは遺構・遺物が最も多い弥生時代前期末の集落について論じる。

第3章と前項で概述したが、弥生時代前期末に属する遺構の概要を再度記述し、その後に集落構造について若干論究する。調査区東端にはSD 2-1と櫛列SA 2-1が検出され、その西側には11棟の堅穴建物状遺構、2棟の掘立柱建物、土坑、櫛列が検出された。SD 2-1は南北方向へほぼ直線的に延びる溝であり、SA 2-1はSD 2-1と平行に延びる櫛列である。堅穴建物状遺構は直径6m未満の円形ないし楕円形を呈し、床面積は28m²未満である。主柱穴は不規則な円形に配置する。床面は直床で全く踏み固められてない。地床炉は検出されず、壁溝はSI 2-11のみ検出した。遺物は全く出土しなかった。2棟の掘立柱建物は3×2間であり、主軸方向は異なるが近接している。SA 2-2は堅穴建物状遺構の東側に、SA 2-3は堅穴建物状遺構の西側において南北方向に延びる。

本遺跡において検出したSI 2-1～11は、平面形・規模、主柱穴配置等の基本的属性に関して弥生時代の一般的な堅穴建物と同じ範疇に入るが、地床炉や壁溝が存在しないことと遺物が皆無であることから堅穴建物と断定することは難しく、堅穴建物状遺構とした。SI 2-1・2・3のように重複する建物と単独の建物があるが、その配置はほぼ等間隔に点在する。重複するSI 2-1～3は出土遺物が無いので確定的なことはいえないが、それほど時間差があるとは考えにくい。堅穴建物状遺構は堅穴建物の分類では円形多主柱タイプで、床面積が28m²未満であり規模としては中規模の建物である^{註1)}。このような堅穴建物状遺構が数棟集合して集落となったと考えられるが、集落としてはSD 2-1と同様に短期間のみ機能していたと考えられる。

SD 2-1は僅かに湾曲気味だが南北方向にほぼ直線的に延び、上端の最大幅は4.15m、深さは45cmを測り、その規模と他の遺構との関係から環濠であると考えられる。埋土中から森下編年前期II b～II cに比定される弥生土器が多量に出土した。壺は口縁部が短く開くものと大きく外反するものがあり、ヘラ描き沈線は多条化する。壺は逆L字形口縁が大半を占め、ヘラ描き沈線が多条化し、櫛描き沈線も僅かであるが出現する。SA 2-1はSD 2-1と平行に延び、環濠に付随する櫛列である。その構造は等間隔に杭を打ち込み、その間を横板数枚でつなぐガードレール方式の櫛列の可能性を考えられる^{註2)}。溝を掘削した際に出土を盛り上げて作る土墻は検出できなかった。

居住域に検出されたSA 2-2・3は、堅穴建物状遺構を挟むように東側と西側にほぼ同方向に延びている。二つの櫛列は構成する柱穴の平面形・規模が異なっており、同時期に存在するが、その方式や性格に若干の違いがあると思われる。SA 2-2とSD 2-1の間は遺構のない空白地域となっており、SA 2-2は居住域を区画する機能を持つと考えられる。SA 2-3の西側は調査区外であり堅穴建物状遺構等が展開するか不明であるが、SA 2-3は柱穴の間隔が広く開いている部分があり、出入り口の可能性も考えられる。

以上が本遺跡の弥生前期における集落構造であり、SD 2-1は櫛列を伴う環濠であると推定できる。しかし、SD 2-1が若干湾曲気味であることと堅穴建物状遺構に関しては居住施設と断定することはできないことから、本遺跡が環濠集落であることに不確定な部分がある。すなわち、本遺跡が環濠集落である可能性と環濠から東側に集落が存在し、本遺跡は環濠の外側に営まれた集落である可能性のふたつが考えられる。だが、東側は調査区外として未調査であるので、現段階では本遺跡が環濠集落であるという視点から考える。今後周辺部において発掘調査が実施されることにより、北口遺跡の性格や周辺の集落構成が解明されるであろう。

第2節 前期弥生土器について

今回の調査における前期弥生土器の大部分は環状の可能性がある S D 2-1 より出土した。S D 2-1 は最大幅 4.15 m、深さ 0.45 m を測り、埋土は 7 層に分層され、第 1 ~ 4 層の上層と第 5 ~ 7 層の下層に大別される。土器の取り上げは上層を上面からの深さにより上層と中層に分け、下層を同様に下層と最下層に分けて行った。ここでは各土層の代表的な土器を抽出し（第 56 図）、若干の考察を加える。なお、文中の遺物番号は、本文中の遺物番号に依拠する。

上層出土土器 土器の個体数は少なく、器種は壺、甕、蓋である。壺は広口壺であり、口縁部と体部の境に 3 条のヘラ描き沈線を持つもの（31）、内面に貼付突帯を有するもの（32）がある。甕は如意状口縁（34）と逆「L」字状口縁（33）がある。

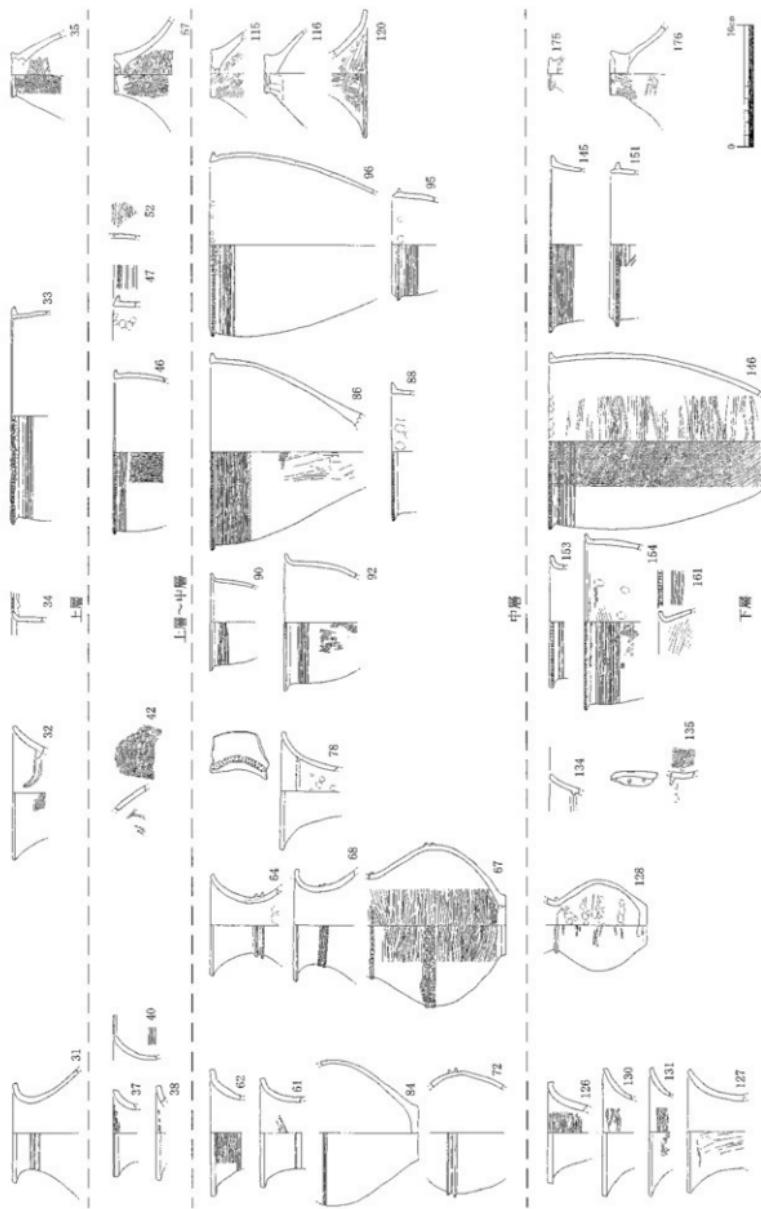
上層～中層出土土器 個体数はやや多くなり、器種構成は壺、甕、蓋、鉢である。壺は広口壺であり、口縁部が短いものとやや長いものがある。前者は口縁端部が丸いものと角張るものに分けられる。後者は口縁部と体部の境に数条のヘラ描き沈線を持つ（40）。体部に櫛描沈線を有する壺（42）が非常に僅かながら存在する。甕は逆「L」字状口縁のみであり、口縁端部に刻み目、口縁直下に数条のヘラ描き沈線を施す（46・47）。ヘラ描き沈線と 3 条の山形文を施すもの（52）もある。

中層出土土器 個体数は非常に多いが、器種構成は壺、甕、蓋、鉢、高杯である。壺は口縁部の短い広口壺と口縁部のやや長い広口壺があり、加飾性が若干増し、バリエーションが豊かになる。口縁部と体部の境にヘラ描き沈線を施すもの（62）、削出突帯を施すもの（61）、貼付突帯を施すもの（64）、指頭圧痕のある貼付突帯を施すもの（67・68）がある。体部の最大径部に 2 条の貼付突帯を廻らすもの（72）と指頭圧痕のある貼付突帯を施すもの（67）がある。口縁部内面に貼付突帯を有するもの（78）もある。甕は如意状口縁と逆「L」字状口縁があり、口縁端部に刻み目、口縁直下に 4 ~ 15 条のヘラ描き沈線を施す。少量であるが刻み目や沈線を有しないものや山形文を有するものある。

下層～最下層出土土器 個体数は多く、器種構成は壺、甕、蓋、鉢、高杯である。壺は口縁部の短い広口壺と口縁部のやや長い広口壺があり、加飾性が少ない。口縁部と体部の境に貼付突帯を有する（128）、口縁部内面に貼付突帯や棒状浮文を有する（134、135）。甕は如意状口縁と逆「L」字状口縁があり、口縁端部に刻み目、口縁直下に 3 ~ 9 条のヘラ描き沈線を施す。少量であるが刻み目や沈線を有しないものや山形文を有するものある。

香川県内の弥生前期土器の編年は先学により一定の完成をみている。真鍋昌宏氏は I-1 様式から I-5 様式に細分し、壺は段を持つものから削出突帯、貼付突帯へと変化し、ヘラ描き沈線及び文様がみられ、甕は如意状口縁から逆「L」字状口縁へと変化し、ヘラ描き沈線が多条化することを明らかにした。さらに、森下英治氏は前期を I 期と II 期に大別し、それぞれを a ~ c に細分し、逆「L」字状口縁の甕出現直前を II a 期とし、出現以降を II b 期、沈線が著しく多条化する時期を II c と位置づけた。

S D 2-1 出土の土器が以上のような既存編年のどの位置に当たるかを考えると、上層から最下層までの土器はほぼ同様な様相を呈している。壺は段系壺が消滅し、口縁部の短い広口壺と口縁部のやや長い広口壺があり、甕は逆「L」字状口縁が主流であり、口縁直下のヘラ描き沈線が著しく多条化する。上層において櫛描沈線の壺が数点みられる。これらのことから弥生前期末、すなわち森下編年 II b ~ II c 期に該当すると考えられ、上層出土の土器と下層・最下層出土の土器にはほとんど時期差はない。



第3節 高松平野の弥生時代前期の遺跡

高松平野における弥生時代の集落研究に関しては、既に大久保徹也氏、大嶋和則・川部浩司両氏、池見渉氏による研究があり、さらに渡邊誠氏が高松平野の集落動態について詳細な分析と論究を行っている。しかしながら、渡邊氏の論究は弥生時代中期から後期の範疇であり、北口遺跡の属する弥生時代前期に関しては明確な居住施設がほとんど確認されていないため僅かに言及しているのに過ぎない。そこで渡邊氏の分析を参考に前期の集落に関して若干論究してみる。

高松平野において確認された弥生時代前期の遺跡は、第1表に示したように37遺跡があげられ、その分布は第57図に表す。これらの遺跡は自然旧河川から数点の土器のみ出土した遺跡から居住施設のある集落までを含んでいる。

当該期の遺跡の概要は、縄文時代晩期から弥生時代前期にかけて平野部の微高地に集落域や微低地に水田の生産域が営まれる。同時に、居住施設は不明であるが、いくつかの環濠集落が出現する。空港跡地遺跡のように明確な居住施設も確認できるようになる。その後、前期末～中期前葉にかけて集落が平野部を中心に展開し、その中に数は少ないが本遺跡のような環濠集落も含まれる。

遺跡の分布を概観すると、鬼無藤井遺跡のある高松平野北西部、多数の遺跡がある平野中央部、諫訪神社遺跡の東部、北野遺跡をはじめとする南部、光寺山遺跡をはじめとする南東隅部の5グループに分けられる。さらに中央部は北西部・北部・南部に細分できる。遺跡は高松平野の中央部に集中していることがわかる。ほとんどの遺跡は現有の河川か埋没旧河川に沿うように存在する。次に、立地条件は平野部と丘陵部に分かれ、大部分の遺跡は平野部に存在し、丘陵部は諫訪神社遺跡、光寺山遺跡、本村遺跡の3箇所である。標高別の遺跡数では10m未満が7、10m台が18、20m台が8、30～50m台がそれぞれ1である。北口遺跡は53mであり、現在検出された遺跡では最も高い位置にある遺跡である。

遺跡の性格としては、集落域が26遺跡、墓域が1遺跡、生産域が4遺跡あり、土器が出土した埋没旧河川のみの遺跡が6ある。集落域は鬼無藤井遺跡、松並・中所遺跡、天満・宮西遺跡、諫訪神社遺跡、汲仏遺跡、回原遺跡、光寺山遺跡、北口遺跡の8ヶ所が環濠集落であり、その中で鬼無藤井遺跡、松並・中所遺跡、北口遺跡では居住施設が確認されている。環濠集落以外の集落で居住施設が確認されたのは北山浦遺跡、空港跡地遺跡である。しかし、これらの遺跡は集落としての規模や範囲、構造などは判然としない。その他の遺跡は溝や土坑等のみ検出である。墓域は墓の可能性が考えられる土坑を検出した林下所・木太今村上所遺跡である。生産域は上西原遺跡、さこ・長池遺跡、さこ・長池II遺跡、さこ・松ノ木遺跡であり、埋没旧河川に隣接する不定形小区画水田を検出した。

遺跡を大まかな時期別に分けると次のようになる。縄文時代晩期から弥生時代前期初頭にかけては東中筋遺跡、林・坊城遺跡、宗高坊城遺跡をはじめとして幾つかの遺跡があるが、ほとんどが埋没旧河川のみの検出である。次の前期前半は上西原遺跡、井手東II遺跡、林・坊城遺跡であり、遺跡は少ない。前期中葉になると遺跡は平野部を中心に急増し、その数は18となる。前期後半になると遺跡数は若干減少するが、平野部を中心に展開する。前期の遺跡の特徴として、ほとんどの集落が前期の間で消滅することが挙げられ、中期以降に継続する遺跡はさこ・松ノ木遺跡、さこ・長池遺跡、日暮・松林遺跡、多肥松林遺跡に過ぎない。

当該期の集落の特徴としては次のことが挙げられる。

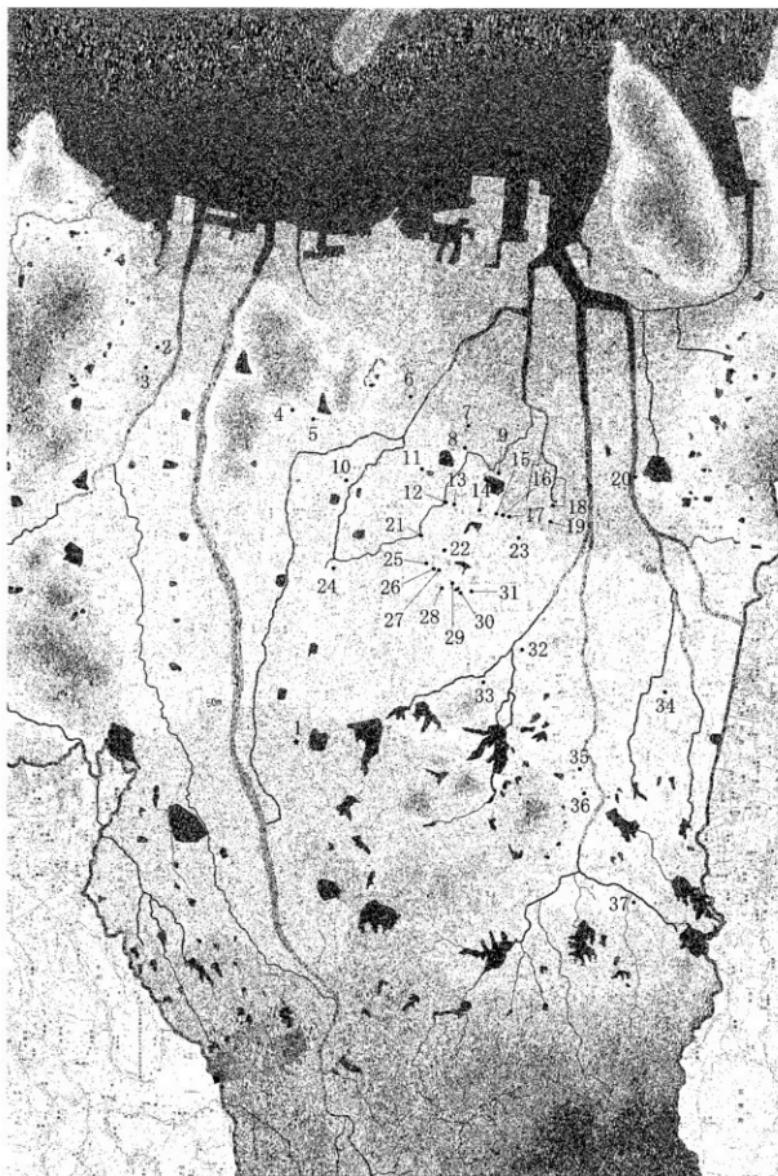
①環濠集落が出現し、時期差が認められる。

前期前半末～汲仏遺跡、松並・中所遺跡

前期後半初頭～鬼無藤井遺跡、天満・宮西遺跡、諫訪神社遺跡

前期末～北口遺跡、回原遺跡、光寺山遺跡

②環濠集落を含め居住施設を確認した集落は、鬼無藤井遺跡や空港跡地遺跡などの数例にすぎず、集落



第57図 高松市における弥生前期遺跡分布図

としての規模や範囲、構造などは判然としない。

③経済的基盤である稻作に伴う水田は前期全般に確認されているが、集落が不明である。

④丘陵部にある遺跡は非常に僅かであり、遺跡の大部分は平野部に展開する。

⑤環濠集落を含めた集落のほとんどは前期で消滅し、存続期間が非常に短い。

第1表 高松市における弥生前期遺跡一覧

番号	遺跡名	性格	立地	位置	遺構	時期
1	北口遺跡	環濠集落	平野（標高 53 m）	南部	住・溝・土・柵	前期 II c
2	香西南西打遺跡		平野（標高 3 m）	北西部	川	前期中葉
3	鬼無藤井遺跡	環濠集落	平野（標高 4 m）	北西部	住・溝・土・墓	前期 II a
4	北山浦遺跡	集落	平野（標高 14 m）	中央北西部	住	前期 I c
5	松並・中所遺跡	環濠集落	平野（標高 13 m）	中央北西部	住・溝・土	前期前半末
6	東中筋遺跡	集落	平野（標高 6 m）	中央北部	土・川	前期後半
7	天満・宮西遺跡	環濠集落	平野（標高 6 m）	中央北部	土・溝	前期 I c
8	松繩下所遺跡	集落	平野（標高 6 m）	中央北部	溝	前期末
9	上西原遺跡	生産	平野（標高 6 m）	中央北部	水	前期
10	上天神遺跡	集落	平野（標高 16 m）	中央部	溝	前期中葉～後葉
11	キモンドー遺跡		平野（標高 10 m）	中央北部	川	前期後葉
12	居石遺跡		平野（標高 13 m）	中央部	川	前期後葉
13	井手東 II 遺跡	集落	平野（標高 13 m）	中央部	溝	前期古段階
14	さこ・長池 II 遺跡	生産	平野（標高 12 m）	中央部	土・水	前期末
15	さこ・長池遺跡	生産	平野（標高 16 m）	中央部	溝・水・川	前期末
16	さこ・松ノ木遺跡	生産	平野（標高 10 m）	中央部	水	前期末
17	林・坊城遺跡	集落	平野（標高 10 m）	中央部	溝・川	前期中葉
18	林下所・木太今村上所遺跡	墓？	平野（標高 7 m）	中央部	土	前期
19	林下所遺跡	集落	平野（標高 10 m）	中央部	溝	前期
20	諫訪神社遺跡	環濠集落	丘陵（標高 26 m）	中央東側	溝	前期後半葉
21	汲仮遺跡	環濠集落	平野（標高 18 m）	中央部	土・溝	前期後半葉
22	町原遺跡	環濠集落	平野（標高 18 m）	中央部	柱・土・溝	前期末
23	宗高坊城遺跡		平野（標高 12 m）	中央部	川	绳文晚期～前期中葉
24	上東原遺跡	集落	平野（標高 26 m）	中央部	溝	前期
25	松林遺跡	集落	平野（標高 21 m）	中央部	集・川	前期中葉
26	多肥松林遺跡	集落	平野（標高 21 m）	中央部	溝	前期中葉
27	日暮・松林遺跡	集落	平野（標高 20 m）	中央部	井	前期 II b
28	多肥宮尻遺跡（衣料品販売）	集落	平野（標高 22 m）	中央部	溝	前期末
29	多肥宮尻遺跡	集落	平野（標高 19 m）	中央部	溝	前期末
30	空港跡地遺跡 V	集落	平野（標高 19 m）	中央部	住・土・川	前期末～中期初
31	空港跡地遺跡（K地区）	集落	平野（標高 20 m）	中央部	土・川	前期末～中期初
32	北野遺跡	集落	平野（標高 18 m）	中央南部	土・溝	前期
33	横内東遺跡		平野（標高 25 m）	中央南部	川	前期～後期
34	砂入遺跡	集落	平野（標高 18 m）	南東部	土・溝	前期
35	光導寺山遺跡	環濠集落	丘陵（標高 40 m）	南東部	溝	前期末
36	本村遺跡		丘陵（標高 30 m）	南東部	川	前期
37	竹元遺跡	集落	平野（標高 48 m）	南東部	溝	绳文晚期～弥生前期

住＝住居跡、土＝土坑、柱＝柱穴、井＝井戸、集＝集石、水＝水田、川＝埋没旧河川

所属時期は各遺跡の報告書の記述を掲載する

第4節 香川における環濠集落

現在までに県内で確認されている環濠集落は、高松市で8遺跡、さぬき市・丸亀市・普通寺市で各1遺跡であり、総数は第2表のとおり11遺跡を数えるが、環濠全域を調査した遺跡がないため、集落としての規模や構造・様相は解明されていないのが現状である。特に高松市に所在する環濠集落の大半は居住施設も検出されていないので、高松市内の遺跡で環濠集落を論じるのは不可能である。そこで対象範囲を香川県内に拡大して、環濠集落について少し論ずることとする。なお、各遺跡の時期は報告書の記述を尊重している。

1 遺跡の概要

鬼無藤井遺跡（高松市） 標高4m台の平野に立地し、内環濠・外環濠の二重の溝が直径60m強の楕円形に廻り、その内側に堅穴住居と掘立柱建物が検出され、ある程度の空間利用区分が考えられる。墓の可能性がある土坑も検出された。時期は森下編年前期IIaであり、環濠は比較的の短期間に埋没した。高松市において最も集落の様相が確認される。

松並・中所遺跡（高松市） 標高13m台の平野に立地し、環濠は一重で、直径は50～60mと推定される。内側に「松菊里型住居」の可能性がある堅穴住居が検出される。時期は前期前半末である。

天満・宮西遺跡（高松市） 標高6m台の平野に立地し、一重の環濠が直径約65mの円形に廻る。内側では土坑のみ検出された。時期は前期前半後葉である。

諫訪神社遺跡（高松市） 標高26mの丘陵に立地し、一重の環濠が山頂部を廻る。時期は前期後半前葉である。

汲仏遺跡（高松市） 標高18m台の平野に立地し、V字型の二重環濠である。内濠に陸橋部が存在する。内側に堅穴住居の可能性がある落ち込みが数基確認される。時期は前期後半前葉である。

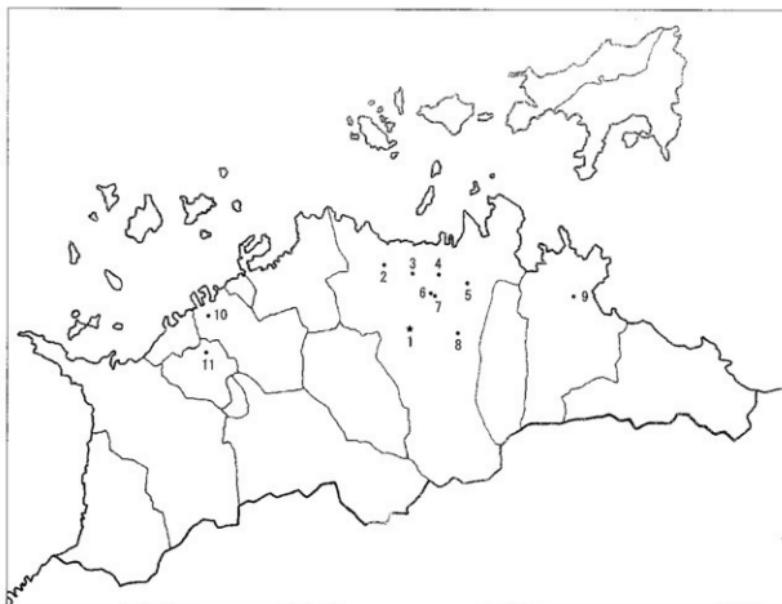
回原遺跡（高松市） 標高18mの平野に立地し、一重の環濠であり、内側に柱穴と土坑を検出する。時期は前期末～中期初頭である。

光専寺山遺跡（高松市） 標高40m台の丘陵に立地し、一重の環濠が緩やかに湾曲する。時期は前期末である。

鶴部・川田遺跡（さぬき市） 標高8m台の平野に立地し、前期後半から中期初頭にかけての集落であり、3段階に集落の様相が分かれる。第1段階は前期後半で環濠を伴わない集落であり、10棟の居住施設を検出する。第2段階は前期後半に一重の環濠が掘削され、環濠集落となり、8棟の居住施設を検出する。第3段階は環濠が埋没した後の中期初頭の集落であり、5棟の居住施設を検出する。内側では居住施設以外に柱穴や土坑、さらに数本の方形区画溝が確認される。環濠集落の構造がわかる好例である。

中の池遺跡（丸亀市） 標高11m台の平野に立地し、最終的には4条の環濠が掘削されるが、1時期に機能したのは1～3条の環濠である。つまり、最大で三重環濠が円形に廻っている。さらに、南側にも別の環濠と思われる溝が数本確認されており、3ヶ所の居住域が想定されている。円形の環濠に囲まれた内側では居住址・柱跡・土坑・樋列が検出される。環濠の外では2基の木棺墓が検出され、さらに東側には生産域の水田が展開する。時期は前期後半初頭～中期初頭である。居住域と墓域、水田が隣接する唯一の遺跡であり、県内最大規模の環濠集落である。

龍川五条遺跡（普通寺市） 標高23mの平野に立地し、前期前半の一重環濠と前期後半前葉の二重環濠が検出される。前半の環濠は東西方向に長い隅丸方形に廻り、南北45m、東西約70mの範囲が居住域と推定される。内側では方形区画の溝があり、2ヶ所の区画された区域が存在し、堅穴住居や掘立柱建物の居住施設、土坑等が検出される。西側高地には周溝による区画の墓と木棺や土壙墓が存在する。内部区画と環濠が方形を意識した平面観と正方位を有しており、入口部分の規定もあることから、何ら



第58図 香川の環濠集落分布図

第2表 香川の環濠集落一覧

番号	遺跡名	所在地	立地	遺構	時期	備考
1	北口遺跡	高松市	平野 (標高 53 m)	住・溝・土・柵	前期 II c	一重環濠
2	鬼無藤井遺跡	高松市	平野 (標高 4 m)	住・溝・土・墓	前期 II a	二重環濠
3	松並・中所遺跡	高松市	平野 (標高 13 m)	住・溝・土	前期前半末	一重環濠
4	天満・富西遺跡	高松市	平野 (標高 6 m)	土・溝	前期 I c	一重環濠
5	諏訪神社遺跡	高松市	丘陵 (標高 26 m)	溝	前期後半前葉	一重環濠
6	汲仮遺跡	高松市	平野 (標高 18 m)	土・溝	前期後半前葉	二重環濠
7	圓原遺跡	高松市	平野 (標高 18 m)	柱・土・溝	前期末	一重環濠
8	光寺山遺跡	高松市	丘陵 (標高 40 m)	溝	前期末	一重環濠
9	鴨部・川田遺跡	さぬき市	平野 (標高 9 m)	住・溝・土	前期後半	一重環濠
10	中の池遺跡	丸亀市	平野 (標高 11 m)	住・溝・土	前期後半	三重環濠 外環濠帯
11	龍川五条遺跡	善通寺市	平野 (標高 23 m)	住・溝・土・墓	前期中頃～中期初 頭	二重環濠

かの規格性のもとに集落の構造が考えられた。後半の環濠は前代からの環濠の外側に新たに環濠を掘削し、二重環濠となる。また、内側の環濠は生活残滓の廃棄場としての機能の再生を目的とした掘り直しも確認されている。環濠集落と墓域が関連しており、香川の環濠集落構造を考える上で非常に重要な遺跡である。

2 環濠集落の様相

上記の遺跡の概要を踏まえて、香川における環濠集落の様相をまとめ、北口遺跡の集落構造について考える。まず、立地は平野と丘陵に分かれると、丘陵にある遺跡は諫訪神社遺跡と光専寺山遺跡のみであり、その他の遺跡は平野部に展開する。その位置は標高の低い現海岸線沿いではなく、標高4 m以上で埋没旧河川と接するか近接する所に集中する。時期は、前期前半、前期後半前葉、前期末の3期に分けられるが、全ての環濠集落において言えるのは環濠が掘削されてから埋没して廃棄されるまでの存続期間が短いことであり、中期以降に継続しない。この立地条件・時期に関しては環濠集落以外の集落も同様である。

構造を考える上で参考になるのは、居住施設、墓や水田が確認できた鴨部・川田遺跡、中の池遺跡、龍川五条遺跡である。環濠は一重～三重があり、最も多いのは一重環濠である。環濠の平面形は、鬼無藤井遺跡、松並・中所遺跡、天溝・宮西遺跡、鴨部・川田遺跡、中の池遺跡のように楕円形に廻る環濠と龍川五条遺跡のように隅丸方形の環濠がある。その規模は直径50～60 mと想定される。環濠に伴う土塁や櫓列は、ほとんど検出されていないが、中の池遺跡の第12次調査において環濠に沿ってやや湾曲する櫓列を検出している。居住施設は竪穴住居と平地住居、掘立柱建物があり、集落全城を調査していないので不完全な要素があるが10棟前後が存在する。松並・中所遺跡では「松菊里型住居」の可能性がある竪穴住居が検出されている。居住施設の配置に関しては、鬼無藤井遺跡では内環濠に囲まれた範囲の中央部と南部に分布しており、ある程度の空間利用区分を意識しており、さらにその意識を高めた様相を示すのが鴨部・川田遺跡、龍川五条遺跡であり、居住域を方形区画溝で囲んでいる。龍川五条遺跡では環濠内側の集落と方形区画溝により区画された集落の二つの形態があり、集落内で何らかの差異が生じたと考えられる。

環濠集落と墓域を検出したのは、鬼無藤井遺跡と中の池遺跡、龍川五条遺跡である。鬼無藤井遺跡は谷状の地形を挟む微高地に細長い楕円形の土坑が検出され、墓の可能性も考えられている。中の池遺跡では環濠と水田の中間位置に2基の木棺墓、龍川五条遺跡では西徼高地に周溝による区画の墓3基と木棺や土壙墓のような区画を持たない墓3基が存在する。これらの遺跡で共通するのは、墓域が環濠の外側に隣接する位置に確認されるということである。

環濠集落を含む集落と弥生時代の経済的基盤である水田が同時に確認できたのは、中の池遺跡のみである。水田は環濠の南東側の埋没旧河川の浅谷底部に存在し、基幹水路を持たない不定形小区画水田であり、幅狭い帯状に存在する。県内では川津下樋遺跡やさこ・長池遺跡などで前期の水田が検出されており、特にさこ・長池遺跡は広範囲にわたって小区画水田が検出されている。しかし、經營母体である集落は確認されていない。

以上の様相を参考に北口遺跡の環濠集落について考えてみる。立地は多くの集落と同様に平野であり、香東川と埋没旧河川とのほぼ中間に位置する。環濠と考えられるSD2-1出土土器の時期は森下編年IIb～IIc期に相当することから、環濠は弥生時代前期に掘削され、短期間だけ環濠として機能し、中期になると環濠は埋没してしまい、北口遺跡の前期環濠集落は廃絶したと考えられる。つまり、北口遺跡の環濠集落は存続期間が非常に短い。

環濠の検出が調査区東端のため、環濠の本数は不確定要素があるが一重ないしそれ以上である。平面形は検出した範囲で僅かに湾曲気味であるがほぼ直線であり、幅や深さの規模はほかの遺跡の環濠とほ

ぼ同規模である。土塁は検出されていないが、東側に柵列を伴っている。居住施設は 11 棟の竪穴建物状遺構と 2 棟の掘立柱建物を検出している。竪穴建物状遺構は地床炉の不検出や出土遺物の皆無であるが、その規模や平面形は同時期の竪穴建物と同様であるので居住施設と考える。居住施設は環濠の西側にはほぼ等間隔に配置されている。鶴部・川田遺跡、龍川五条遺跡のような居住域を囲む方形区画溝は検出されなかったが、居住域の中に 2 基の柵列が存在しており、何らかの空間利用区分の意識が認められる。今回の調査では墓域と水田は検出していないが、将来的に周辺部においてこれらの遺構が確認される可能性もある。

註

- 1) 池見氏が北山浦遺跡の報告書第 5 章第 1 節において弥生時代中期前葉～古墳時代前期初頭の竪穴建物に関して詳細な分析を行っている。本遺跡の竪穴建物状遺構が所属する弥生前期は竪穴建物の検出例が非常に少ないので、池見氏の分析を参考にする。
- 2) 国立歴史民俗博物館が 1996 年に刊行した『倭国乱る』にガードレール方式の柵列の復原創造図が掲載されており、歴博が所蔵する関東南部の代表的な環濠集落である横浜市大塚遺跡の復原模型は 2013 年にこの方式の柵列に改修された。

参考文献

- 池見 渉 2012 「第 1 節 北山浦遺跡の集落構造とその変遷 a 竪穴建物遺構の構造」『北山浦遺跡』高松市教育委員会
「第 2 節 北山浦遺跡周辺環境 b 社会環境 周辺集落の動向 イ集落動態（2）「遺物群」分布状況の概要」
『北山浦遺跡』高松市教育委員会
大久保徹也 1995 『上天神遺跡の集落構成』『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第六番 上天神遺跡』香川県教育委員会
大楠和則・川部浩司 1999 『高松平野における集落の様相』『みづは』第 30 号大和弥生文化の会
川部浩司 2001 『鬼無藤井遺跡の前期弥生土器と環濠集落』『鬼無藤井遺跡』高松市教育委員会
真鍋昌宏 2000 『讃岐地域』『弥生土器の様式と編年』木村社
宮崎哲哉 1995 『香川における弥生前期土器の様相』『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅲ』財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
森下英治 1998 『龍川五条遺跡出土前期弥生土器の縦年』『龍川五条遺跡Ⅱ 鶴野東分山崎南遺跡』香川県教育委員会
渡邊 誠 2014 『弥生時代中期から後期における高松平野の集落動態』『東アジア古文化論叢 2』中国書店

報告書

- 東信男・佐藤亞聖・角南聰一郎・樺木英介編 2003 『総合運動公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 中の池遺跡－第 8 次調査－』丸亀市教育委員会・(財) 元興寺文化財研究所
東信男・佐藤亞聖・樺木英介・飯島紀子編 2004 『総合運動公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 中の池遺跡－第 9・10 次調査－』丸亀市教育委員会・(財) 元興寺文化財研究所
東信男・岡本広義・佐藤亞聖・深本敏夫・鈴瑠紀子その他編 2005 『総合運動公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 中の池遺跡－第 11 次調査－』丸亀市教育委員会・(財) 元興寺文化財研究所
東信男・佐藤亞聖・松施紀子その他編 2006 『総合運動公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 中の池遺跡－第 13 次調査－』平池東遺跡－第 3 次調査－丸亀市教育委員会・(財) 元興寺文化財研究所
東信男・近藤正司・佐藤亞聖その他編 2008 『総合運動公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 中の池遺跡－第 12 次調査－』丸亀市教育委員会・(財) 元興寺文化財研究所
大久保徹也・森 格也編 1995 『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第六番 上天神遺跡』香川県教育委員会
大楠和則編 1996 『香川県立高松桜井高校周辺道路整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 松林遺跡』高松市教育委員会
大楠和則編 2006 『衣料品販売店建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 多肥宮遺跡』(衣料品販売店) 高松市教育委員会
小川 賢 2001 『高松港頭地区再開発闇開拓事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第二冊 鬼無藤井遺跡』高松市教育委員会
小川 賢・中西克也編 2001 『都市計画道路東浜花ノ宮線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 東中筋遺跡 第 1 次調査』高松市教育委員会
小川 賢・山元敏裕編 2004 『都市計画道路東浜花ノ宮線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 東中筋遺跡 第 2 次調査』高松市教育委員会
小川 賢・山元敏裕編 2004 『都市計画道路福岡三谷線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第 2 冊 宗高坊町遺跡』高松市教育委員会
小川 賢・賀瀬編 2004 『四国横断自動車道閑達特別用地対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 林下所・木太今村上所遺跡』高松市教育委員会
小川 賢・上原ふみ編 2012 『三谷コミュニティセンター整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 横内東遺跡』高松市教育委員会
片桐孝治編 2006 『県道塩江屋島西線道路局部改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 竹元遺跡』香川県教育委員会

川畠 啓・末光甲正編 2000『太田第2土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第三冊 上西原遺跡 附 法仏遺跡』高松市教育委員会

川畠 啓 2001『太田第2土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第四冊 松綱下所遺跡』高松市教育委員会

川畠 啓 2001『太田第2土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第五冊 回原遺跡』高松市教育委員会

川畠 啓 2002『太田第2土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第六冊 天満・宮西遺跡～集落・水田編～』高松市教育委員会

川畠 啓・小川 賢編 2004『宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 多肥宮尻遺跡』高松市教育委員会

川畠 啓・山元敏裕編 2007『諏訪神社本殿移築、久米山墓地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 諏訪神社遺跡』久米山遺跡群一諏訪神社御所地区-』高松市教育委員会

川畠 啓編 2008『高松平野南東部における埋蔵文化財発掘調査報告書 本村遺跡 光寺山遺跡』高松市教育委員会

木下晴一・三辻利一編 2002『空港跡地整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第5番 空港跡地遺跡V』香川県教育委員会

木下晴一 2002『県道関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成13年度 北野遺跡』香川県教育委員会

森本晋司編 2001『香川県警察本部機動隊倉建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 法仏遺跡I』香川県教育委員会

谷口 恒 2015『総合運動公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 中の池遺跡』丸亀市教育委員会

西岡達哉 2007『三木駅便局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 砂入遺跡』香川県教育委員会

栗松真也編 2014『県道太田上町志度道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 上東原遺跡』香川県教育委員会

藤井雄三・山元敏裕編 1995『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第7冊 唐石遺跡』高松市教育委員会

松本和彦編 2000『都市計画道錦町園寺線南線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 松並・中所遺跡』香川県教育委員会

松本豊典編 1998『丸亀市総合運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 中ノ池遺跡I』丸亀市・松本考古学研究所

松本豊規編 2000『丸亀市総合運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 中ノ池遺跡II』丸亀市・松本考古学研究所

宮崎哲治編 1993『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第二冊 林・坊城遺跡』香川県教育委員会

森格也編 1997『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第七冊 鳥部・川田遺跡I』香川県教育委員会

森下英治編 1998『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第二十九冊 龍川五条遺跡II 飯野東分山崎南遺跡』香川県教育委員会

森下友子・大久保徹也編 2000『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第九冊 鳥部・川田遺跡II』香川県教育委員会

山下平重編 1999『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第一冊 多肥松林遺跡』香川県教育委員会

山元敏裕・小川 賢編 2000『高松港頭地区再開発関連事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第一冊 香西南西打遺跡』高松市教育委員会

山本英之・山元敏裕編 1993『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第一冊 さこ・長池遺跡』高松市教育委員会

山本英之・山元敏裕・中西克也編 1994『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第二冊 さこ・松ノ木遺跡』高松市教育委員会

山本英之・中西克也編 1997『都市計画道路福岡多肥上町線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 日暮・松林遺跡』高松市教育委員会

山本英之・中西克也編 1999『太田第2土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第六冊 キモンド一遺跡』高松市教育委員会

山本英之・山元敏裕・中西克也編 1994『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第三冊 さこ・長池II遺跡』高松市教育委員会

山本英之・山元敏裕・中西克也編 1995『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第五冊 井手東II遺跡』高松市教育委員会

山元泰子・岡本 利編 1999『香川県警察本部機動隊倉建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 法仏遺跡』香川県教育委員会

山元泰子編 2007『インテリジェントパーク整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 空港跡地遺跡（K地区）』香川県教育委員会

渡邊 誠・松葉紀子・池見 沙織 2012『木太鬼無線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2冊 北山浦遺跡』高松市教育委員会

第3表 遺構表

第1表

遺構番号	平面形	直径・幅	深さ	堆土	参考 (i)は調査井の遺構名
SB1-1 P1	円形	45	53	土層④	
P2	円形	45 i	38	土層④	
P3	円形	35	43	土層④	
P4	不正円形	45	29	土層④	
P5	不正角円形	63×47	42	土層④	
P6	円形	50×40	39	土層④	
P7	円形	45×40	28	土層④	
P8	円形	55	50	土層④	
P9	円形	41×37	47	土層④	
P10	円形	45	35	土層④	
P11	円形	38×31	41	10YR6/1+5/1 純灰+褐灰シルト質緑縞砂 (2.5Y7/1 灰白シルト質緑縞砂を含む) 10YR6/1 褐灰シルト質緑縞砂	(SP1-10)
SB1-2 P1	円形	29	13	土層④	
P2	円形	35	17	土層④	
P3	円形	35	17	土層④	
P4	円形	28	16	土層④	
P5	円形	27	15	土層④	
SB1-3 P1	楕円形	73×60	19	土層④	
P2	円形	40	16	土層④	
P3	円形	60 i	23	土層④	
P4	円形	55	25	土層④	
P5	円形	45	23	土層④	
P6	円形	57×62	24	土層④	
P7	円形	70	19	土層④	
P8	不規円形	70	22	土層④	
P9	円形	92	19	土層④	
SD1-1	—	40~70	7~29	土層④	
SD1-2	—	18~69	8~13	土層④	
SD1-3	—	47~90	10~20	土層④	
SD1-4	—	28~53	3~12	土層④	
SK1-1	闊丸三角剖	140×120	17	SY5/2 灰色堅面-中砂	
SP1-1	不整圓形	78×80	9.2.5Y8/2 灰白シルト質緑縞砂		
SP1-2	丸形	65×34	9.2.5Y8/2 灰白シルト質緑縞砂		
SP1-3	円形	30	21 10YR6/2+4/1 灰灰褐色-純灰シルト質緑縞砂		
SP1-4	楕円形	54×40	23 10YR6/1+5/1 純灰褐色-純灰シルト質緑縞砂 (2.5Y7/1 灰白シルト質緑縞砂を含む)		
SP1-5	円形	32	23 10YR6/1+5/1 純灰褐色-純灰シルト質緑縞砂 (2.5Y7/1 灰白シルト質緑縞砂を含む)		
SP1-6	円形	30	22 10YR6/1+5/1 純灰褐色-純灰シルト質緑縞砂 (2.5Y7/1 灰白シルト質緑縞砂を含む)		
SP1-7	円形	40×35	22 10YR6/1+5/1 純灰褐色-純灰シルト質緑縞砂 (2.5Y7/1 灰白シルト質緑縞砂を含む)		
SP1-8	円形	22	10 10YR6/1+5/1 純灰褐色-純灰シルト質緑縞砂 (2.5Y7/1 灰白シルト質緑縞砂を含む)		
SP1-9	円形	21	10 10YR6/1+5/1 純灰褐色-純灰シルト質緑縞砂 (2.5Y7/1 灰白シルト質緑縞砂を含む)		
SP1-10	円形	33	17 10YR6/2 灰黄褐色-土質緑縞砂 (10YR4/1 灰灰褐色-土質緑縞砂を含む)		
SP1-11	楕円形	30×23	12 10YR6/2 灰黄褐色-土質緑縞砂 (10YR4/1 灰灰褐色-土質緑縞砂を含む)		
SP1-12	円形	30	13 10YR6/1+5/2 灰灰褐色-土質緑縞砂		
SP1-13	円形	25	11 2.5Y7/2 灰シルト質緑縞砂 (10YR4/2 灰灰褐色シルト質緑縞砂を含む)		
SP1-14	円形	16	11 2.5Y7/2 灰白シルト質緑縞砂		
SP1-15	円形	19	7 2.5Y7/2 灰白シルト質緑縞砂		
SP1-16	円形	25	18 10YR6/2 灰黄褐色-土質緑縞砂 (10YR4/1 灰灰褐色シルト質緑縞砂を含む)		
SP1-17	不規円形	25	10 10YR6/2 灰黄褐色-土質緑縞砂 (10YR4/1 灰灰褐色シルト質緑縞砂を含む)		
SP1-18	円形	25	10 10YR6/2 灰黄褐色-土質緑縞砂 (10YR4/1 灰灰褐色シルト質緑縞砂を含む)		
SP1-19	円形	22	10 10YR6/2 灰黄褐色-土質緑縞砂 (10YR4/1 灰灰褐色シルト質緑縞砂を含む)		
SP1-20	円形	38	18 10YR6/1+3/2 灰灰褐色-灰黃褐色-土質緑縞砂		
SP1-21	円形	25	16 10YR6/2 灰黄褐色-土質緑縞砂 (10YR4/1 灰灰褐色シルト質緑縞砂を含む)		
SP1-22	円形?	38	12 10YR6/2 灰黄褐色-土質緑縞砂 (10YR4/1 灰灰褐色シルト質緑縞砂を含む)		
SP1-23	闊丸三形	40	37 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂 (10YR7/1 黑褐色シルト質緑縞砂)		
SP1-24	不整内形?	34	30 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂		
SP1-25	円形	24	18 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂		
SP1-26	円形	24	19 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂		
SP1-27	円形	28	30 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂		
SP1-28	円形	20	20 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂		
SP1-29	円形	30	22 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂		
SP1-30	円形	29	19 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂		
SP1-31	円形	40×30	19 2.5Y7/2 黑田山シルト質緑縞砂		
SP1-32	楕円形	33×25	19 2.5Y7/2 黑田山シルト質緑縞砂		
SP1-33	円形	32	14 —		
SX1-1	廣状	255×65	9 10YR6/2 灰黄褐色-土質緑縞砂		
SX1-2	廣状	230×40	8 10YR6/2 灰黄褐色シルト質緑縞砂		
SX1-3	廣状	440×113	13 土層④		

第2表

遺構番号	平面形	直径・幅	深さ	堆土	参考 (i)は調査井の遺構名
SI2-1 P1	楕円形	535×454	14	土層④	
P2	円形	33	21 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂 (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂を含む)		
P3	円形	37	15 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂 (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂を含む)		
P4	円形	36	14 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂 (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂を含む)		
P5	円形	28	24 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂 (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂を含む)		
P6	円形	28	10 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂 (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂を含む)		
P7	円形	25	18 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂 (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂を含む)		
P8	円形	25	20 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂 (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂を含む)		
P9	円形	23	17 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂 (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂を含む)		
P10	円形	27	19 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂 (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂を含む)		
SI2-2 P1	楕円形	550×478	15	土層④	
P2	円形	25	20 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂 (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂を含む)		
P3	円形	29×24	16 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂 (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂を含む)		
P4	円形	30	25 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂 (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂を含む)		
P5	円形	26	14 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂 (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂を含む)		
P6	円形	28	17 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂 (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂を含む)		
P7	円形	25	15 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂 (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂を含む)		
		25	23 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂 (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト質緑縞砂を含む)		

P6	内軸	27	12 [10YR7/3] にぶい黄緑シルト質砂層(10YR7/4 にぶい黄緑シルト質砂層を含む)	
P9	内軸	23	20 [10YR7/3] にぶい黄緑シルト質砂層(10YR7/4 にぶい黄緑シルト質砂層を含む)	
P10	内軸	20	15 [10YR7/3] にぶい黄緑シルト質砂層(10YR7/4 にぶい黄緑シルト質砂層を含む)	
P11	内軸	23	18 [10YR7/3] にぶい黄緑シルト質砂層(10YR7/4 にぶい黄緑シルト質砂層を含む)	
P12	内軸	25	20 [10YR7/3] にぶい黄緑シルト質砂層(10YR7/4 にぶい黄緑シルト質砂層を含む)	
S12-3	橋円形	592×(340)	7 土層図	
P1	円形	31×28	13 [10YR5/3] にぶい黄緑シルト質砂層(10YR7/4 にぶい黄緑シルト質砂層を含む)	
P2	円形	27	20 [10YR5/3] にぶい黄緑シルト質砂層(10YR7/4 にぶい黄緑シルト質砂層を含む)	
P3	円形	28	20 [10YR5/3] にぶい黄緑シルト質砂層(10YR7/4 にぶい黄緑シルト質砂層を含む)	
P4	円形	28	20 [10YR5/3] にぶい黄緑シルト質砂層(10YR7/4 にぶい黄緑シルト質砂層を含む)	
P5	円形	20	21 [10YR5/3] にぶい黄緑シルト質砂層(10YR7/4 にぶい黄緑シルト質砂層を含む)	
P6	円形	25	21 [10YR5/3] にぶい黄緑シルト質砂層(10YR7/4 にぶい黄緑シルト質砂層を含む)	
P7	円形	20	20 [10YR5/3] にぶい黄緑シルト質砂層(10YR7/4 にぶい黄緑シルト質砂層を含む)	
P8	円形	28	18 [10YR5/3] にぶい黄緑シルト質砂層(10YR7/4 にぶい黄緑シルト質砂層を含む)	
P9	橋円形	30×20	23 [10YR5/3] にぶい黄緑シルト質砂層(10YR7/4 にぶい黄緑シルト質砂層を含む)	
P10	円形	24	20 —	
S12-4	円形?	(242)	8 土層図	
P1	内軸	59	17 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
S12-5	内軸	422×390	10 土層図	
P1	円形	49	10 [10YR5/2] 反転褐色シルト質砂層(地山を10%含む)	
P2	円形	35	11 [10YR5/2] 反転褐色シルト質砂層(地山を10%含む)	
P3	円形	25	14 [10YR5/2] 反転褐色シルト質砂層(地山を10%含む)	
P4	円形	20	10 [10YR5/2] 反転褐色シルト質砂層(地山を10%含む)	
P5	円形	21	10 [10YR5/2] 反転褐色シルト質砂層(地山を10%含む)	
P6	内軸	25	14 [10YR5/2] 反転褐色シルト質砂層(地山を10%含む)	
P7	橋円形	38×20	11 [10YR5/2] 反転褐色シルト質砂層(地山を10%含む)	
P8	橋円形	110×70	10 [10YR5/2] 反転褐色シルト質砂層(地山を10%含む)	
S12-6	円形?	410	8 土層図	
P1	円形	26	11 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P2	円形	23	16 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P3	円形	25	15 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P4	円形	21	8 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P5	円形	16	10 [10YR4/2] 反転褐色シルト質砂層	
P6	円形	28	14 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P7	円形	25	9 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P8	円形	23	11 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P9	円形	20	12 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P10	円形	17	12 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
S12-7	円形?	(453)	8 土層図	
P1	円形?	38	6 10YR5/2+4/2 2.5YS/2+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
S12-8	不整円形	579×498	8 土層図	
P1	内軸	29	14 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P2	内軸	30×22	10 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P3	内軸	27×20	9 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P4	内軸	23	11 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P5	内軸	20	12 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P6	内軸	17	12 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P7	内軸	20	10 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
S12-9	橋円形	580×412	9 土層図	
P1	内軸	30	13 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P2	内軸	26	12 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P3	内軸	20	16 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P4	内軸	35	20 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P5	内軸	50	14 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P6	内軸	20	21 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P7	内軸	22	11 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P8	内軸	41	12 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
P9	内軸	52	5 2.5YS/3+10YR5/3 黄褐色にぶい黄緑シルト質砂層	
S12-10	内軸?	(516)	16 土層図	
P1	円形	28	14 [10YR4/2] 反転褐色シルト質砂層	
P2	円形	12	10 [10YR3/1] 黑褐色シルト質砂層	
S12-11	円形?	(367)	—	
P1	円形	35	14 [10YR4/2] 反転褐色シルト質砂層	
P2	円形	30	21 [10YR4/2] 反転褐色シルト質砂層	
P3	円形	28	5 —	
P4	円形	31	15 [10YR4/2] 反転褐色シルト質砂層	
BB2-1	円形	30	30 土層図	
P1	円形	27	24 土層図	
P2	円形	23	18 土層図	
P3	円形	25	17 土層図	
P5	円形	38×30	21 土層図	
P6	円形	24	22 土層図	
P7	円形	28	20 土層図	
P8	円形	23	18 土層図	
BB2-2	P1	円形	40	20 土層図
P2	円形	37	18 土層図	
P3	円形	36	15 土層図	
P4	円形	48	17 土層図	
P5	円形	37	14 土層図	
P6	円形	31	16 土層図	
P7	橋円形	40×31	15 土層図	
P8	円形	44	27 土層図	
P9	円形	41	17 土層図	
P10	円形	30	21 土層図	
BB2-3	P1	円形	25	10 [10YR4/1+4/3] 硫化灰+にぶい黄緑シルト質砂層
P2	円形	25	10 [10YR4/1+4/3] 硫化灰+にぶい黄緑シルト質砂層	
P3	円形	26	18 [10YR4/1] 硫化シルト質砂層	
P4	円形	26	24 [10YR4/1] 硫化シルト質砂層	
P5	円形	27	25 [10YR4/1] 硫化シルト質砂層	

P6	円形	25	20 10YR4/1 塗灰シルト質種細砂	
P7	円形	26	28 10YR4/1 塗灰シルト質種細砂	
P8	円形	21	12 10YR4/1 塗灰シルト質種細砂	
P9	円形	25	17 10YR4/1 塗灰シルト質種細砂	
P10	円形	21	20 10YR4/1 塗灰シルト質種細砂	
P11	円形	21	11 10YR4/1 塗灰シルト質種細砂	
P12	円形	30	25 10YR4/1 塗灰シルト質種細砂	
SA2-2 P1	楕円形	82×75	22 土層回	(SK2-3)
P2	円形	67	16 10YR5/2 黒灰褐色シルト質種細砂	(SP2-4)
P3	円形	66	13 10YR4/1 塗灰シルト質種細砂	(SK2-6)
P4	円形	75	18 2.5YR8/3 にぶい黄シルト質種細砂～堆積砂	(SK2-11)
P5	円形	78×67	20 10YR2/2 黑褐シルト質種細砂	(SK2-12)
SA2-3 P1	円形	46	15 10YR3/3+4/1 にぶい黄褐色～黑褐色シルト質種細砂	(SP2-68)
P2	円形	40×30	21 10YR2/1 黑褐シルト質種細砂	(SP2-70)
P3	円形	43	25 10YR2/1 黑褐シルト質種細砂	(SP2-71)
P4	楕円形	65×40	19 10YR3/3+4/1 にぶい黄褐色～黑褐色シルト質種細砂	(SP2-72)
P5	円形	28	15 10YR4/3+3/1 にぶい黄褐色～黑褐色シルト質種細砂	(SP2-73)
P6	円形	40	14 10YR4/3+3/1 にぶい黄褐色～黑褐色シルト質種細砂	(SP2-76)
P7	円形	40	13 10YR4/3+3/1 にぶい黄褐色～黑褐色シルト質種細砂	(SP2-77)
P8	円形	30	12 10YR6/3+4/1 にぶい黄褐色～黑褐色シルト質種細砂	(SP2-78)
SA2-4 P1	円形	30	16 10YR6/3+4/1 にぶい黄褐色～黑褐色シルト質種細砂	(SP2-120)
P2	円形	24	8 10YR2/1 黑褐シルト質種細砂	(SP2-119)
P3	円形	35×29	14 10YR3/3+4/1 にぶい黄褐色～黑褐色シルト質種細砂	(SP2-117)
SA2-5 P1	円形	42	15 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質種細砂	(SP2-61)
P2	円形	38	17 10YR2/1 黑褐シルト質種細砂	(SP2-62)
P3	円形	35	18 10YR4/3+3/1 にぶい黄褐色～黑褐色シルト質種細砂	(SP2-63)
SA2-6 P1	円形	22	22 10YR4/3+3/1 にぶい黄褐色～黑褐色シルト質種細砂	(SP2-65)
P2	楕円形	43×26	18 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質種細砂	(SP2-66)
P3	不規円形	51×40	16 10YR4/1 黑褐シルト質種細砂(10YR3/3 透黃シルト質種細砂を含む)	(SP2-69)
P4	円形	49×39	19 10YR4/3+4/1 にぶい黄褐色～黑褐色シルト質種細砂	(SP2-90)
SK2-1	円形	96	24 10YR3/2 黑褐シルト質種細砂	
SK2-2	円形	130×115	13 土層回	
SK2-3	久希			
SK2-7	円形	79	9 10YR4/1 塗灰シルト質種細砂	
SK2-8	不規円形	200×(60)	37 土層回	
SK2-9	久希			
SK2-10	円形	68×58	20 —	
SK2-13	円形?	112	7 2.5Y5/3 黄褐シルト質種細砂	
SK2-14	円形	70	10 2.5Y5/3 にぶい黄シルト質種細砂～堆積砂	
SK2-15	円形	265	33 土層回	
SK2-16	円形?	54	1 2.5Y5/3 黄褐シルト質種細砂	
SK2-17	楕円形	73×50	23 10YR4/2 黑灰褐色シルト質種細砂(10YR3/3 にぶい黄褐色シルト質種細砂を若干含む)	
SK2-18	円形	55	22 10YR4/2 不規範シルト質種細砂(10YR3/3 にぶい黄褐色シルト質種細砂を若干含む)	
SK2-19	不規角円形	168×107	37 土層回	
SK2-20	不規角円形	200×90	32 土層回	
SK2-21	不規角円形	189×90	12 2.5Y5/3 黄褐シルト質種細砂	
SK2-22	楕円形	140×102	12 土層回	
SK2-23	椭円形	130×120	11 土層回	
SK2-24	円形	111×94	12 土層回	
SK2-25	円形	64×73	16 土層回	
SK2-26	円形	89×73	19 土層回	
SK2-27	円形	112	8 —	
SK2-28	椭円形	99×46	12 —	
SK2-29	円形?	100	8 —	
SK2-30	椭円形	66×85	18 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質種細砂	(SP2-34)
SD2-1	—	275×414	45 土層回	
SD2-2	—	26	9 土層回	
SD2-3	—	36	8 10YR4/1+2.5Y6/3 塗灰中にぶい黄褐色シルト質種細砂(灰質細砂を含む)	
SD2-4	—	36	7 10YR4/1+2.5Y6/3 塗灰中にぶい黄褐色シルト質種細砂(灰質細砂を含む)	
SP2-1	円形	20	14 10YR4/1+4/3 塗灰中にぶい黄褐色シルト質種細砂	
SP2-2	円形	15	13 10YR4/1+4/3 塗灰中にぶい黄褐色シルト質種細砂	
SP2-3	円形	30	12 10YR4/1+4/3 塗灰中にぶい黄褐色シルト質種細砂	
SP2-4	円形	17	2 10YR4/2 黑灰褐色シルト質種細砂	
SP2-5	円形	25	18 10YR4/1+4/3 塗灰中にぶい黄褐色シルト質種細砂	
SP2-6	円形	18	16 10YR4/1+4/3 塗灰中にぶい黄褐色シルト質種細砂	
SP2-7	円形	26	13 10YR4/1+4/3 塗灰中にぶい黄褐色シルト質種細砂	
SP2-8	円形	32×27	12 10YR4/1+4/3 塗灰中にぶい黄褐色シルト質種細砂	
SP2-9	久希			
SP2-10	円形	28×23	19 10YR4/1+4/3 塗灰中にぶい黄褐色シルト質種細砂	
SP2-11	円形	17	12 10YR4/1+4/3 塗灰中にぶい黄褐色シルト質種細砂	
SP2-12	円形	21	17 10YR4/1+4/3 塗灰中にぶい黄褐色シルト質種細砂	
SP2-13	円形	23×19	16 10YR4/1+4/3 塗灰中にぶい黄褐色シルト質種細砂	
SP2-14	円形	27×23	20 10YR4/1+4/3 塗灰中にぶい黄褐色シルト質種細砂	
SP2-15	円形	23	19 10YR4/1+4/3 塗灰中にぶい黄褐色シルト質種細砂	
SP2-16	椭円形	33×24	11 10YR4/2 黑灰褐色シルト質種細砂	
SP2-17	円形	26	19 10YR4/2 黑灰褐色シルト質種細砂	
SP2-18	円形	26×13	22 10YR4/2 黑灰褐色シルト質種細砂	
SP2-19	円形	23	13 10YR4/1+4/3 塗灰中にぶい黄褐色シルト質種細砂	
SP2-20	円形	18	8 10YR4/2 黑灰褐色シルト質種細砂	
SP2-21	円形	38×32	12 10YR4/1+2.5Y6/2 塗灰シルト質種細砂～灰質細砂	
SP2-22	久希			
SP2-23	久希			
SP2-24	久希			
SP2-25	久希			
SP2-26	円形	37	24 10YR2/1 塗灰シルト質種細砂(10YR6/3 にぶい黄褐色シルト質種細砂を含む)	
SP2-27	円形	33	17 10YR2/1 塗灰シルト質種細砂(10YR6/3 にぶい黄褐色シルト質種細砂を含む)	
SP2-28	円形	46×37	34 10YR2/1 塗灰シルト質種細砂(10YR6/3 にぶい黄褐色シルト質種細砂を含む)	
SP2-29	円形	20	17 10YR2/1 塗灰シルト質種細砂(10YR6/3 にぶい黄褐色シルト質種細砂を含む)	
SP2-30	円形	22	14 10YR2/1 塗灰シルト質種細砂(10YR6/3 にぶい黄褐色シルト質種細砂を含む)	

SP2-31	円形	18	20 2.5Y5/2+7/4 麦黄皮+淡黄シルト質細砂	
SP2-32	円形	24	19 2.5Y5/2+7/4 麦黄皮+淡黄シルト質細砂	
SP2-33	円形	40	10 10YR5/3 [に] 黄褐色+淡黄シルト質細砂	
SP2-35	円形	50	12 2.5Y8/3 [に] 黄褐色+淡黄シルト質細砂+暗褐色	
SP2-36	久番			
SP2-41	久番			
SP2-42	円形	42	4) —	
SP2-43	円形	24	17 10YR5/3 [に] 黄褐色+淡黄シルト質細砂	
SP2-44	円形	18.1	21 10YR5/3 [に] 黄褐色+淡黄シルト質細砂	
SP2-45	円形	40	10) —	
SP2-46	円形	20	22 10YR3/1 黑褐色シルト質細砂 (10YR6/3 [に] 黄褐色シルト質細砂を含む)	
SP2-47	不整円形	53×50	20) —	
SP2-48	円形	24	11 10YR4/1 黑褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-49	円形	17	9 10YR4/1 黑褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-50	円形	35	10 10YR3/1 黑褐色+淡黄シルト質細砂	
SP2-51	円形	27	10 10YR4/1 黑褐色+淡黄シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-52	久番			
SP2-53	円形	15	10 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-54	円形	16	11 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-56	円形	30	13 10YR2/1 暗灰褐色シルト質細砂	
SP2-57	円形	15	4 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-58	円形	22	11 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-59	円形	32	17 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-60	円形	76	11 10YR2/1 黑褐色+淡黄シルト質細砂	
SP2-64	椭円形	48×33	13 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-65	円形	29	7 10YR5/3 [に] 黄褐色+暗灰シルト質細砂	
SP2-66	円形	23	9 10YR5/3 [に] 黄褐色+暗灰シルト質細砂	
SP2-67	円形	40×34	14 10YR5/3 [に] 黄褐色+暗灰シルト質細砂	
SP2-68	円形	34	4 10YR5/3 [に] 黄褐色+暗灰シルト質細砂	
SP2-74	円形	20	11 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-75	円形	15	9 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-79	円形	33	17 10YR6/3 [に] 黄褐色+暗灰シルト質細砂	
SP2-80	円形	20	14 10YR4/3 [に] 黄褐色シルト質細砂	
SP2-81	円形	23	16 10YR4/3 [に] 黄褐色シルト質細砂	
SP2-82	円形	22	15 10YR5/3 [に] 黄褐色シルト質細砂	
SP2-93	円形	35	16 10YR5/3 [に] 黄褐色+暗灰シルト質細砂	
SP2-94	円形	23	32 10YR4/3 [に] 黄褐色シルト質細砂	
SP2-95	円形	29	15 10YR4/3 [に] 黄褐色シルト質細砂	
SP2-96	円形	26	20 10YR4/1 暗灰シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-97	円形	40	24 10YR4/1 暗灰シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-98	円形	35	24 10YR4/3 [に] 黄褐色シルト質細砂	
SP2-99	円形	22	15 10YR4/3 [に] 黄褐色シルト質細砂	
SP2-100	円形	26	17 10YR4/3 [に] 黄褐色シルト質細砂	
SP2-101	円形	41	17 10YR4/3 [に] 黄褐色シルト質細砂	
SP2-102	円形	44×33	18 10YR4/3 [に] 黄褐色+暗灰シルト質細砂	
SP2-103	円形	20	23 10YR5/3 [に] 黄褐色+暗灰シルト質細砂	
SP2-104	不整円形	22	22 10YR4/3 [に] 黄褐色シルト質細砂	
SP2-95	円形	29	20) —	
SP2-96	円形	26	20 10YR4/1 暗灰シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-97	円形	40	24 10YR4/1 暗灰シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-98	円形	35	24 10YR4/3 [に] 黄褐色シルト質細砂	
SP2-99	円形	41	17 10YR4/3 [に] 黄褐色シルト質細砂	
SP2-100	円形	48×40	18 10YR4/3 [に] 黄褐色+暗灰シルト質細砂	
SP2-101	円形	17	12 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-102	円形	27	21 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-103	円形	33	21 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-104	不整円形	48	12 10YR4/3 [に] 黄褐色シルト質細砂	
SP2-105	円形	21	15 10YR4/1 暗灰シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-106	不整円形	25	19 10YR4/1 暗灰シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-107	円形	24	11 10YR4/1 暗灰シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-108	円形	29	17 10YR4/1 暗灰シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-109	円形	34	21 10YR4/1 暗灰シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-110	円形	48	14 10YR4/1 暗灰シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-111	円形	20	15 10YR4/1 暗灰シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-112	円形	18	13 10YR4/1 暗灰シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-123	円形	50	17 10YR4/1 暗灰シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-114	円形	28	18 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-115	円形	39	20 10YR2/2 黑褐色シルト質細砂	
SP2-116	円形	38	19 10YR2/2 黑褐色シルト質細砂	
SP2-117	円形	75	16 10YR4/3 [に] 黄褐色+暗灰褐色シルト質細砂	
SP2-121	椭円形	41×33	11 10YR4/3 [に] 黄褐色+暗灰褐色シルト質細砂	
SP2-122	円形	31	13 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-123	円形	28	19 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-124	円形	37	18 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂+腐化材を含む)	
SP2-125	円形	22	10 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-125	久番			
SP2-127	円形	30	4 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-128	円形	20	7 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-129	円形	20	8 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-130	円形	15	9 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-131	円形	21	14 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SP2-132	円形	19	20 10YR4/1 暗灰褐色シルト質細砂 (2.5Y7/3 淡黄シルト質細砂を含む)	
SX2-1	—	(740) × (170)	10 土黄色	
SX2-2	久番			
SX2-3	方形	(240) × (160)	2.5Y4/1 黄褐色シルト質細砂 (2.5Y5/3 黄褐色シルト質細砂を含む) 3.5Y5/4 淡黄褐色シルト質細砂 2.5Y5/2 暗灰褐色シルト質細砂	風削木版
SX2-4	椭状	160 × 27	6 10YR5/1+2.5Y6/3 暗灰褐色シルト質細砂+に] 黄褐色	
SX2-5	椭状	163 × 67	6 上削面	
SX2-6	不整方形	412 × 406	33 土黄色	
SX2-7	不整円形	(233) × (104)	6 2.5Y5/3+10YR5/3 黄褐色+に] 黄褐色シルト質細砂	風削木版

第4表 遺物観察表

件名	遺物名	性別	年齢	遺物		測定	内寸	外寸	重量	形状	特徴	目録
				内寸	外寸							
1	SB1-1 P5	土器類	朽	—	(0.8)	ナデ	ナデ	10YR5/4 深葉緑 7.5YR6/6 黄灰	1mm以下の石英・長石・黒色 粒を含む	良	田耕へウ切り後ナデ	
2	SB1-1 P1	陶器類	灰	—	(2.3)	田耕ナデ	田耕ナデ	2.5YR5/1 黄灰 2.5YR5/1 黄灰	粗糲	良		
3	SB1-1 P7	陶器類	朽	—	(1.1)	ナデ	ナデ	N5/0 国 N5/0 国	粗	良	内面に火照	
4	SB1-1 P9	弥生土器	復	—	(5.0)	(1.5)	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい緑 7.5YR5/4 にぶい緑	1mm~2mmの石英・長石・黒色 粒・角閃石を含む	良	
5	SB1-3 P2	弥生土器	高坏	—	(16.4)	(1.7)	摩滅	ヘラ削り	7.5YR6/6 黄緑 7.5YR6/6 黄緑	1mm~2mmの石英・長石・ 赤色粒を含む	良	
6	SB1-3 P2	弥生土器	變	—	4.8	(2.8)	ナデ	摩滅	10YR5/3 にぶい黄緑 10YR5/3 透葉緑	1mm~5mmの石英・長石・ 赤色粒を含む	良	
7	SB1-3 P5	弥生土器	高坏	—	—	—	ヘラミガキ	SYR6/6 棒 SYR6/6 棒	1mm~5mmの石英・長石・ 雲母・角閃石を含む	良		
8	SD1-1	土器類	高坏	—	(14.6)	(1.9)	摩耗	ヘラ削り	7.5YR5/4 にぶい黄 7.5YR5/4 にぶい黄	1mm~5mmの石英・長石・ 赤色粒を含む	良	
9	SD1-1	土器類	復	—	—	(1.5)	ナデ	ナデ	SYR6/5 棒 SYR6/5 棒	1mm~2mmの石英・長石を 含む	良	
10	SD1-2	弥生土器	復	(10.6)	—	(1.3)	摩滅	摩滅	2.5Y/2 透葉 2.5Y/2 透葉	1mm以下の中石英・長石を含む	良	
11	SD1-2	弥生土器	變	—	—	(3.4)	ハケ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄緑 10YR7/3 にぶい黄緑	1mm~3mmの石英・長石を 含む	良	
12	SD1-3	弥生土器	變	(12.0)	—	(3.8)	貼付荷物1束、財目、ナデ、ヨコナデ	ヘラナデ、彌須压	10YR5/2 黄葉緑 10YR5/2 にぶい黄緑	2.5mm以下の石英・長石・黒 色粒・赤色粒を含む	良	
13	SD1-3	弥生土器	變	—	—	(5.7)	ヘラ縫接2条、財荷物、ナデ、ヨコ	摩滅	10YR6/6 にぶい黄緑 10YR6/6 にぶい黄緑	2mm以下の石英・長石・黒色 粒・赤色粒を含む	良	
14	SD1-3	弥生土器	復	—	—	(3.6)	ナデ	ヘラナデ	7.5YR6/6 にぶい黄 7.5YR6/6 にぶい黄	1.5mm以下の石英・長石・黒 色粒・赤色粒を含む	良	
15	SD1-3	弥生土器	變	—	—	(4.2)	透葉2条、ハケ、ナデ	ナデ	7.5YR6/6 にぶい黄 10YR7/3 にぶい黄緑	1.5mm以下の石英・長石・黒 色粒を含む	良	
16	SD1-3	弥生土器	復	—	(9.0)	(4.0)	ナデ	ナデ	SYR6/6 棒 10YR7/2 にぶい黄緑	4mm以下の石英・長石・赤 色粒を含む	良	
17	SD1-4	弥生土器	高坏	—	—	(2.7)	ヨコナデ、ヘラ削り	ヨコナデ	7.5YR6/6 にぶい黄 7.5YR6/6 にぶい黄	1mm以下の石英・長石・赤 色粒を含む	良	
18	SD1-4	弥生土器	變	—	—	(2.8)	葬鉢裏密2条、ヨコナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい黄 7.5YR6/2 透葉灰	2.5mm以下の石英・長石を含む	良	
19	SD1-4	弥生土器	變	—	(4.6)	(1.4)	ナデ	ヘラ削り	7.5YR6/5 にぶい黄 7.5YR6/5 にぶい黄	1mm以下の石英・長石・金 剛石・角閃石を含む	良	
20	SX1-3	弥生土器	變	—	—	(5.4)	ハケ、ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい黄 7.5YR6/2 にぶい黄	1mm~3mmの石英・長石・ 雲母・角閃石を含む	良	
21	SX1-3	弥生土器	復	—	—	(4.4)	タキ	摩滅	10YR6/1 透葉 10YR6/2 透葉	青	良	
22	SX1-3	弥生土器	高坏	—	—	(3.7)	摩滅	摩滅	7.5YR5/4 にぶい黄 7.5YR5/4 にぶい黄	1mm以下の石英・長石・角 閃石・赤色粒を多量に含む	良	
23	第1腰上括	陶器類	朽	(15.0)	—	(3.1)	回転ナデ	回転ナデ	10YR5/1 透葉 10YR5/1 透葉	青	良	外周に自然輪
24	第1腰上括	陶器類	朽	—	(9.6)	(1.1)	ナデ	ナデ	N6/0 国 N6/0 国	1mm以下の石英・長石を含む	良	
25	第1腰上括	弥生土器	變	—	—	(7.8)	ヘラ縫接4条、ヨコサエ後ナデ	ナデ	SYR6/6 棒 10YR7/4 にぶい黄	1mm~2mmの石英・長石・ 黒色粒を含む	良	
26	第1腰上括	弥生土器	變	—	(24.0)	(1.9)	ナデ	ヘラナデ後ナデ	10YR7/4 にぶい黄 10YR7/4 にぶい黄	1mm~5mmの石英・長石・ 黒色粒を含む	良	肉面下部が様化
27	SK2-19	弥生土器	變	(15.0)	—	(3.1)	ヘラ縫接線、ナデ	板ナデ後ナデ	7.5YR6/4 にぶい黄 7.5YR6/4 にぶい黄	1mm~3mmの大石英・長石・ 雲母・角閃石・赤色粒を含む	良	
28	SK2-19	弥生土器	變	—	—	(5.8)	ヘラ縫接線、ヘラミガキ	板ナデ	7.5YR6/3 にぶい黄 2.5YR6/3 棒	1mm~4mmの石英・長石・ 雲母・角閃石・赤色粒を含む	良	
29	SK2-19	弥生土器	變	—	(9.0)	(5.3)	ハケ	ナデ	SYR6/6 棒 10YR7/3 にぶい黄緑	1mm~4mmの大石英・長石・ 黒色粒を含む	良	
30	SK2-19	弥生土器	變	—	8.2	(8.8)	ハケ、ヘラミガキ、ヘラ削り後ナ デ	ヘラ削り	7.5YR6/6 棒 7.5YR6/6 棒	1mm~5mmの大石英・長石・ 雲母・角閃石・赤色粒を含む	良	
31	SD2-1 (上層)	弥生土器	變	(18.0)	—	(11.0)	ヘラ縫接3条、摩滅	摩滅	7.5YR6/4 黄 7.5YR6/4 黄	4mm以下の石英・長石を含 む	良	
32	SD2-1 (上層)	弥生土器	變	(21.4)	—	(5.5)	摩滅、倒壊、ヘラミガキ	摩滅、ナデ、ヨコサエ、縫合 部	7.5YR6/4 棒 7.5YR6/4 棒	2mm以下の石英・長石を含 む	良	
33	SD2-1 (上層)	弥生土器	變	(31.6)	—	(4.0)	ヨコサエ、ヘラ縫接4条、ヨコサ エ	摩滅	7.5YR7/3 棒 7.5YR7/3 棒	3mm以下の石英・長石を含 む	良	
34	SD2-1 (上層)	弥生土器	變	—	—	(5.5)	ヨコサエ、ヨコサエ2条、ナデ、 倒壊	ヨコサエ、ナデ	10YR6/3 にぶい黄 10YR7/4 にぶい黄	3mm以下の石英・長石を含 む	良	
35	SD2-1 (上層)	弥生土器	變	(2.8)	—	(8.5)	ハケ	ナデ、ヘラミガキ	10YR7/4 にぶい黄 10YR5/2 透葉	1mm以下の石英・長石を含 む	良	
36	SD2-1 (上層)	弥生土器	變	(11.0)	—	(4.5)	ヨコナデ、ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい黄 7.5YR6/4 棒	1mm~3mm程度の石英・長石 を含む	良	

番号	種類名	母材	固形	底面(一)		内面	外面	表面		目立 特徴	備考	年号	
				上	下			側面	底面	上・側面	下・側面		
37	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	泥	(14.0)	—	(3.0)	ナデ、板ナデ後ナデ	ヘラミガキ、ヘラナデ	10YR7/3 にない・黄褐色 10YR7/3 にない・黄褐色	2mm以下の石英・長石を含む	良		
38	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	泥	(15.2)	—	(1.5)	ナデ	ナデ、ヘラミガキ	10YR6/2 反張 10YR6/2 反張	2mm以下の石英・長石を含む	良		
39	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	泥	—	—	(5.8)	ヘラ抹沈跡1条、板ナデヨコナ ヘラミガキ	ナデ	10YR7/3 遠景 10YR7/3 にない・黄褐色 10YR7/3 にない・黄褐色	2mm以下の石英・長石・黒色 鉄・赤色を含む	良		
40	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	泥	—	—	(7.4)	ヘラ抹沈跡3条、ナデ、剥離	ナデ、剥離	10YR6/3 にない・黄褐色 10YR7/3 にない・黄褐色	1mm～5mm程度の石英・長石 を含む	良		
41	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	泥	—	—	(3.7)	ヘラ抹沈跡5条、ナデ	ハケ	10YR4/1 黄褐色 10YR7/3 にない・黄褐色	1mm以下の石英・長石を含む	良	外側に被熱痕	
42	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	泥	—	—	(5.0)	細縫直線文、刻文文、ハケ	ナデ、ヘラミガキ	10YR7/3 にない・黄褐色 10YR6/3 程	1mm以下の石英・長石を含む	良		
43	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	泥	—	—	(3.2)	ナデ、貼付突起	ナデ、磨滅	10YR7/3 にない・黄褐色 10YR7/3 にない・黄褐色	2mm以下の石英・長石を含む	良		
44	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	泥	—	—	(6.6)	ヨコナデ、板ナデ	ヨコナデ後ナデ	7.5YR8/2 反張 7.5YR8/3 にない・黄褐色	2mm以下の石英・長石を多 量に含む	良		
45	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	泥	—	—	(7.9)	ハケ後ナデ、ヘラ抹沈跡5条	ヨコナデ後ナデ	10YR8/4 反張 7.5YR7/4 にない・黄褐色	2mm以下の石英・長石を多 量に含む	良	外縁部に擦付痕	
46	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	泥	—	—	(8.6)	削り、ヘラ抹沈跡3条、ニコナ ド、ヨコサエ、ハケ	ナデ、剥離	7.5YR6/3 にない・黄褐色 10YR7/4 反張	1mm以下の石英・長石・赤色 鉄を含む	良	外縁部に擦付痕	
47	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	泥	—	—	(3.9)	削り、ヘラ抹沈跡3条、ナデ	ナデ、指屈延	10YR6/3 遠景 10YR7/4 にない・黄褐色 10YR7/4 にない・黄褐色	2mm以下の石英・長石・赤色 鉄を含む	良		
48	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	泥	—	—	(3.6)	ヨコナデ、ナデ、削り	ヨコナデ、ナデ	10YR7/3 にない・黄褐色 10YR7/4 にない・黄褐色	2mm以下の石英・長石を含 む	良		
49	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	泥	—	—	(5.2)	ナデ、ヘラ抹沈跡4条	ナデ	10YR6/3 にない・黄褐色 10YR7/3 にない・黄褐色	2mm以下の石英・長石・赤色 鉄を含む	良	複合面	
50	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	泥	—	—	(6.7)	ヘラ抹沈跡4条、ヘラナデ、ナデ	ヘラミガキ	7.5YR6/4 にない・黄褐色 7.5YR6/3 反張	0.5mm～1mm程度の石英・長 石を含む、1mm程度の赤色 鉄を含む	良		
51	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	泥	—	—	(4.2)	ハケ、ヘラ抹沈跡、山形文	ナデ	10YR6/4 にない・黄褐色 10YR6/4 にない・黄褐色	3mm以下の石英・長石を含 む	良		
52	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	泥	—	—	(4.2)	ヘラ抹沈跡、山形文、ナデ	ナデ	10YR6/2 反張 10YR6/4 にない・黄褐色	3mm以下の石英・長石を含 む	良		
53	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	泥	—	—	(4.6)	ヘラ抹沈跡、削葉文、ナデ、ヘア ナデ	ナデ	7.5YR4/2 反張 7.5YR4/2 反張	1mm～3mm程度の石英・長石 を含む	良		
54	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	泥	—	—	(3.5)	削葉突起、板ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にない・黄褐色 7.5YR6/4 にない・黄褐色	3mm以下の石英・長石・赤色 鉄を含む	良		
55	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	泥	—	—	(6.8)	ハケ、ヘラ抹沈跡、山形文	ナデ	ナデ、ヨコサエ、板ナデ、推 ナデ	SYR6/4 程	1mm以下の石英・長石を含 む	良	外縁に風化
56	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	底部	—	6.6	(5.9)	ヘナナデ、ナデ	ナデ、ヘラミガキ	10YR6/3 にない・黄褐色 10YR6/4 にない・黄褐色	2mm以下の石英・長石を含 む	良		
57	SD2-1 (上～中層)	堆生土層	泥	—	(6.5)	—	壁内側のナデ、ヘラミガキ、ヘア ナデ	ヘラミガキ、ナデ	10YR6/2 反張 10YR6/2 反張、SYR5/5 弱反張	4mm以下の石英・長石を多 量に含む	良		
58	B層 (下部)	堆生土層	泥	—	(9.2)	—	ヨコナデ、ナデ、ハケ後ナデ	ヨコナデ、ナデ	10YR6/4 反張 SYR6/4 にない・黄褐色	3mm以下の石英・長石を含 む	良		
59	SD2-1 (中層)	堆生土層	泥	—	(6.1)	—	ヘラ抹沈跡1条、ニコナデ、海ナ シエ、ナデ、ヘラミガキ、ナデ	ナデ	10YR8/3 遠景 SYR6/4 程	3mm以下の石英・長石・赤色 鉄を含む	良		
60	SD2-1 (中層)	堆生土層	泥	—	(6.4)	—	ヨコナデ、ヨコナデ後ヨコナデ	ヘラミガキ、麻繩	10YR6/3 遠景 10YR5/1 麻繩	1mm以下の石英・長石を含 む	良		
61	SD2-1 (中層)	堆生土層	泥	—	(7.5)	—	削葉突起、ヨコナデ、ナデ	ヘラミガキ、麻繩	10YR7/2 にない・黄褐色 10YR7/3 にない・黄褐色	3mm以下の石英・長石を含 む	良		
62	SD2-1 (中層)	堆生土層	泥	—	(20.6)	—	ヘラ抹沈跡2条、ヨコナデ、ヘラ ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	7.5YR6/3 にない・黄褐色 10YR6/3 にない・黄褐色	2mm以下の石英・長石を含 む	良		
63	SD2-1 (中層)	堆生土層	泥	—	(23.4)	—	ナデ、ヘラミガキ	ナデ	10YR7/4 にない・黄褐色 10YR7/4 にない・黄褐色	2mm以下の石英・長石を含 む	良		
64	SD2-1 (中層)	堆生土層	泥	—	(16.1)	—	[11.1]	ナデ、ヨコナデ、貼付突起	ヨコナデ、ヨコサエ	10YR7/3 にない・黄褐色 10YR7/3 にない・黄褐色	2mm以下の石英・長石を多 量に含む	良	
65	SD2-1 (中層)	堆生土層	泥	—	—	(8.1)	—	削葉突起後ナデ	10YR8/3 遠景 10YR8/4 遠景	2mm以下の石英・長石を含 む	良		
66	SD2-1 (中層)	堆生土層	泥	—	—	(8.2)	ヨコナデ、ナデ、貼付突起2条	ナデ、ヨコサエ	2.5YR6/4 前張 10YR2/3 弱反張	2mm以下の石英・長石を含 む	良		
67	SD2-1 (中層)	堆生土層	泥	—	(9.6)	(22.8)	貼付突起、推延压延、ナデ	ヘラミガキ	7.5YR4/3 前張 7.5YR4/4 前張	2mm以下の石英・長石を含 む	良	押紋文に工具痕が 残存	
68	SD2-1 (中層)	堆生土層	泥	—	(6.6)	—	ヨコナデ、推延压延、ナデ	ナデ	10YR7/3 にない・黄褐色 10YR7/3 にない・黄褐色	2mm以下の石英・長石・赤色 鉄・赤色を含む	良		
69	SD2-1 (中層)	堆生土層	泥	—	(8.6)	—	削葉突起2条、円形削葉文、推 延压延	ナデ、ヨコサエ	10YR7/3 にない・黄褐色 10YR7/3 にない・黄褐色	2mm以下の石英・長石を含 む	良		
70	SD2-1 (中層)	堆生土層	泥	—	(16.2)	—	(6.4)	ヨコナデ、ヘラミガキ、貼付文	ヨコナデ、ヘラミガキ	SYR4/4 前張 SYR4/4 前張	2mm以下の石英・長石を含 む	良	
71	SD2-1 (中層)	堆生土層	泥	—	—	(6.6)	ナデ、ヨコナデ、貼付突起2条	ヨコサエ後ナデ	10YR6/4 遠景 10YR6/4 遠景	2mm以下の石英・長石を含 む	良		
72	SD2-1 (中層)	堆生土層	泥	—	—	(12.4)	貼付突起2条、ナデ、ヨコナデ	ナデ	10YR7/4 にない・黄褐色 10YR8/2 白斑	2mm以下の石英・長石・黑色 鉄・赤色を含む	良		

番号	種類名 付記	原種	由来	成長期		特徴	花期	上部葉 の内訳	地土	耕性	特徴
				出現	成熟						
73	SD2-1 (中層)	共生土器	混	—	—	(6.9) 粘付済葉1条、ナデ、摩滅	ナデ、摩滅	10YR8/4 混葉健 10YR8/4 混葉健	3mm以下の石英・長石を多 量に含む	良	
74	SD2-1 (中層)	共生土器	混	—	—	(6.0) 粘付済葉1条、摩滅、ナデ	ナデ	7.5YR7/6 長石 7.5YR7/6 長石	0.5mm～2.5mm程度の石英・長 石を含む	良	
75	SD2-1 (中層)	共生土器	混	—	—	(4.6) 粘付済葉1条、粘膜直進、摩滅	ナデ	10YR8/5 混葉健 10YR8/5 混葉健 10YR8/5 混葉健	1.5mm～4mm程度の石英・長 石を含む	良	
76	SD2-1 (中層)	共生土器	混	—	—	(7.2) ヘラ指次緑6条、ナデ	ナデ	10YR8/6 明葉弱 2.5YR7/3 混葉	1mm以下の石英・長石を含 む	良	外間に黒斑
77	SD2-1 (中層)	共生土器	混	—	—	(8.3) ヘラ指次緑、ヘラミガキ	ナデ後ヘラミガキ	10YR7/3にぶい黄褐 7.5YR7/4にぶい黄褐	1mm以下の石英・長石を含 む	良	
78	SD2-1 (中層)	共生土器	混	(10.2)	—	(9.6) ナデ、摩滅	粘付済葉、四脚刺突又、摩 オサエ後ナデ、摩滅	10YR7/3にぶい黄褐 10YR7/3にぶい黄褐	3mm以下の石英・長石・黒色 粘土を含む	良	
79	SD2-1 (中層)	共生土器	混	—	—	(8.7) 摩滅	ナデ、粘付済葉1条	7.5YR7/6 混葉 7.5YR7/6 混葉	2mm以下の石英・長石を含 む	良	内間に黒斑
80	SD2-1 (中層)	共生土器	混	(17.6)	—	(6.7) 刺出突葉、ヨコナデ、ナデ、ヘラミ ガキ	ヨコナデ、ハケ後ナデ	10YR7/3にぶい黄褐 10YR7/3にぶい黄褐	4mm以下の石英・長石を含 む、2mm以下の赤色物を含 む	良	
81	SD2-1 (中層)	共生土器	混	—	—	(5.95) ナデ、刺出突葉4条	ヘラミガキ	2.5YR7/3 混葉 10YR8/6 混葉強	1mm以下の石英・長石を含 む	良	
82	SD2-1 (中層)	共生土器	混	—	—	(7.8) ヨコナデ、ハラミガキ、ナデ、刺出 突葉4条	ナデ	2.5YR7/3 混葉 10YR8/6 混葉強	1mm以下の石英・長石を含 む	良	
83	SD2-1 (中層)	共生土器	混	—	—	(11.0) ヨコナデ、ナデ、ヘウミガキ	ヘラミガキ、ハラナデ	7.5YR8/6 混葉 10YR8/6 明葉純	5mm以下の石英・長石・赤色 粘土を含む	良	外間に煤灰・物根 少版
84	SD2-1 (中層)	共生土器	混	—	(8.4)	(16.2) ヘラ指次緑1条、摩滅	摩滅	10YR8/6にぶい黄褐 10YR7/3にぶい黄褐	3mm以下の石英・長石・黒色 粘土・赤色物を含む	良	内間に黑斑、毫部: ヨコナデ後ナデ
85	SD2-1 (中層)	共生土器	混	(28.8)	—	(9.8) ヨコナデ、ヘラ指次緑6条、ヨコナデ、 ヨコナデ、ナデ	指オサエ、ナデ	10YR7/2にぶい黄褐 10YR7/2にぶい黄褐	2mm以下の石英・長石・黒色 粘土・赤色物を含む	良	外間に黒斑
86	SD2-1 (中層)	共生土器	混	(29.0)	—	(25.2) 射目、ヘラ指次緑4条、ヨコナデ、 ヨコナデ、ナデ	摩滅	7.5YR8/4にぶい黄褐 10YR8/4にぶい黄褐	4mm以下の石英・長石・黒色 粘土・赤色物を含む	良	
87	SD2-1 (中層)	共生土器	混	(18.8)	—	(8.7) 射目、ヘラ指次緑7条、ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ後ナデ	10YR7/2にぶい黄褐 10YR7/2にぶい黄褐	3mm以下の石英・長石・黒色 粘土・赤色物を含む	良	外間に黒斑
88	SD2-1 (中層)	共生土器	混	(19.0)	—	(3.4) 射目、ヨコナデ、ナデ	指オサエ後ナデ	10YR8/3にぶい黄褐 10YR8/4にぶい黄褐	1mm以下の石英・長石を含 む	良	
89	SD2-1 (中層)	共生土器	混	(16.4)	—	(10.8) 射目、ヘラ指次緑4条、ヨコナデ、 ヨコナデ、ナデ	指ナデ後ナデ	7.5YR8/3にぶい黄褐 7.5YR8/3にぶい黄褐	4mm以下の石英・長石・黒色 粘土を含む	良	外一面に黒斑
90	SD2-1 (中層)	共生土器	混	(15.6)	—	(7.4) ヨコナデ、ヘラ指次緑4条、ナデ	ヨコナデ、ナデ	GYRN/6 混葉 GYRN/6 明葉純	4mm以下の石英・長石含む	良	
91	SD2-1 (中層)	共生土器	混	(20.8)	—	(1.8) 射目、指脚茎線文、ヨコナデ、指 オサエ	ヨコナデ、ヘラナデ	10YR8/6 混葉強 10YR8/6 混葉強	3mm以下の石英・長石・赤色 粘土を含む	良	
92	SD2-1 (中層)	共生土器	混	(22.8)	—	(12.0) 射目、ヘラ指次緑6条、ヨコナデ、 ハケ後ナデ	ヨコナデ、ナデ	10YR8/3にぶい黄褐 2.5YR8/3にぶい黄褐	2mm～4mmの石英含む	良	
93	SD2-1 (中層)	共生土器	混	13.0	—	(17.8) 射目、ヘラ指次緑6条、ヨコナデ、 ナデ	板ナデ、ナデ	7.5YR8/6 混葉 7.5YR8/2 混葉	3mm以下の石英・長石・黒色 粘土・赤色物を含む	良	
94	SD2-1 (中層)	共生土器	混	(14.4)	—	(6.2) 粘付済葉、射目、指オサエ、ヘラ 指ナデ、ヘラ指次緑7条	ヘラナデ、指オサエ	10YR8/4 混葉 10YR8/4にぶい黄褐	1mm以下の石英・長石を含 む	良	
95	SD2-1 (中層)	共生土器	混	(15.6)	—	(7.2) 射目、ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、指オサエ後ナデ	10YR8/3にぶい黄褐 7.5YR8/4にぶい黄褐	2mm以下の石英・長石を含 む	良	
96	SD2-1 (中層)	共生土器	混	(27.2)	—	(27.2) 射目、ヘラ指次緑6条、ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、板ナデ、ナデ	10YR7/4にぶい黄褐 10YR8/4にぶい黄褐	1mm～1cmの石英・長石・ 赤色粘土を含む	良	棘模み痕
97	SD2-1 (中層)	共生土器	混	—	—	(3.7) 射目、ヘラ指次緑1条、摩滅	ナデ	GYRN/8 明葉弱 GYRN/8 明葉弱	2mm以下の石英・長石を含 む	良	
98	SD2-1 (中層)	共生土器	混	—	—	(1.4) 山形文、射目、次緑1条、ナデ、 板ナデ	ナデ	7.5YR8/4 混葉 7.5YR8/3 混葉	1mm以下の石英・長石を含 む	良	
99	SD2-1 (中層)	共生土器	混	—	—	(3.8) ヨコナデ、射目、ヘラ指次緑	ヨコナデ	7.5YR8/4にぶい黄褐 7.5YR8/6 混葉	1mm以下の石英・長石を含 む	良	
100	SD2-1 (中層)	共生土器	混	—	—	(3.8) 射目、ナデ、ヘラ指次緑4条	ナデ	7.5YR7/4にぶい黄褐 7.5YR7/6 混葉	4mm以下の石英・長石・赤色 粘土を含む	良	
101	SD2-1 (中層)	共生土器	混	—	—	(4.1) ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、板ナデ、ヘラナデ	GYRN/8 混葉 GYRN/8 混葉	2mm以下の石英・長石・黒色 粘土・赤色物を含む	良	
102	SD2-1 (中層)	共生土器	混	—	—	(4.1) 指脚茎線文、ナデ	ナデ	GYRN/8 混葉 GYRN/8 混葉	2mm以下の石英・長石・赤色 粘土を含む	良	
103	SD2-1 (中層)	共生土器	混	—	—	(6.8) ヘラ指次緑、山形文、ナデ、ナ デ	ナデ	10YR8/4 混葉強 10YR8/4にぶい黄褐 7.5YR8/4にぶい黄褐	0.5mm～3mm程度の石英・長 石を含む	良	
104	SD2-1 (中層)	共生土器	混	—	—	(6.7) ヘラ指次緑、山形文、ハケ後ナ デ	ナデ	10YR8/3にぶい黄褐 10YR8/4にぶい黄褐	2mm以下の石英・長石を含 む	良	
105	SD2-1 (中層)	共生土器	混	(8.1)	(8.1)	ナデ	ナデ、指ナデ	10YR8/4にぶい黄褐 10YR8/6 混葉 7.5YR8/6 混葉	2mm以下の石英・長石・黒色 粘土・赤色粘土を含む	良	外間に底部～体部 に煤化
106	SD2-1 (中層)	共生土器	混	(9.2)	(9.9)	ナデ、ヘラミガキ	ナデ、ヘラミガキ、板ナデ	GYRN/8 混葉 GYRN/8 混葉	1mm～4.5mm程度の石英・長 石を含む	良	
107	SD2-1 (中層)	共生土器	混	—	11.4	(9.68) ナデ、ヘラナデ	板ナデ、ナデ	7.5YR8/3にぶい黄褐 10YR7/3にぶい黄褐	3.5mm以下の石英・長石・黑 色粘土・赤色粘土を含む	良	底部にモルタル、外 面一面に黒斑
108	SD2-1 (中層)	共生土器	混	—	8.1×5.0 (3.8)	ハケ、ナデ	板ナデ	10YR8/2 混葉 10YR8/2 混葉	善	良	

番号	地名	理屈	用意	位置		内面	外面	本筋	上筋	下筋	筋肉	骨
				位置	位置							
100	SD2-1 (中腹)	筋生土器	筋部	—	7.2	[4.0]	ハケ	ナデ、ナデ	10YR7/3にぶい黄緑 10YR7/4にぶい黄緑	3mm以下の石英・長石・黒色 色斑・赤色斑を含む	10YR7/3にぶい黄緑 10YR7/4にぶい黄緑	底面にモザイク、外側 一面に風紋
110	SD2-1 (中腹)	筋生土器	筋部	—	(7.4)	[4.5]	ハケ	ナデ、深ナデ	7.5YR7/3にぶい黄緑 7.5YR7/3にぶい黄緑	1mm~10mm程度の石英・長石・ 色斑を含む、1.5mm程度の赤色斑 を含む	7.5YR7/3にぶい黄緑 7.5YR7/4にぶい黄緑	底面にモザイク
111	SD2-1 (中腹)	筋生土器	筋部	—	12.2	[11.7]	ナデ、ヘラミガキ	ナデ、ヘラミガキ	10YR7/3にぶい黄緑 10YR7/4にぶい黄緑	2mm以下の石英・長石・赤色 色斑・赤色斑を含む	10YR7/3にぶい黄緑 10YR7/4にぶい黄緑	底面にモザイク
112	SD2-1 (中腹)	筋生土器	筋部	—	7.2	[7.2]	ハケ	ナデ、ハケ、指ナデ	7.5YR7/4 横灰 7.5YR7/6 灰	4mm以下の石英・長石・赤色 色斑を多量に含む	7.5YR7/4 横灰 7.5YR7/6 灰	底面にモザイク
113	SD2-1 (中腹)	筋生土器	筋部	—	(7.2)	[10.5]	ハケ、ヘラナデ、ナデ	ナデ	8YR8/4 横灰 7.5YR7/4にぶい黄緑	9mm以下の石英・長石・赤色 色斑を多量に含む	8YR8/4 横灰 7.5YR7/4にぶい黄緑	底面にモザイク
114	SD2-1 (中腹)	筋生土器	筋部	—	12.2	[4.8]	ハケ	用オサエ、ナデ後ヘラミガキ	10YR7/4にぶい黄緑 10YR7/4にぶい黄緑	5mm以下の石英・長石を含 む	10YR7/4にぶい黄緑 10YR7/4にぶい黄緑	底面にモザイク、横粗 み模
115	SD2-1 (中腹)	筋生土器	筋	—	高さ測定 (7.8)	[5.5]	ナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	7.5YR7/1 黑 10YR7/3にぶい黄緑	1mm以下の石英・長石を含 む	7.5YR7/1 黑 10YR7/3にぶい黄緑	底面にモザイク
116	SD2-1 (中腹)	筋生土器	筋	—	天井測定 6.0	[6.6]	ヘラナデ、ナデ	ナデ	8YR8/4にぶい黄緑 7.5YR7/4にぶい黄緑	4mm以下の石英・長石・赤色 色斑を多量に含む	8YR8/4にぶい黄緑 7.5YR7/4にぶい黄緑	底面にモザイク
117	SD2-1 (中腹)	筋生土器	筋	—	—	[8.0]	ハケ後ナデ、ヘラミガキ	指オサエ、板ナデ後ヘラミガ キ	10YR7/3にぶい黄緑 8YR7/6 横灰	1mm以下の石英・長石を含 む	10YR7/3にぶい黄緑 8YR7/6 横灰	底面に洞隙底
118	SD2-1 (中腹)	筋生土器	筋	(19.6)	—	[3.5]	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	7.5YR7/8 明暗 7.5YR7/6 明暗	3mm以下の石英・長石・赤色 色斑を含む	7.5YR7/8 明暗 7.5YR7/6 明暗	底面にモザイク
119	SD2-1 (中腹)	筋生土器	筋	(19.2)	—	[3.1]	ヘラミガキ、ナデ	ヘラミガキ、ナデ	7.5YR7/4にぶい黄緑 7.5YR7/4にぶい黄緑	2mm以下の石英・長石・赤色 色斑を含む	7.5YR7/4にぶい黄緑 7.5YR7/4にぶい黄緑	底面にモザイク
120	SD2-1 (中腹)	筋生土器	筋	(20.6)	—	[5.8]	ナデ、ヘラミガキ、ミコナデ	板ナデ、ヘラミガキ、ヨコナデ	10YR4/1 横灰 10YR4/1 横灰	2mm以下の石英・長石を含 む	10YR4/1 横灰 10YR4/1 横灰	底面にモザイク
121	SD2-1 (中腹)	筋生土器	筋	(21.4)	—	[1.7]	ナデ後ヘラミガキ	ヘラナデ後ヘラミガキ	7.5YR7/3にぶい黄緑 7.5YR7/4にぶい黄緑	2mm以下の石英・長石を含 む	7.5YR7/3にぶい黄緑 7.5YR7/4にぶい黄緑	底面にモザイク
122	SD2-1 (中腹)	筋生土器	筋	(19.2)	—	[8.5]	ヨコナデ、ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	10YR7/3にぶい黄緑 10YR7/4にぶい黄緑	4mm以下の石英・長石を含 む	10YR7/3にぶい黄緑 10YR7/4にぶい黄緑	底面に黒斑
123	SD2-1 (中腹)	筋生土器	筋	—	—	[8.7]	ナデ、ハケ	指オサエ後ナデ	HE2/0 黑 10YR4/2 深灰	2mm以下の石英・長石を含 む	HE2/0 黑 10YR4/2 深灰	底面に黒斑
124	SD2-1 (中腹)	筋生土器	高筋	—	(4.0)	[2.6]	ナデ	ナデ、指オサエ	10YR7/3 深灰 10YR7/3にぶい黄緑	1mm以下の石英・長石を含 む	10YR7/3 深灰 10YR7/3にぶい黄緑	底面にモザイク
125	SD2-1 (下盤)	筋生土器	筋	(14.8)	—	[5.85]	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ヘラミガキ	7.5YR7/4にぶい黄緑 7.5YR7/4にぶい黄緑	1mm以下の石英・赤色斑を含 む	7.5YR7/4にぶい黄緑 7.5YR7/4にぶい黄緑	底面に黒斑
126	SD2-1 (下盤)	筋生土器	筋	(16.4)	—	[6.7]	ナデ、摩滅	ナデ、ヘラミガキ	7.5YR7/4にぶい黄緑 7.5YR7/4にぶい黄緑	3mm以下の石英・長石・赤色 斑を多量に含む	7.5YR7/4にぶい黄緑 7.5YR7/4にぶい黄緑	底面に黒斑
127	SD2-1 (下盤)	筋生土器	筋	(18.7)	—	[8.35]	板ナデ、ナデ	ナデ	10YR7/2 深灰斑 10YR7/2 深灰斑	1mm以下の石英・長石を多 量に含む	10YR7/2 深灰斑 10YR7/2 深灰斑	工具底
128	SD2-1 (最下盤)	筋生土器	筋	—	8.3	[4.6]	貼付突起1条、板ナデ、ナデ、 ヘラミガキ	指オサエ、ナデ、ヨコナデ	10YR7/6にぶい黄緑 7.5YR7/4にぶい黄緑	2mm以下の石英・長石・赤色 斑を含む	10YR7/6にぶい黄緑 7.5YR7/4にぶい黄緑	底面に黒斑
129	SD2-1 (最下盤)	筋生土器	筋	(19.6)	—	[4.85]	ヨコナデ、ハケ、ヘラミガキ、削出 穴穿	ヨコナデ、ヘラミガキ	5YR6/6 横 5YR6/6 横	1mm以下の石英・長石を含 む	5YR6/6 横 5YR6/6 横	底面にモザイク
130	SD2-1 (最下盤)	筋生土器	筋	(20.7)	—	[5.6]	ナデ	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ	7.5YR7/6 深黄緑 10YR7/3にぶい黄緑	1mm以下の石英・長石を含 む	7.5YR7/6 深黄緑 10YR7/3にぶい黄緑	底面にモザイク
131	SD2-1 (最下盤)	筋生土器	筋	(20.6)	—	[3.4]	ヨコナデ、ハケ後ナデ	ヨコナデ、ヘラミガキ	10YR7/3にぶい黄緑 10YR7/2にぶい黄緑	1mm以下の石英・長石を含 む	10YR7/3にぶい黄緑 10YR7/2にぶい黄緑	底面にモザイク
132	SD2-1 (下盤)	筋生土器	筋	(21.0)	—	[5.85]	ハケ、ヨコナデ、ヘラミガキ	ヨコナデ、ヘラミガキ	10YR7/2にぶい黄緑 10YR7/2にぶい黄緑	1mm以下の石英・長石を含 む	10YR7/2にぶい黄緑 10YR7/2にぶい黄緑	底面にモザイク
133	SD2-1 (下盤)	筋生土器	筋	—	—	[2.85]	ヨコナデ、ヘラミガキ	ヨコナデ	10YR7/3にぶい黄緑 10YR7/3にぶい黄緑	2mm以下の石英・長石を含 む	10YR7/3にぶい黄緑 10YR7/3にぶい黄緑	底面にモザイク
134	SD2-1 (下盤)	筋生土器	筋	—	—	[5.1]	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、貼付突起	7.5YR7/6 横 7.5YR7/6 横	1mm~2mm程度の石英・長石 を含む	7.5YR7/6 横 7.5YR7/6 横	底面にモザイク
135	SD2-1 (下盤)	筋生土器	筋	—	—	[4.2]	ヘラミガキ	ナデ、指ナデ、貼付突起	7.5YR7/6 横 7.5YR7/6 横	2mm以下の石英・長石・赤色 斑を含む	7.5YR7/6 横 7.5YR7/6 横	底面にモザイク
136	SD2-1 (下盤)	筋生土器	筋	—	—	[9.45]	ヨコナデ、貼付突起	ナデ	2.5YR7/6 横 2.5YR7/6 横	2mm以下の石英・長石を含 む	2.5YR7/6 横 2.5YR7/6 横	帶状貼付の下に沈 没
137	SD2-1 (下盤)	筋生土器	筋	—	—	[2.6]	貼付突起、ナデ	ナデ	2.5YR7/6 横 2.5YR7/6 横	2mm以下の石英・長石を含 む	2.5YR7/6 横 2.5YR7/6 横	底面にモザイク
138	SD2-1 (下盤)	筋生土器	筋	—	—	[3.5]	ヘラミガキ、貼付突起、剥離	ナデ	10YR7/3 深黄緑 10YR7/4にぶい黄緑	2mm以下の石英・長石・赤色 斑を含む	10YR7/3 深黄緑 10YR7/4にぶい黄緑	体側に黒斑
139	SD2-1 (下盤)	筋生土器	筋	—	—	[3.65]	ヘラミガキ、ヘラミガキ4条	ナデ、ヘラミガキ	7.5YR7/1 黑褐 7.5YR2/1 黑	1mm以下の石英・長石を含 む	7.5YR7/1 黑褐 7.5YR2/1 黑	底面にモザイク
140	SD2-1 (下盤)	筋生土器	筋	—	—	[4.1]	附着安瓿、ハケ、ヘラミガキ	ナデ、ヘラミガキ	10YR7/3にぶい黄緑 10YR7/4にぶい黄緑	1mm以下の石英・長石・赤色 斑を含む	10YR7/3にぶい黄緑 10YR7/4にぶい黄緑	底面にモザイク
141	SD2-1 (下盤)	筋生土器	筋	—	—	[6.0]	剥離安瓿、ナデ、ヘラミガキ	剥離	5YR6/6 横 5YR6/6 横	1mm以下の石英・長石を多 量に含む	5YR6/6 横 5YR6/6 横	底面にモザイク
142	SD2-1 (下盤)	筋生土器	筋	—	—	[6.3]	ヘラミガキ、ナデ	指オサエ、ナデ	10YR7/4にぶい黄緑 10YR7/4にぶい黄緑	2mm以下の石英・長石を含 む	10YR7/4にぶい黄緑 10YR7/4にぶい黄緑	底面にモザイク
143	SD2-1 (下盤)	筋生土器	筋	(21.2)	—	[4.13]	斜材、ヘラミガキ4条、ハケ、ヨコ ナデ、ナデ、ヘラミガキ	ナデ、ヨコナデ	7.5YR7/4 横 7.5YR7/3 横	2mm以下の石英・長石を含 む	7.5YR7/4 横 7.5YR7/3 横	底面に黒斑
144	SD2-1 (下盤)	筋生土器	筋	(22.4)	—	[8.5]	ヨコナデ、工具底、ハケ、削離、 剥離	ヨコナデ、ヘラミガキ	7.5YR7/3にぶい黄緑 10YR7/4にぶい黄緑	1mm以下の石英・長石を多 量に含む	7.5YR7/3にぶい黄緑 10YR7/4にぶい黄緑	底面にモザイク

番号	流域名	地名	標高(m)	位置	内因	外因	成因	特徴	目立	場所	備考
									山系	谷系	備考
145	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	西	(28.0)	—	(5.1) ヨコナデ、斜目、ヘラ横沈縫7条	ヨコナデ、ナデ	7SYR6/4 に多い複数 SYR6/4 に多い複数	2mm以下の石英・長石を多 量に含む	良	外間に黒斑
146	SD2-1 (下層)	弥生土器	西	(28.2)	—	(39.2) 貼付実縫、斜目、ヘラ横沈縫8条	ヨコナデ、ヨコナデ後へラス ジ、ハタ、ヘラミガキ	10YR7/2 に多い複数 10YR7/3 に多い複数	3mm以下の石英・長石を含 む	良	外間に黒斑
147	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	西	(17.0)	—	(3.0) ヨコナデ、ヘラミガキ、ナデ、工具	ヨコナデ、ヘラミガキ	10YR6/4 混凝質 10YR6/7.1 混凝質	1mm以下の石英・長石を含 む	良	
148	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	東	—	(4.8)	ヘラ横沈縫6条、斜目、無縫	無縫	7SYR6/4 混凝質 7SYR7/4 に多い複数	3mm以下の石英・長石・赤色 鉄を多量に含む	良	
149	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	東	—	(8.5)	ナデ	ナデ、ヘラミガキ	10YR7/2 に多い複数 10YR7/2 混凝質	1mm以下の石英・長石を含 む	良	内間に黒斑(被膜底) 付着
150	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	東	(20.0)	—	(7.0) 斜目、ヘラ横沈縫5条、ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、ナデ、板ナデ、斜 ナデ	7SYR6/4 混凝質 7SYR5/4 に多い複数	1mm~3mm程度の石英・長 石・雲母を含む	良	
151	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	東	(24.0)	—	(4.25) ヨコナデ、ヘラ横沈縫、山形文	山形文	10YR6/3 に多い複数 10YR6/4 に多い複数	4mm以下の石英・長石を含 む	良	
152	SD2-1 (下層)	弥生土器	東	(22.4)	—	(2.95) 斜目、ヘラ横沈縫4条、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ、ヨコナデ	7SYR7/2 に多い複数 7SYR7/3 に多い複数 7SYR7/4 に多い複数	3mm以下の石英・長石・黒色 鉄・赤色鉄を含む	良	
153	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	東	(21.3)	—	(2.4) ナデ、斜目、ヘラ横沈縫2条	ナデ	SYR6/3 混凝質 7SYR3/6 混凝質	1mm以下の石英・長石・赤色 鉄を含む	良	
154	SD2-1 (下層)	弥生土器	東	(28.4)	—	(9.2) ヨコナデ、ナデ、ハタ、ヘラミガキ、 無縫、ヘラ横沈縫6条	ヨコナデ、ヨコナデ後へラス ジ、ヘラミガキ	10YR6/3 に多い複数 10YR7/3 に多い複数	3mm以下の石英・長石を含 む	良	
155	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	東	—	(3.75)	ヘラ横沈縫3条、無縫	無縫	2.5SYR7/3 混凝質 10YR7/3 混凝質	1mm以下の石英・長石を含 む	良	
156	SD2-1 (下層)	弥生土器	東	(16.6)	—	(8.2) 斜目、ヘラ横沈縫9条、粘付實 縫、ヨコナデ、ハタ後ナデ	ヨコナデ後ナデ	10YR7/1 黑斑 10YR4/6 混凝質	3mm以下の石英・長石を含 む	良	
157	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	東	—	(4.7)	ヨコナデ、ヨコナデ、斜目、ヘラ 横沈縫6条	ヨコナデ、ヘラミガキ、指オサエ	SYR6/6 混凝質 10YR4/4 に多い複数	1mm以下の石英・長石を含 む	良	
158	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	東	—	(4.1)	ヨコナデ、ヘラ横沈縫3条	ヨコナデ、ヘラミガキ	10YR7/2 黑斑 10YR7/2 混凝質	1mm以下の石英・長石を含 む	良	外間に斜材
159	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	東	—	(2.0)	ヨコナデ、斜目	ヨコナデ	7SYR6/4 に多い複数 10YR7/3 に多い複数	1mm以下の石英・長石を多 量に含む	良	
160	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	東	(24.2)	—	(3.7) ヨコナデ、板ナデ後ナデ	板ナデ後ヘラミガキ	10YR6/3 に多い複数 10YR8/4 に多い複数	3mm以下の石英・長石・黒色 鉄を含む	良	
161	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	東	—	(5.6)	ヨコナデ、斜目、ヘラ横沈縫4条	ヨコナデ、板ナデ	10YR7/2 に多い複数 10YR7/2 混凝質	1mm以下の石英・長石を含 む	良	
162	SD2-1 (下層)	弥生土器	東	—	(8.4)	ナデ	ナデ	10YR7/4 に多い複数 10YR4/6 混凝質	4mm以下の石英・長石を含 む	良	内間に工具痕
163	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	東	—	(6.7)	板ナデ、ナデ	板ナデ、ナデ	7SYR6/4 に多い複数 7SYR5/4 に多い複数 7SYR6/6 混凝質	2mm以下の石英・長石を含 む	良	画面幅、屢々にモザイク
164	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	東	—	(8.6)	ナデ、ヘラナデ	ナデ、ナデ	10YR7/3 に多い複数 SYR5/6 明瞭	4mm以下の石英・長石を含 む	良	画面幅にヘラ記号様 のものがある
165	SD2-1 (下層)	弥生土器	東	—	(8.4)	ナデ	ナデ	10YR7/4 に多い複数 10YR4/6 混凝質	3mm以下の石英・長石を含 む	良	
166	SD2-1 (下層)	弥生土器	東	—	(8.7)	板ナデ、ナデ	板ナデ、ナデ	7SYR6/4 に多い複数 7SYR5/4 に多い複数 7SYR6/6 混凝質	2mm以下の石英・長石を含 む	良	画面幅にヘラ記号様 のものがある
167	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	東	—	(8.6)	ナデ、ヘラミガキ	ナデ、ヘラミガキ	10YR7/3 に多い複数 10YR7/3 に多い複数	1mm以下の石英・長石を含 む	良	
168	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	東	—	(7.8~7.9)	[10.1] ヘラケリ後ナデ後、傾方向の ナデ	1方向の指ナデ	7SYR7/6 混凝質 SYT7/6 混凝質	3mm以下の石英・長石を多 量に含む	良	
169	SD2-1 (下層)	弥生土器	東	—	11.2	(4.5) ナデ、ヘラミガキ	ナデ、ヘラミガキ	10YR7/3 に多い複数 SYR6/6 混凝質	1mm以下の石英・長石を多 量に含む	良	底部にモザイク・黒斑
170	SD2-1 (下層)	弥生土器	東	—	(9.8)	(6.70) ナデ、ヘラミガキ	ナデ、指オサエ	10YR7/4 に多い複数 10YR8/6 黑斑	3mm以下の石英・長石を含 む	良	底部にモザイク
171	SD2-1 (下層)	弥生土器	東	—	(10.4)	(6.8) ヘラミガキ、ナデ、斜目	ヘラミガキ、ナデ	SYR6/6 混凝質 SYR6/6 明瞭	3mm以下の石英・長石を含 む	良	
172	SD2-1 (下層)	弥生土器	東	—	11.2	(7.4) ナデ、ヘラミガキ	指オサエ、ナデ	7SYR7/6 増 7SYR6/6 混凝質	4mm以下の石英・長石を含 む	良	
173	SD2-1 (下層)	弥生土器	東	—	(3.25)	板ナデ	ナデ	10YR7/3 に多い複数 10YR6/2 混凝質	1mm以下の石英・長石を含 む	良	
174	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	西	—	河井田組 (6.4)	(2.1) ナデ、板ナデ	横縫圧、板ナデ、ナデ	10YR7/2 混凝質 10YR7/4 に多い複数 10YR6/4 混凝質	1mm~3mm程度の石英・長 石・雲母を含む	良	外間に斜材
175	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	西	—	河井田組 5.0	(2.45) ナデ、指オサエ	指オサエ	10YR7/3 に多い複数 10YR6/4 混凝質	2mm以下の石英・長石を多 量に含む	良	
176	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	西	—	河井田組 6.8	(6.15) ナデ、ヘラミガキ	ナデ	10YR7/2 に多い複数 SYR6/6 混凝質	1mm以下の石英・長石を含 む	良	
177	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	西	—	(6.6)	ハケ	摩滅(一部に板ナデ)	10YR7/2 黑斑 10YR7/2 混凝質	3mm以下の石英・長石を含 む	良	外間に斜材
178	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	西	—	(5.3)	ハケ	指付圧後ナデ	7SYR6/4 に多い複数 7SYR6/4 に多い複数	2mm以下の石英・長石を含 む	良	
179	SD2-1 (下-最下層)	弥生土器	西	—	(3.8)	ナデ、ヘラミガキ	ナデ、ヘラミガキ	10YR7/4 に多い複数 10YR7/4 に多い複数	3mm以下の石英・長石を含 む	良	
180	SD2-1 (下層)	弥生土器	西	—	(9.8)	辻植1条、粘付実縫、斜目、ヨコ ナデ、ナデ、ヘラミガキ	ヨコナデ、ヘラミガキ、ナデ、 指オサエ	10YR7/2 混凝質 7SYR6/4 に多い複数	3mm以下の石英・長石・金雲 母・赤色鉄を含む	良	
181	側溝	弥生土器	西	—	(3.25)	ナデ、斜目	ナデ	10YR7/2 黑斑 10YR7/1 混凝質	3mm以下の石英・長石を含 む	良	

番号	遺跡名	地名	目録	測量			測量	測量	測量	測量	測量
				位置	位置	位置					
182	SD2-f	弥生土器	妻	-	-	[3.2]	ナデ	ヘラミガキ	5.5mR/6 縦 5.5mR/6 橫 5.5mR/6 橫	0.5m~4.5m程度の石英・ 長石を含む	良
183	倒溝	弥生土器	妻	-	-	[3.8]	貼付骨突、ヘラミガキ、ナデ	ナデ、指屈屈	5.5mR/6 縦 10mR/6 橫	4m以下の石英・長石・無色 長石を含む	良 工具による押圧
184	側溝	弥生土器	妻	-	-	[2.8]	ナデ、貼付骨突	ナデ	10mR/4/1 横屈 10mR/4/1 横屈 10mR/4/1 横屈	3m以下の石英・長石を含 む	良
185	側溝	弥生土器	妻	(18.2)	-	[5.8]	削留、ヘラ彌次継11条以上、山 形文、ナデ	摩滅	7.5mR/4/1 横屈 10mR/4/1 横屈	2m以下の石英・長石・無色 長石を含む	良
186	倒溝	弥生土器	妻	(27.6)	-	[8.5]	ヘラ彌次継10条、山形文、ナデ、 ナハ	ナハ、ナデ、指ナデ	10mR/4/1 横屈 10mR/4/1 横屈 10mR/4/1 横屈	0.5m~2.5m程度の石英・ 長石を含む	良
187	SD2-1	弥生土器	妻	(27.6)	-	[12.8]	削留、ヘラ彌次継6条、ヨコナデ、 ナハ	稚才サエ後ナデ	2.5mR/6 濃黄 2.5mR/6 濃黄	2m~3m程度の石英を含 む	良
188	倒溝	弥生土器	妻	-	-	[5.5]	削留、根張直線文16条、摩滅	摩滅	10mR/4/1 横屈 10mR/4/1 横屈	4m以下の石英・長石を含 む	良
189	SD2-1	弥生土器	妻	-	-	[8.4]	ヘラ彌次継4条、ナハ	ナデ、ヘラミガキ	2.5mR/8 淡白 10mR/7/2 淡い黄緑	1m以下の石英・長石を含 む	良 外面に黒斑
190	SD2-1	弥生土器	妻	-	-	[1.7]	削留、ヘラ彌次継3条、ヨコナデ、 ナハ	稚才江、ヨコナデ、ヘラナデ	10mR/3/横屈 7.5mR/5/4 横屈	2m以下の石英・長石を含 む	良
191	倒溝	弥生土器	妻	-	-	[2.8]	ヨコナデ、花オサニ、ナハ	ナデ、板ナデ	10mR/2/2 横屈 7.5mR/4/1 横屈	2m以下の石英・長石・無 色を多量に含む	良
192	SD2-1	弥生土器	妻	-	-	[2.4]	削留、ヘラミガキ	ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ	10mR/6/1 横屈 10mR/7/1 横屈	1m~4m程度の石英・長石 を含む	良
193	倒溝	弥生土器	底部	-	9.2×7.8	[6.0]	ナハ、ナデ	摩滅	10mR/3/3 淡い黄緑 10mR/3/3 淡い黄緑	3m以下の石英・長石・無 色を含む	良
194	倒溝	弥生土器	底部	-	(12.4)	[3.2]	摩滅	摩滅、ナデ	7.5mR/8/6 横 7.5mR/8/6 横	5m~10m程度の石英・ 長石を含む、1m程の赤 色を含む	良 底部に毛膜
195	SD2-1	弥生土器	底部	-	10.5	[3.2]	摩滅(一部に板ナデ)	摩滅	7.5mR/7/4 横屈 10mR/7/4 淡白	4m以下の石英・長石・無 色を含む	良 体部に埋付箇
196	倒溝	弥生土器	底	-	(6.0)	[20.6]	ヘラ彌次継、説文文、板ナデ後 ナデ、ナハ	ナデ、ナハ、ヘラミガキ、 ヘラナデ	5.5mR/6 濃黄 7.5mR/4/6 濃黄	1m~5mの石英・長石・無 色を含む	良
197	倒溝	弥生土器	底	天井脚部 (9.8)	-	[3.7]	ナデ	ナデ	7.5mR/2/1 横屈 10mR/3/3 淡い黄緑	4m以下の石英・長石・無 色を含む	良
221	SK2-1	弥生土器	妻	(19.4)	-	[4.2]	ヘラ彌次継2条、ナデ	板ナデ後ナデ	10mR/7/4 淡い黄緑 10mR/7/4 淡い黄緑	1m~4mの石英・長石・無 色を含む	良
222	SK2-1	弥生土器	妻	-	-	[4.0]	ヘラ彌次継6条、摩滅	ナデ	7.5mR/7/6 横 7.5mR/6 横	1m~4mの石英・長石・無 色を含む	良
223	SK2-1	弥生土器	妻	(21.6)	-	[8.5]	削留、ヘラ彌次継、ナハ後削留	ナデ	7.5mR/5/3 横屈 10mR/3/3 淡い黄緑	1m~3m大的石英・長石 を含む	良
224	SK2-1	弥生土器	妻	(40.4)	-	[11.7]	ナハ	ナデ	7.5mR/5/4 淡い黄緑 7.5mR/3/3 淡い黄緑	1m~3m大的石英・長石を 含む	良
225	第2面上面	弥生土器	妻	(21.2)	-	[4.8]	削留、ヘラ彌次継10条、棒オサ 後ヨコナデ	ナデ	10mR/6/4 淡い黄緑 10mR/7/4 淡い黄緑	1m~3mの石英・長石・無 色を含む	良
226	第2面上面	弥生土器	妻	-	-	[7.2]	ナデ、ヘラミガキ	ナデ	10mR/2/1 黒 10mR/2/3 淡い黄緑	1m~3m大的石英・長石・無 色を含む	良
227	第2面上面	弥生土器	妻	-	-	[10.8]	ヘラ彌次継ヘラミガキ	ヘラナデ後ヘラミガキ	10mR/7/4 淡い黄緑 7.5mR/6/4 淡い黄緑	1m~3m大的石英・長石・無 色を含む	良
228	第2面上面	弥生土器	底部	-	(10.4)	[4.4]	摩滅	ナデ	7.5mR/7/6 横 5.5mR/8/6 横	1m~3m大的石英・長石・無 色を含む	良

番号	出土遺物名	名称	法線(cm)			裏さ	備考
			長さ	幅	厚さ		
198	SD2-1(上～中層)	規則石器 右性	4.3	7.2	1.6	57.8	規則石器頭部あり
199	SD2-1(上～中層)	規則石器	5.8	5.0	1.2	40.9	
200	SD2-1(上～中層)	規則石器	8.3	4.6	1.1	35.1	
201	SD2-1(上～中層)	スクレーパー	5.0	3.7	0.55	8.3	
202	SD2-1(上～中層)	剥片 RF	3.2	4.6	0.5	17.2	折筋あり
203	SD2-1(上～中層)	RF	3.5	3.2	0.4	6.3	二次加工工具あり
204	SD2-1(上～中層)	剥片	4.1	3.8	0.8	9.2	剥離石器底座あり
205	SD2-1(中層)	圓盤石器左刃	[4.4]	[4.5]	0.8	15.7	洗浄後 使用感あり
206	SD2-1(中層)	打製石器	6.45	5.5	2.6	167.4	使用感あり
207	SD2-1(中層)	スクレーパー	5.4	3.8	0.55	19.8	
208	SD2-1(中層)	スクレーパー	3.9	5.3	1.0	16.8	
209	SD2-1(中層)	スクレーパー	5.75	3.45	0.85	15.9	
210	SD2-1(中層)	スクレーパー	3.7	5.85	1.45	18.3	微細剥離底座あり
211	SD2-1(中層)	剥片(MF)	3.25	5.6	0.6	10.5	微細剥離底座あり
212	SD2-1(中層)	剥片	2.95	3.65	0.8	4.8	微細剥離底座あり
213	SD2-1(下層)	剥片	3.7	3.8	0.45	7.5	使用感あり
214	SD2-1(下～最下層)	スクレーパー	8.75	1.5	0.7	58	微細剥離底座あり
215	SD2-1(下～最下層)	根の剥片	2.5	5.0	0.9	12.5	微細剥離底座あり
216	SD2-1(下～最下層)	剥片	3.8	4.0	0.8	6.3	微細剥離底座あり
217	SD2-1	スクレーパー	7.0	4.5	1.1	22.4	
218	SD2-1	打製石器左刃	[4.5]	4.0	1.05	19.5	背つぶし加工
219	SD2-1	打製石器片	3.6	3.8	0.6	8.7	使用感あり
220	SD2-1	剥片	3.2	4.9	0.4	6.3	二次加工底
228	第2面上面	弥生土器	4.5×4.7	-	0.8	19g	内外面:摩滅 7.5mR/6 横 1m~3m大的石英・長石を含む

写真図版



1・2区 第1面完掘(南東から)



1・2区 第2面完掘(西から)



1・2区 第1面完掘(西から)



3区 第2面完掘(東から)



3区 第1面完掘(東から)



3区 第2面完掘(北西から)



1・2区 第2面完掘(南東から)



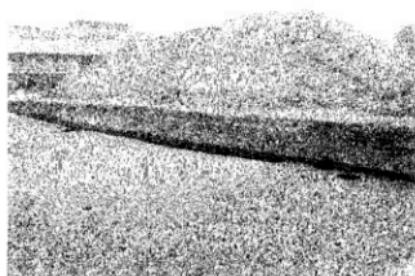
S I 2-1~3 (西から)

写真図版

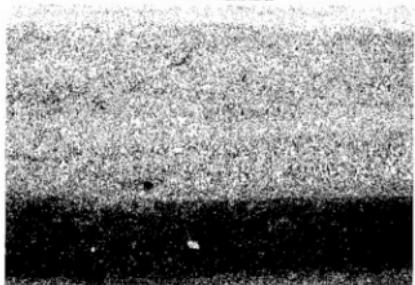
2



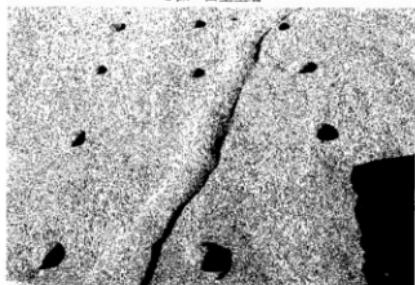
1・2区 北壁土層



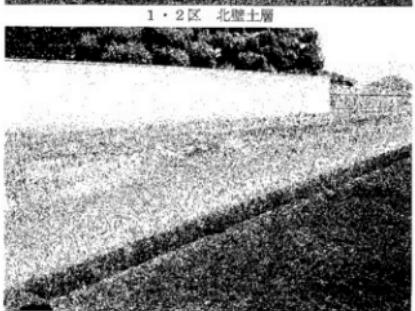
3区 西壁土層



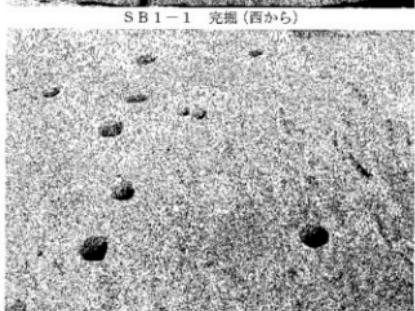
1・2区 北壁土層



SB 1-1 完掘(西から)



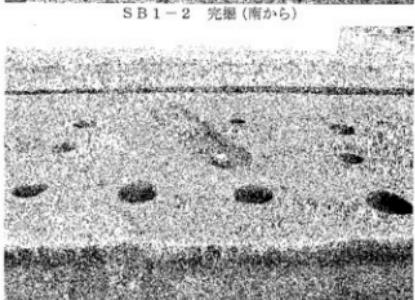
3区 北壁土層



SB 1-2 完掘(南から)

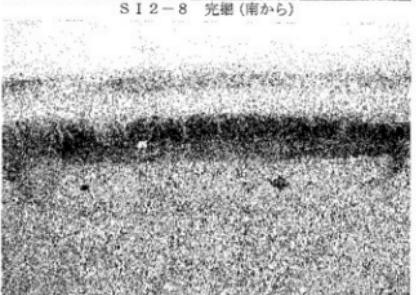
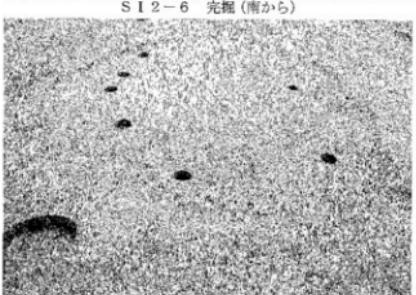
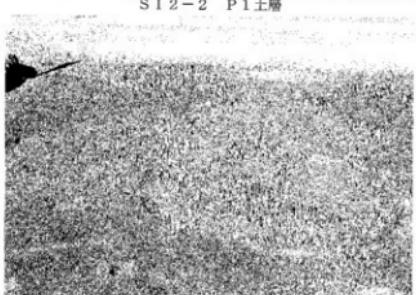
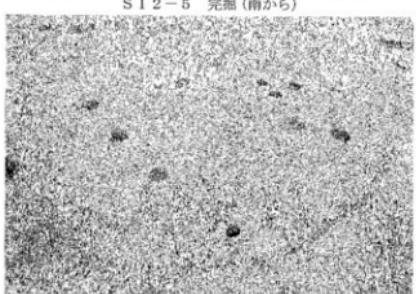
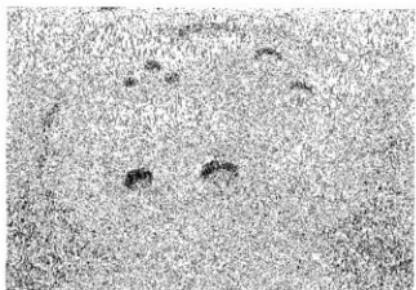


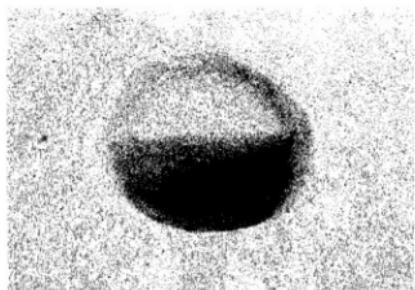
1区 東壁土層



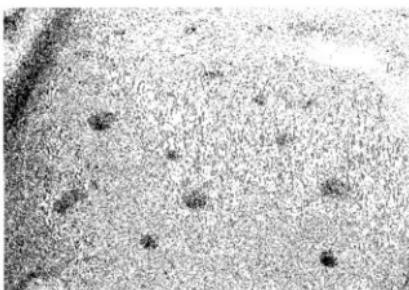
SB 1-3 完掘(南から)







SB 2-1 P3 土層



SB 2-2 完掘 (東から)



SB 2-1 P8 土層



SA 2-2 P1 土層



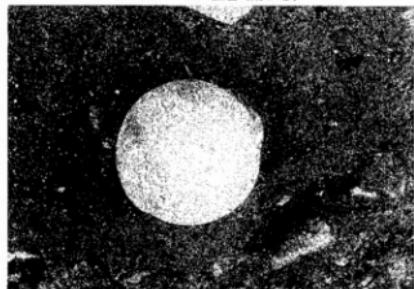
SB 2-1 完掘 (南から)



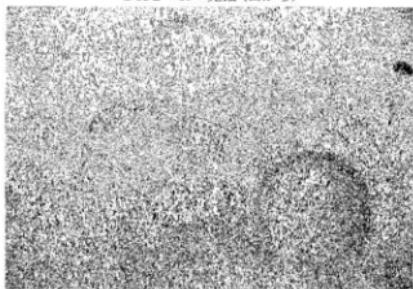
SD 2-1 土層 (南から)



SK 2-19 完掘 (西から)



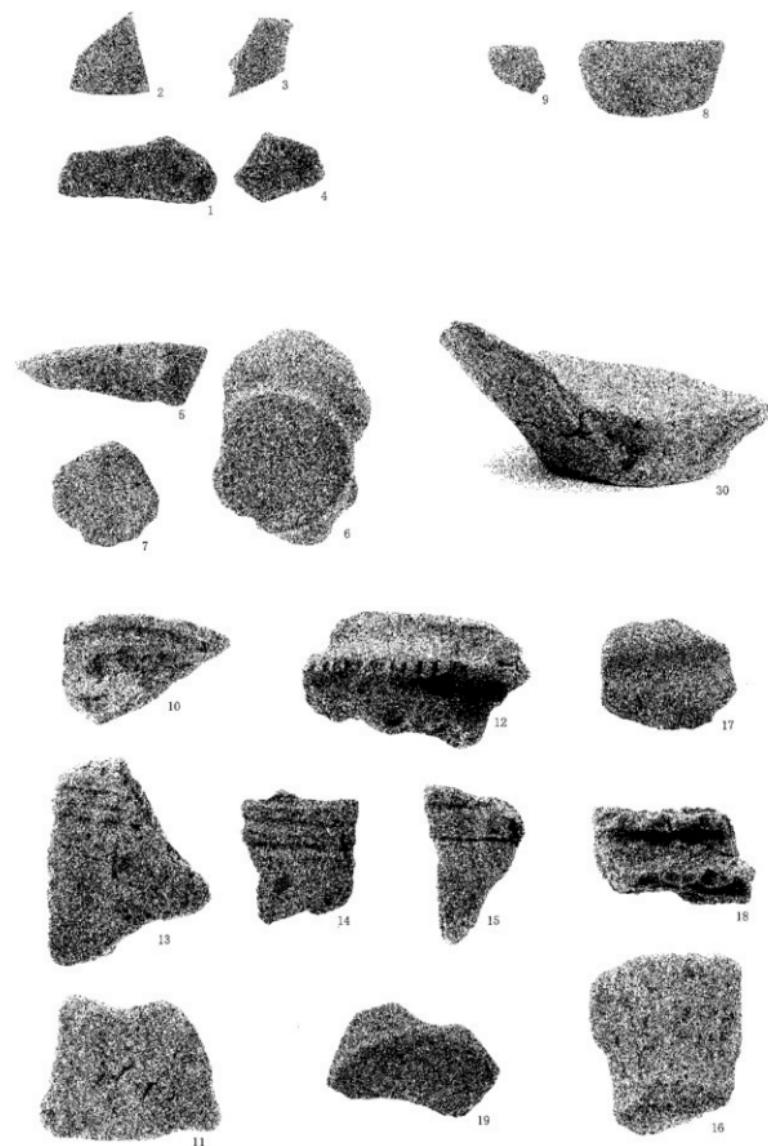
SD 2-1 土器出土



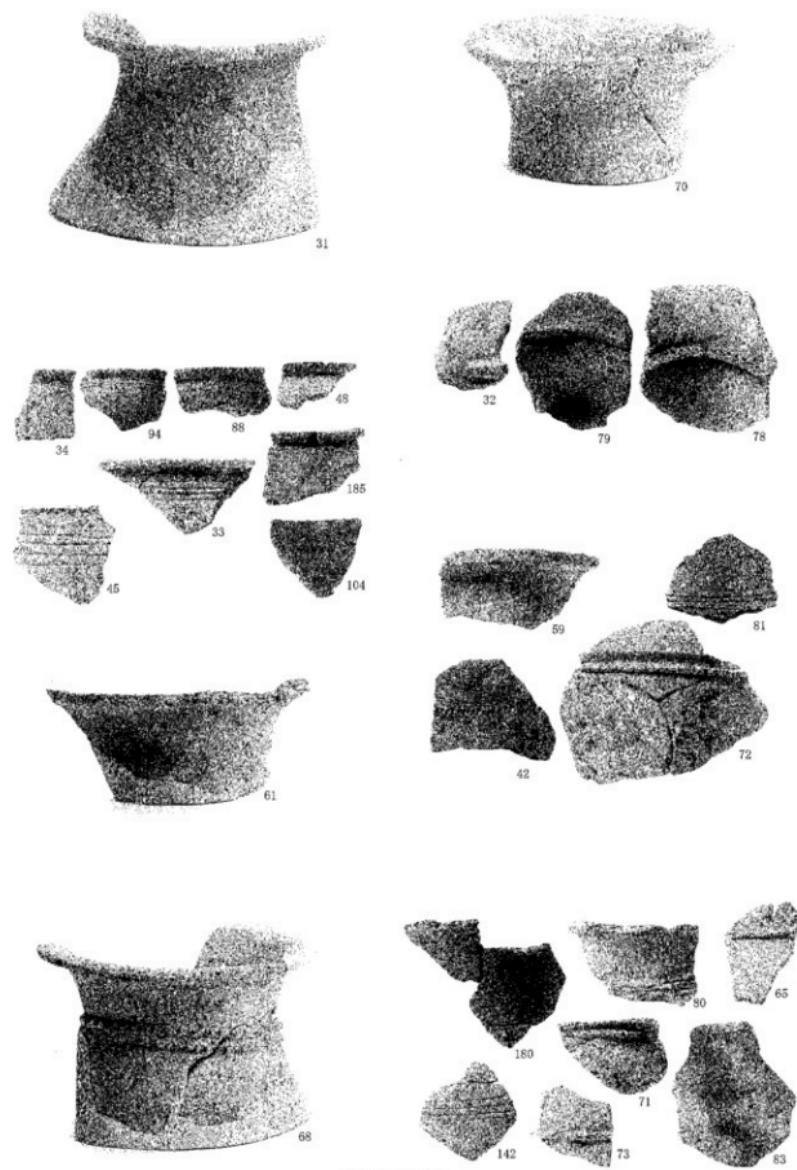
SK 2-22～24 完掘 (南から)



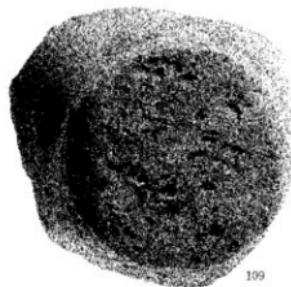
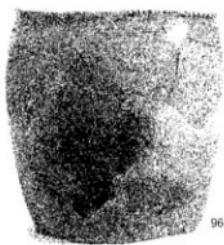
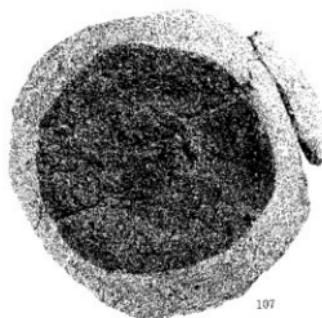
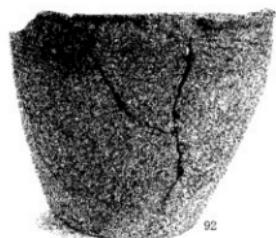
SD 2-1・SA 2-1 完掘 (南から)



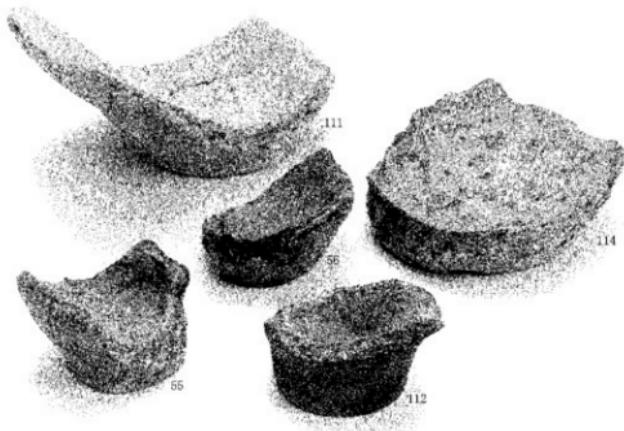
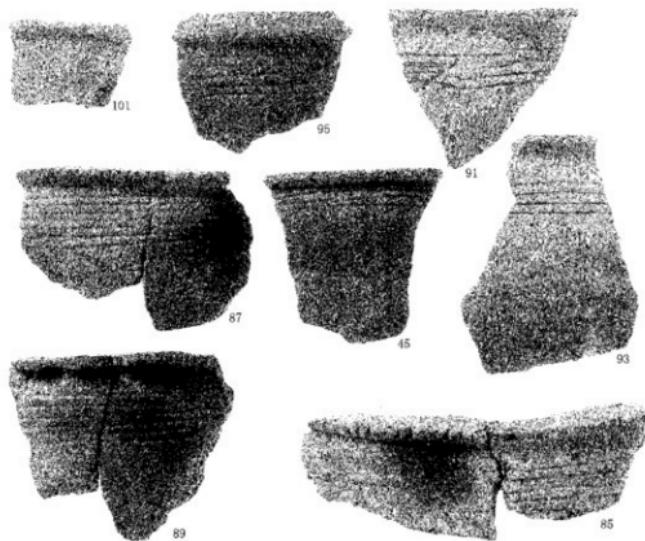
出土遺物（1）



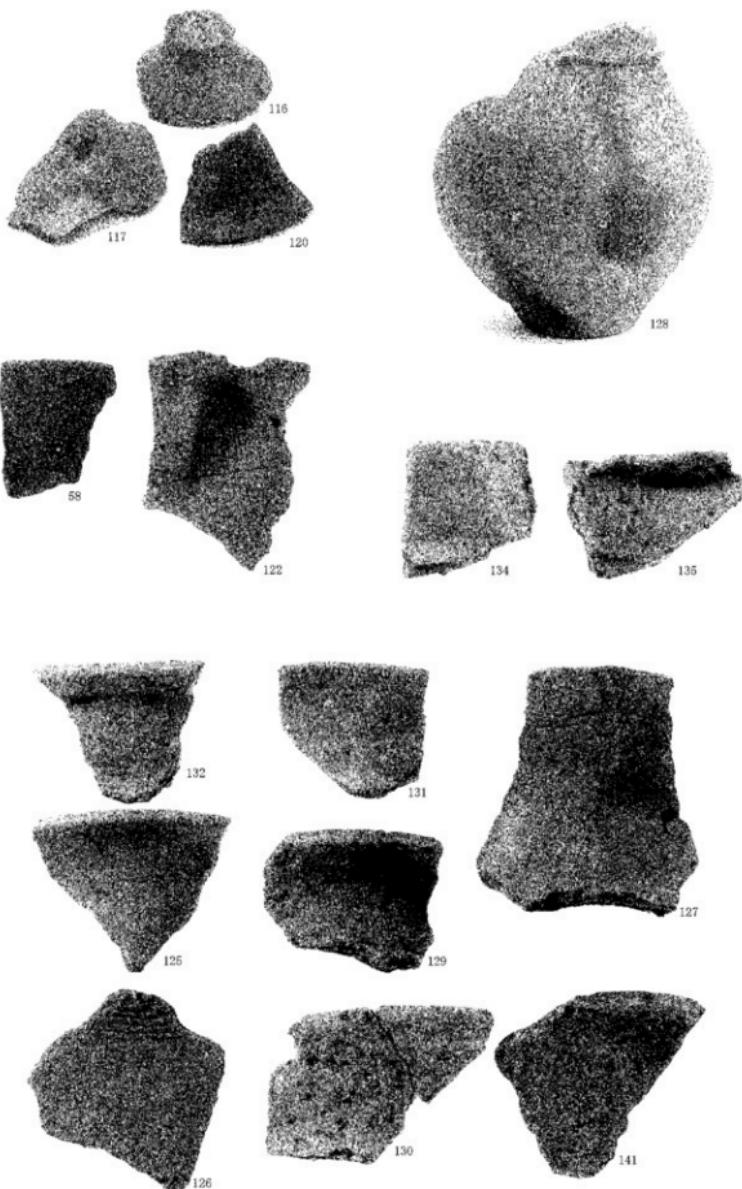
出土遺物(2)



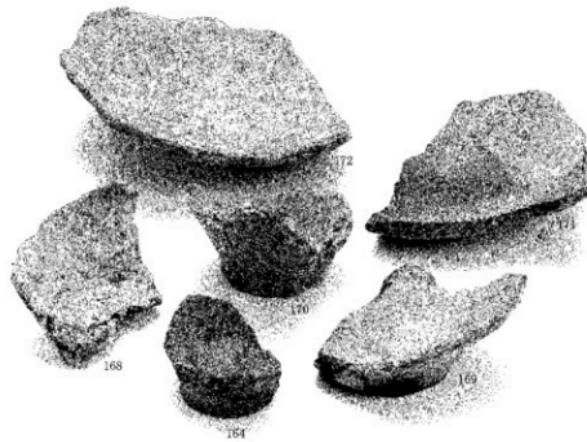
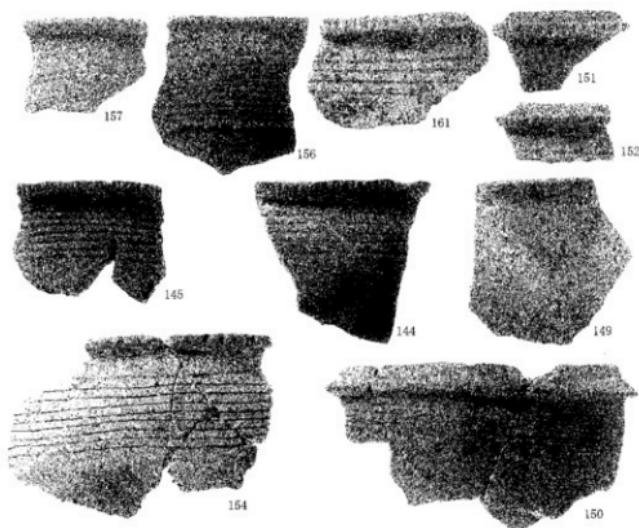
出土遺物（3）



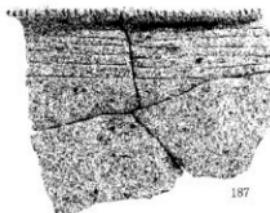
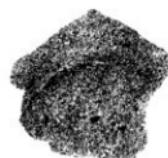
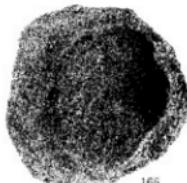
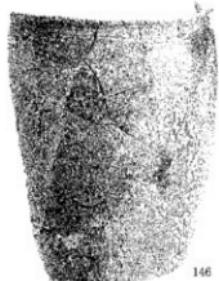
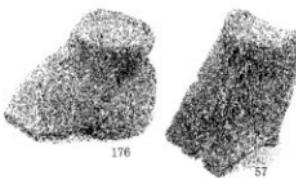
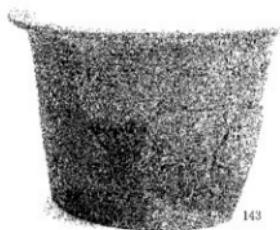
出土遺物（4）



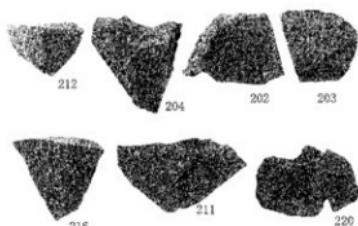
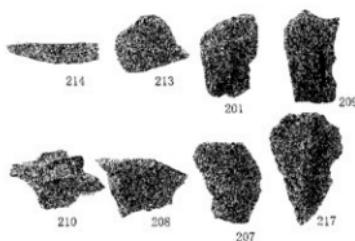
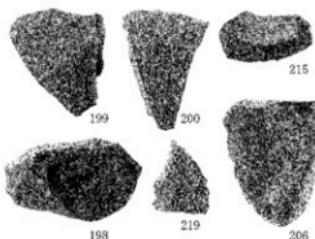
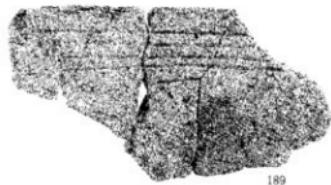
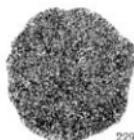
出土遺物（5）



出土遺物（6）



出土遺物（7）



出土遺物(8)

報 告 書 抄 錄

大野地区統合保育所用地埋蔵文化財発掘調査報告書

北口遺跡

平成 29 年 3 月 21 日

編集・発行 高松市教育委員会
高松市番町一丁目 8 番 15 号
印 刷 藤田印刷株式会社
高松市北浜町 4 番 5 号